# 朝鮮人ノ風俗習慣ニ關スル調査資料

ヲ6
3099

# 朝鮮人ノ風俗習慣ニ関スル調査資料

# 風俗習慣

大正十年十二月 朝鮮及支那研究家に

（中村寄稿）

朝鮮總督府中樞院

# 風俗習慣

朝鮮に於ては開國五百三年改革の時に至るまで兩班、常民、賤人の區別を認めたり兩班は即ち文班及武班にして嘗て文武の官に任じたる者の一族を稱し宗親、儀賓も此の中に加へ又中人と稱する細別を生じ内醫院、觀象監、典醫監、司譯院、圖畫署、惠民署の官員及戸曹の算學官、刑曹の律學官、承文院の寫字官等之に屬し更に兩班の後裔にして長く地方に住じ官職に就かざる者を士班と稱したり。常民は農商工之に屬し官衙の書吏、營吏、郷吏、假吏、書員等亦之に屬す。賤民は公賤、私賤に分ち公賤は官奴婢、官妓、皂隷、羅將、日守軍、漕水軍、烽軍、驛卒、獄卒等にて婢僕、白丁、

朝鮮總督府中樞院

ヲ 6
3099

朝鮮總督府中樞院

巫覡、俳優、娼女等を私賤としたり。然れども改革後の際其の區別を廢し今日に於ては王族、貴族のみの身分を認め其の他は一般人民として何等の名稱を附せず。
往古朝鮮には支那文物の輸入と共に儒佛二教の傳播を見しが儒教は修身齊家治國平天下の學として士大夫より庶人に至るまで一般に之を講究し又老荘より出でたる道教あり風水(地相の)説と共に新羅の時より傳來し隠然勢力を有したり高麗の末朱熹の學説入傳し朝鮮代に及びては儒教を以て國教と為し文廟の制を擴張して到る處鄕校の設置を見ざるなきに至りしも佛教は之を疎外し寺刹の創設を禁じ僧尼は一種の賤民として待遇せしが今は其の區別を認めざるに至れり而して朱子學の弊は遂に老成派と少壯派との論爭を生じ國を擧げて唯だ性理の學に沈溺せしめたり。
家屋には從來瓦家、草屋、石葺、木皮葺等の數種あり、大抵温突と稱し、石を以て床下に火坑を築造し土を以て床を塗り、朝夕燃火して暖を取れり。家屋の構造は土石を混じたる墻壁を以て築き通例二重の門を設け、婦人の居室たる内房、男子の客室たる舍廊及越房、廚房、庫間、下人房等に分ち、又別に祖先の神主を安置する祠堂を設くるものあり。宮殿、官衙、廟、壇、祠、院、寺刹等は其の建築宏壯なるも民家は富豪の外大抵矮小なる草屋に過ぎず。

朝鮮總督府中樞院
朝鮮總督府中樞院

衣服の地質は大抵綾紗、紬、苧、麻及木綿を用ゐ、男子は筒袖の上衣及袴を着く又襯衣を上衣の下に着け、周衣を重ね、漆笠を被り、腰に巾囊、革匣を着け、鞋を履き、四時襪を解かず吐手を箝め、扇を携ふる風あり。古昔は白衣を禁ぜしことありしが、今尚ほ好みて之を用ふ。又従前に在りては官員の禮服あり。角帯を纏ひ、紗帽を戴き、靴を穿ちしも、今は一般婚儀の禮服として之を用ふるのみ。雨日には油衫を着け油鞋又は木履を穿ち笠帽を掩ひしが、近来靴を穿ち傘を用ふるに至れり。

女子は上衣を着け、袴を重ね、更に裙を纏ふ。鞋を穿つも、周衣は多く用ゐず。従前には襟に飾環及刀子を結び

朝鮮總督府中樞院



しも今は新婦のみ之を用ふ。指環を箝め又吐手を穿ち襪を用ふること男子に異らず。而して外出には轎に乗り又は長衣を被りしが、近年之を用ふる者減少せり。又平安、咸鏡四道の地方に於ては竹笠を被り、或は手巾を頭に纏ひ、平安南道地方には未婚の女が耳に環を附するの風あり。

食は米飯を常食とし、獣肉、魚肉、蔬菜等の類を調理して副食物と為し、膳は脚床を用ゆ。器皿に鍮器、銅器、陶器の種類あり、輸器は多く冬季に用ゐ陶器は春、夏、秋の季節に用ゆ。粟飯には銀、銅、鍮の匙を用ゐ、副食物には必ず箸を用ゆ。又飯には熟冷を注ぎて食する習あり。汁を嗜み食物には蕃椒、蒜

朝鮮總督府中樞院

等を和し、調理したる大根又は白菜の沈菜を最も愛用す。山間に在りては多く粟、稗、黍等の類を食し、寺刹にては山菜、木実、草根等を食す。
酒は在来のものに火酒、薬酒、濁酒等あり、漸く清酒、洋酒の類を用ゆるに至れり。又男女共に好みて喫煙を為す。
従前に於ては男子は必ず冠禮を行ふ習あり。冠禮は童幼成人と為るの禮にして本来は齢十五を過ぎて之を行ふ制なりしも風俗早冠を競ひ十一二歳にして之を行ふ者あり。又冠禮は婚約成ると同時に之を行ふ例なるを以て娶妻の資なき者は壮年を過ぎて尚ほ冠禮を行はざる者あり。

朝鮮總督府中樞院



而して冠禮を行ふ前に在りては皆髪を編みて後に垂れ、之を總角と稱す。而して冠禮を行ひたる後は髻を結び、額に網巾を纏ひ笠子を戴きたり。然れども今は斷髪を為す者多く冠禮は唯だ一片の儀式として之を行ふに過ぎず。
女子には笄禮あり、男子の冠禮に相當す。未嫁の女は髪を編みて後に垂るると男子に異らず。然るに婚禮の日に至れば其の旦を以て髪を結び、簪を挿む、之を笄禮と云ふ。而して既婚の女は常に髪を結ぶを以て自ら未婚の女と區別し得べし。
婚姻は女が男の家に入るを本則とし、例外として男が女の家に同居することあり、之を招婿又は贅婿と稱

朝鮮總督府中樞院

ず。而して朝鮮には婿養子、入夫等の習なし。近親間及男系の血族間に於ける通婚を避くることは嚴格に行はれ、男系の血族は幾世を経るも断じて婚姻を為さず。男系の血族なると否とは姓及本に據りて之を別つ。即ち人の姓は父の姓に因りて定まり、身分及戸籍に移動あるも変更せず、故に父子は常に同姓にして男系の血族は皆同姓なり。然れども男系の血族にあらずして同姓の者あるを以て別に本を稱す。本は族祖の出でたる地名にして血族に非ざる同姓は大抵本を異にするより、本及姓の同しき者は皆男系の血族なり。而して本及姓は之を戸籍に登録し、初對面の挨拶にも互に之を問ふを常とす。

朝鮮總督府中樞院

一夫一妻は儒教に於ける婚姻の本義にして、婚姻は必ず一男一女の間に成立するものなるも、婚姻の目的は後継子を得て祖先の祭祀を絶たざるに在りとし此の趣意に於て子なき者は妾を娶ることを許せしが遂に滔滔として風を成し一人にして数妾を蓄ふる者あるに至れり。但し近年漸く之を改むるの氣運に向へり。

婚姻を為すには父祖又は長上之を主婚者と為し其の合意を婚姻成立の要件と為せしが、近時漸く當事者の意思を尊重する傾向を生じたり。又婚約前に於ける會見の習なきを以て男女は行禮の日に至り始めて相見るのみ。婚姻の儀式は女家に於て行ひ、其の夕新夫は新婦を伴ひ歸りて父母に見えしめ、更に女家に至

朝鮮總督府中樞院

り留宿すること三日にして歸家するを例とす。
婚姻の年齢は旧制男子十五歳女十四歳以上なりしが、早冠を競ひ冠禮は婚約成りて後之を行ふより、遂に男子早婚の風を馴致し、女子は十五六以上を通例とするも男子は十四五歳以下にして婚姻を為す者稀なりとせず。唯だ現今実際の取扱としては男満十七歳以下女満十五歳以下の婚姻届を受理せず。慣習に従ひ有效に婚姻を為したる者の間に生れたる子と雖父母が此の年齢に達するまでは庶子として戸籍に登録することとせり。
離婚には妻七去の制あり又三不去の法ありしも現今は行はれず。
寡女の再嫁は嘗て之を禁じ世人亦之を卑みしが、開國

朝鮮總督府中樞院



五百三年其の禁を解けり。
儒教に依れる朝鮮の葬式は親戚知音のみにて行ひ、神官僧侶の之に干與することなし。又火葬は最も忌む所にして皆土葬を為し、夫妻は大抵合葬す。棺は權棺を用ひ大抵先山に葬るも又別に地區を選ぶこともあり、風水地相の説古より傳はり、朝鮮代に至りては最も之を重しとするに至りしが今尚ほ其の習全く改まらず。又従前には身分品階等に依り墓地の界限に方十歩より百歩まで差を設けしが、現今に於ては共同墓地を定め、同時に各戸三百坪以内の特設墓地を許せり。
喪は五服の制を守り、三年より三月に至る。五服は斬衰、齊衰、大功、小功及緦麻にして斬衰は粗麻を用ひ下邊

朝鮮總督府中樞院

を緝縫せず期間は三年にして父の喪に子此の服を着く。齊衰は粗麻を用ひ下邉を緝縫す期間は三年、一年、五月、三月にして齊衰三年は子、母の為めに之を着け、齊衰一年は父に先ちたる母の為めに子之を着け、齊衰五月は曽祖父母、三月は高祖父母の為めに之を着く。大功は粗練の麻布を用ひ期間は九月にして従兄弟、従姉妹、衆孫男女、衆子婦、妻夫の祖父母の為めに之を着く。小功は稍や細練の麻布を用ひ、期間は五月にして従祖父、大姑、従孫、従姪、従伯叔父母、従姑、外祖父母、長孫婦等の為めに之を着く。緦麻は熟布を用ひ期間は三月にして再従祖、再従大姑、従曽孫、再従孫、曽孫、玄孫、外孫、三従兄弟姉妹、衆孫婦等の為めに之を着く。

祖先の祭祀は儒教の最も重しとする所にして久しく儒教の感化を受けたる朝鮮に於ては亦最も之を尊重せり。而して通例四代までの神主を祠堂に於て祀り、五代以上は之を墓所に埋安し、秋季の丁日又は亥日に墓祭を行ふ。

朝鮮に於ける相續は祭祀の承継を主たる目的とし、家系の承継は同時に祭祀者たる地位の承継となるなり。而して之を承継するものは男系の長男子にして、之れなきときは長孫承重を為し、長男子孫未婚の儘死亡する時は次男子孫之を承継す。又男子孫なきときは同族より養子を為し之を承継者とす。而して養子は

朝鮮總督府中樞院

養父となる者の子の列に當る者に限り、女子の養子を認めず。男子孫なく又養子を為すことを得ざるときは茲に家系の断絶を生じ、一家の絶滅を来すものとす。

朝鮮總督府中樞院

# 内房及外房ニ關スル風習調査報告書

朝鮮總督府中樞院

第一 内房及ヒ外房ニ関スル習慣

凡例

凡ソ韓国人民ノ頭ニハ物ノ区別カ甚数ノ處中ニ一般酷ノ区別ハ男子女子ノ区別テアル而シテ昔ノ書籍ノ中ニモ男女七歳ニナレハ同席スヘルコト出来ナイト云フ語カアル故ニ昔ヨリ固ク之ヲ守ルノテ決シテ此ノ区別ヲ害シナイノテアル又ハ或書物ニハ男子ハ内房ニ住キ外房ハ事情ヲ話スルコトハ不可ト云フヲ従ツテ女子ハ外房ニ出テ内房ノ事情ヲ談ヘテハ不可ト云フ語カ書イテアルカラ先ツ此ノ問題ニ付キ色々ノ区別カアルノテ其ノ細イ事情ハ右ニ示ス

法典調査局

朝鮮総督府中樞院

第一 内房ニ関スル習慣

先ツ内房ノ位置ハ其棟ニ向ツテ左ニ當ル處カ大概内房ニナル而シテ此ノ内房ハ俗ニ大房ト云フノテアリテ一番其家ノ家長長カ居ルカラ此ノ座敷ハ總テノ生活上働キ及ヒ遠近親族ノ應接等ヲスル場所ナノテ役所テ申シマスト殆ト庶務課兼應接所テアル其故ニ其範圍カ中々廣大ニシテ一家屬等會議ヤ令息令孃ノ懲戒モ即チ此ノ間テ行フ

第二 内房ノ内ニ越房

越房ト云フ座敷ハ大房ノ向ニ其ノ位置ヲ取リ此ノ間ハ第一番ノ令息婦夫カ居ルノテ繼總テノ祖先ノ祭禮ヤ針仕事ノ掛リニ成リ祖先祭及父母ノ着物ヲ調進スル處テアリテ來客等カ先ツ大房ニ依リテ即ク越房ニ來ル由テアルカラ長男ノ弟ヤ妹姉等カ自然此ノ座敷ヲ殆ト半分拠フ場所トシテ居ル

第三 内房ノ内ニ下房

下房ノ處ハ家長ノ次男夫婦カ居ル處テアリテ此ノ座敷ハ何ニモ責任カ無イト云フテモ宜イ位イハ座敷テアルカラ毎日々々大房ノ父母ノ處ニ御氣嫌ヲ伺ヒ越房ノ兄夫婦ニ仕事手傳等スル處テアル晝ノ時ハ極メテ寂莫ヲ極メ晩ニ止リニ這入ル處テアル係ヒナカラ辭

法典調査局
朝鮮總督府中樞院

國ノ慣習テハ弟ニナル者ハ其兄ニ當ル座
敷ニ勝手ニ這入ッテモ宜イカ兄ナル者弟夫
婦居ル座敷ニ入ルコトハ断然出来ナイノテ
アリマス其レハ何故カト云フニ兄夫婦ハ半
分親ニスルト云フ習慣ダカラ親ノ座敷ニ這
入ル様ナ氣持デ這入ルガ弟ノ夫婦ノ座敷
ニ這入ルノハ何ト無ク風俗ニ関スルカラ勝手
ニ這入ルコトハ出来ズ弟ノ夫婦カ承諾シタラ
此ノ限リニアラズ

第四 内房ノ内ニ後房

此ノ座敷ハ三男ノ夫婦ノ居ル處ナリ普通
三男ノ處ハ尚未寂寞ヲ極メテアルシ然ノミ
ナラズ此座敷ハ一番後面ノ裏ニ位置ヲ取リ

テ居ルカラ自然用カ無クッテ晝ハ一家ノ内ノ女使
ヤ老婆ノ控ノ處ニナルカ晩ニハ三男夫婦カ近
リニ来ル

第五 外房ノ大舎郎

此ノ大舎郎ト云フ座敷ハ一番家長ナルモノノ
外交ノ應接ノ座敷デアル其レ故ニ大キク云フト
先ヅ宗會及家族一般ノ懲戒ヲ小サク云フト友
人ノ控ヒ宴會ノ場所デアルカラ始終人カ絶
ナイ然カノミナラズ幾何カ書齋ヲモ兼テ居ル
カラ色々書籍ヤ文具飾リ列ベ置キ主人ナルモ
ノハ温突焚キ口ノ近イ處ニ向カルムク」坐リ又ニ
次キノ客ノ資格ニ依リ順番ニシテ坐ッテ
話ヲスル

第六　外房ノ奴ニ小舎郎

此ノ小舎郎ト云フ處ハ長男ノ外交ノ處テアリテ家長ノ出他及病氣ノ時ハ家長ノ代理テ總テノコトヲ長男ノ小舎郎ヲ遣フカラ時ニ依ルト多忙テアルシ時ニ依ルト寂寞シテ居ルカ大概長男ノ友人及食生親族カ始終會客ニナリテ識ニゴタゴタスル處テアリ亦矢張リ書齋ヲ兼ネ居ル書籍及文具等カ陳列シテ居ルノテアル

第七　外房ノ奴ニ下舎郎

此ノ下舎郎ト云フ處ハ次男及三男ノ共有ノ物テアルカ場合ニ依ルト次男三男カ未タ未成年者ナラ大概下舎郎ハ二男三男ノ書堂（學校）ニ成ッテ漢學ノ先生ヲ雇ヒテ年ニ幾何カ年俸ノ如ク二度位イ分ケテ支給シナカラ頻リト書物ヲ読セルソウシテ読ム書物ハ一番最初千字文ヨリ始リ童蒙先習、撃蒙、史略、小學、孟子、論語、詩傳、書傳、春秋、左傳、等ヲ読ンテ仕舞フト大変ナル學者ト云フテ自分ノ子ヲ他人ニ向ッテ始終誉ルノテアル

（朝鮮婦人ノ地位及妻ノ社會的權力）

大正六年十二月二十五日受

婦人有三從之義在家從父既嫁從夫夫死從子故無得而自專也居內而不言外出必擁蔽故無得而與人交也蓋自古已然而朝鮮尤甚則其無特別地位及社會權力自可知也但所謂階級者后妃夫人士族常賤之分亦~~因~~其父與夫而得者耳其在家則母為家長妻為主婦



朝鮮總督府中樞院

亦人倫禮俗之當然而無所關於他也新羅時
善德眞德眞聖三王俱以女主臨民此特古今稀有
之大變而由此尚論者至以呂雉武曌比之蓋
不足取也南解王立始祖廟以親妹主之此則
女人主祭而亦古所未有也儒理王時六部女子
分朋考功則以爭女人之社會然此則只可歸

之遊戲耳至若色服車騎之差有眞骨女六
頭品女五頭品女四頭品女等若近世命婦之
階級具載於史可攷也高句麗太祖王始立年
幼母太后垂簾聽政此特王家事耳烽上王時
發國內男女修宮室此因政之不善者亦臨時
苟且耳非必男女混丁也駕洛王妃許氏生九

朝鮮總督府中樞院

子而一子從母姓此特繼絶之厚誼非有婦人之特權也大抵三國以上此外別無可徵矣高麗則文武官妻從夫封爵而須自室女為人正妻者得封夫亡改嫁者亦追奪其寡居守節者特封又命婦不許再嫁娼妓賤尼不許受田名分截然矣禁制嚴矣甚至婦女為尼者禁婦女設

齋上寺者亦禁奴隷之妻為兩班之服者亦禁婦人出入包羅蒙首復加笠帽禮防如此則婦人之不得與於衆會可知也李朝則命婦封爵雖皆從夫而無[illegible]學及再嫁者勿封者嚴嫡妾之分也婦女高年特封而夫不得因贈者定尊卑之序也

耆老之禮王妃宴于內殿者明內外之別也女人身
雖漏籍而罪止家長者優待之也婦女犯罪而不
鎖杻不檢驗者矜恤之也立後而父沒則母告者
母子之倫爲重也分產而須族親證筆者男女之
勢有異也恣行淫慾者罪至於死遊宴野祭者禁
至於杖有訟則使人代之未嫁則量給資財此

朝鮮總督府中樞院

雖特施於士族者而防限之如此其嚴也禮待之如
此其優也皆載大典可攷矣

朝鮮總督府中樞院

## 朝鮮婦人ノ地位ニ関スル調査

新羅儒理王九年既定六部中分為二使王女二人各率部内女子分朋造黨自秋七月既望每日早集大部之庭績麻乙夜而罷至八月十五日考其功之多少負者置酒食以謝勝者 三國史本紀

真平王薨無子國人立徳曼爲上號聖祖皇姑徳曼眞平王長女也是爲善徳王 仝上

善徳王薨眞平王母弟國飯葛文王之女勝曼立之是爲眞徳王 仝上

聖徳王十一年封金庾信妻爲夫人 仝上

定康王薨眞聖王立諱曼憲康王之女弟也 仝上

南解王三年始立始祖赫居廟四時祭之以親妹阿老主祭 三國史雜志祭祀

新羅色服車騎　眞骨女六頭品女五頭品女四頭品女
平人女有等　三國史雜志　色服車騎

強首妻之食王賜租百石妻辭曰妾賤者也衣食從夫受
國恩多矣今旣獨矣豈敢再辱厚賜乎遂不受　三國史列傳

高句麗大祖大王五年七歳母太后垂簾聽政　三國史本紀

烽上王九年發國內男女年十五以上修理宮室　仝上

高麗穆宗二年文武三品以上妻寡居守節者封爵　高麗史選擧志

成宗七年教文武常參官以上父母妻封爵　仝上

辛禑初依例外翁主宅主封爵并皆除之　仝上

凡婦人須自室女為人正妻者得封其次妻雖不得因夫
受封所生之子有官者當從母以子貴之例受封
命婦夫亡改嫁者追奪封爵
三十歳前守寡至六十歳不失節者勿論存沒旌門復
戶　并仝上

府兵七十後給口分田無後身死者戰亡者妻亦皆給
口分田　高麗史食貨志

[illegible]

朝鮮總督府中樞院

公私賤娼妓僧尼等人身及子孫不許受田 高麗史食貨志

恭讓王元年散騎以上妻爲命婦者毋使再嫁判事以下
至六品妻夫亡三年不許再嫁違者坐以失節[illegible]
散騎以上妾及六品以上妻妾自願守節者旌表門閭仍
加賞賜 高麗史刑法志
顯宗八年禁婦女爲尼 仝上
露衣簑笠兩班鄕外之服嗇夫奴隸之妻一皆禁斷違
者重論 仝上
城中婦女無論尊卑老少設齋點燈群往山寺者其齋民罪
坐其子兩班之家罪坐其夫 仝上

大典
外命婦封爵從夫職 庶孽及再嫁者勿封改嫁
者追奪 吏典外命婦
士族婦女年九十者令該曹抄啓封爵而其夫則母
從因妻贈職 吏典老人職
女人身雖漏籍其子入籍則只當收贖勿罪其子
户典户籍
士大女子漏籍者其家長徒配 仝上
公翁主出閤前受祿出閤後只給駙馬祿夫沒從夫
職給 户典科祿
每歲季秋行養老宴婦人則王妃宴于內殿外則守令
別設內外廳行宴 禮典宴享

立後　立後兩家父同命立之父沒則母告官　禮典 立後

逆家孫女勿令離異　仝 婚嫁

功臣父母妻堂上官妻年七十以上者本曹本邑月致

酒肉　仝 惠恤

士族女年近三十貧乏未嫁者啓聞量給資財　仝

士族婦女啓聞囚禁　刑典 囚禁

士族婦女犯死罪鎖項庶人婦女鎖項足杖則鎖項

士族婦女凡詞訟許子孫壻姪奴婢中代之　并仝上

以妻代夫次知囚禁者并嚴禁　仝上

士族婦女覲察啓聞拷訊　仝 推斷

婦女身犯大逆自主陰計緊援逆招者孥勿問

學兵逆魁妻妾并坐誅　增 雖劇逆其妻勿爲正法

孕胎女依年七十例除刑推收贖

宗班犯逆妻孥應坐者雖用本律勿爲奴婢從祀文廟

儒賢之嫡長孫同　以上并 推斷

儒生婦女上寺者　士族婦女遊宴山間水曲及親行野祭山川

城隍祠廟祭者并杖一百　刑典 禁制

宗親妻女堂上官母妻女婦有蓋新婦外用有屋轎子者杖

八十　仝上

士族婦女失行者更適三夫者錄案女移文吏兵曹司憲府

司諫院　仝上

士族婦女服着一依其夫爵品 刑典禁制

擊申聞鼓者妻爲夫至呈寃極痛事情則例刑取招

此外勿施 仝上

分給奴婢(田宅同)夫妻妾和會分執外用官署文記

無子女夫妻係生存者區處本族外不得與他 其妻適

他者其所區處不用 刑典私賤

分給奴婢(田宅同)祖及父則須手書祖母及母則須族親中

顯官證筆 仝

妻於夫沒後收養已族爲子女者其夫邊奴婢(田地同)以奉

祀條從分數分給 仝上

妻復夫讎者依子孫擅殺行兇人律 刑典殺獄

士族婦女勿檢驗 仝上

士族婦女恣行淫慾瀆亂風教者絞 其窮不自存流離

道路丐乞托身者不可以士族論并勿推

朝鮮總督府中樞院

國法無出妻之文有俞某者告其妻亂行兩造辨訟獄
不成妻亦性悖無夫婦禮重臣皆議國無出妻之律不
許其離婚 星湖僿說 三上 人事 親屬門

婦人出入亦給僕馬蓋亦公卿貴人之妻也從馭不過三數
人皂羅蒙首餘被馬上復加笠焉 (海東繹史二十八) 高麗圖經

男女相欲爲夫婦則爲之 (仝上) 鷄林類事

妻有無子而夫亡神主書曰顯辟蓋禮記夫曰皇辟之義也 退溪答問坤百廿三 四礼

眞平王卒無子立女善德爲王

善德王卒立其妹眞德爲王

儒理王二女　王分六部爲二使王女二人各率部内女子分朋績麻乙八月十五日考其功之多少爲勝負名曰嘉俳　文獻備考四十四

駕洛國首露王妃許氏名黄玉生九子而一子從母姓　備考四十二

女戸主ノ隠居

# 隠居

朝鮮ニ於ケル家系ノ承継ハ祭祀相續ニ依リテ行ハレ祭祀相續ヲ為シタル者ハ同時ニ戸主トナリ此点ニ対シテハ一モ除外例アルコトナシ然レトモ祭祀相續人曠缺ノ場合ニハ相續人ノ定マルニ至ルマテ其家ニ在ル婦女ノ中最尊長者ニ於テ戸主トナル慣例ニシテ戸主ノ変更ハ戸主ノ死亡ノ外種種ノ場合アリト雖モ隠居ニ因ル戸主ノ変更ヲ認メス蓋シ戸主ニシテ隠居ヲ為シ相續人戸主トナルトキハ隠居ヲ為シタル前戸主ハ新戸主ノ下ニ家族トナラサルヲ得ス然ルニ朝鮮ニ於テハ尊卑ノ序ヲ守ルコト極メテ厳ニシテ父カ子ノ家族トナリ子カ父ヲ措キテ一家ヲ統率スルカ如キハ絶対ニ許ササルヲ以テ隠居ニ因ル戸主ノ変更

ヲ誌メサルハ固ヨリ其所ナリ唯經國大典ニハ礼典奉祀ノ條ニ「嫡長子只有妾子願以弟之子爲後者欲自與妾子別爲一支則亦聽」トアリ是レ嫡子ナク妾ノ子ノミアル者弟ノ子ヲ養子ト爲シ之ヲシテ其家ノ祭祀ヲ継カシメ自ラ妾ノ子ト共ニ一家ヲ立ツルコトヲ許ス旨ヲ言ヘルモノニシテ其結果ハ頗ル隱居ニ類セリ

又戸主カ老衰、疾病其他ノ事情ニ因リ家政ヲ嗣子ニ一任スルコトハ往往実際ニ見ル所ニシテ之ヲ傳家ト称ス（礼記曲礼ニ「七十曰老而傳」呂氏註ニ「傳謂傳家事於子」ト見ユ）是レ亦一種ノ隱居ト視ルコトヲ得サルニ非スト雖モ敢テ戸主ノ変更ヲ来サス

今回平壌、安州、鎮南浦、義州、新義州等ノ調査ニ於テ新義州ノ應答者中ノ戸主カ老衰ニ因リ子ニ戸主ノ地位ヲ譲ル事例ハ久シキ以前ヨリ存シ當地方一般ニ行ハルル慣例ナリト言フ者アリシモ他ハ皆此ノ如キ慣行ノ存セサルコトヲ明言シタリ而シテ平壌、鎮南浦、新義州ニ於テ蒐集シタル民籍ノ記載例中(一)平壌府外門面二里七統二戸高應三カ明治四十四年三月二十三日前戸主父賜仁ノ退隱ニ因リ戸主トナリ（明治四十四年十一月十三日黄海道（府郡名ノ記載ヲ缺ク）松林面松山洞二十二統六戸ヨリ移居）(二)同里十六統六戸車禎鎬カ明治四十四年四月一日前戸主父兼元ノ退隱[redacted]ニ因リ戸主トナリ(三)鎮南浦府元塘面新興里五統一戸宋寛永カ隆煕三年九月十一日前戸主錫龍ノ退隱ニ因リ戸主トナリ(四)義州府光城面正心洞十統五戸

張守正カ隆煕二年四月三日前戸主父志德老衰ニ因リ戸主トナリシ例ヲ得タリ又鎮南浦ニ於テハ同府元塘面龍井里四統一戸辺利煩カ前戸主父時俊カ十年前（起算点不明）妻ト共ニ分家シタルニ因リ戸主トナレル事例ヲ得タリ

## 祖先ノ墳墓ト其所有者

祖先ノ墳墓ハ長派ノミノ所有ニ属スルカ将タ長支派ノ共有ニ属スルカニ付キ近来訴訟上ニ争ヲ見ルコトアリ所謂長派ハ長子孫ヲ指シ支派ハ其以外ノ子孫ヲ指スモノナルヲ以テ他ノ語ヲ以テ言ヘハ祖先ノ墳墓ハ長子孫ノミノ所有ニ属スルカ子孫全体ノ所有ニ属スルカノ問題ニ外ナラス墳墓ハ人ノ遺骸又ハ遺骨ヲ埋葬シタル場所トシテ祭祀礼拝ノ標的タリ一種神聖ノモノトセルモ法律上ノ見地スレハ一ノ工作物ニシテ墓地カ所有権ノ目的タルト同時ニ墳墓モ亦所有権ノ目的タルコトヲ得ヘク我民法ニ於テハ第九百八十七條ニ墳墓ノ所有権カ家督相續ノ特権ニ属スル旨ヲ言ヘリ

朝鮮ニ於ケル旧時ノ法令中墳墓ニ関スル規定ヲ見ルニ高麗史刑志禁令ニ「斫伐他人墓堂内樹木者一尺杖六十云云」「伐親屬墓内樹亦同」トアリ大明律刑律賊盗発塚ノ條ニ「若平治平治他人墳墓為田園者杖一百於有主墳地内盗葬者杖八十勒限移葬」トアリ續大典刑典聽理ノ條ニ「士大夫墳墓随其品秩各有步數冒禁偷葬者依法掘移但高玄墳墓子孫屢祭而或他人侵葬不爲禁止至于二三年後則依原典凡訟田宅五年例勿聽偷葬犯[redacted]墳則不在此限」トアリ又刑法大全ニモ第四百二十八條ニ「人의墳塋에碑碣이나石獸를棄毀ᄒᆞᆫ者는懲役一年에處ᄒᆞ되各令修立ᄒᆞ고計賊ᄒᆞ야重ᄒᆞᆫ者는第五百九十大條準竊盗律에依ᄒᆞ야科斷ᄒᆞᆷ이라第四百五十三條ニ「有主墳墓界限内에나人家五十步内에暗葬ᄒᆞᆫ者는懲役一年이며勒葬ᄒᆞᆫ者는懲役三年에處ᄒᆞᆷ이라」等ノ規定アリ

此等ノ規定ニ依リテ推測スルモ墳墓ノ所有權ヲ認メタルコトヲ窺フニ難カラス但祖先ノ墳墓カ長派ノ所有ニ属スルカ将タ長支派ノ共同所有ニ属スルカニ付テハ明ナラス

今回平壌、鎮南浦、安州、新義州、義州等ノ調査ニ於テハ祖先ノ墳墓ハ長派ノミノ所有ニ属シ長支派ノ共同所有ニ属スルカ如キ慣習ナレトノ應答ヲ得タリ

蓋シ朝鮮ニ於テハ祖先ノ祭祀ハ其長子孫ニ於テ之ヲ行ヒ其神主ハ長派ノ家ノ祠堂ヲ安置スル慣習ナルヲ以テ祖先ノ墳墓カ長派ノ家ニ属シ随テ長派

タル子孫ノ所有ニ係ルモノト視ルヘキハ寔ニ當然ノコトト謂フヘシ唯世間動モスレハ祖先ノ墳墓カ長支派ノ共同所有ニ属スル如ク説ク者アルハ祖先ハ長子孫ノミノ祖先ニ非スシテ子孫全体ノ共同祖先ナルヨリ其墳墓モ亦共同祖先ノ墳墓ナリト云フニ過キス其所有ノ問題トハ自ラ別論タルモノトス

### 召史ノ称ト姓トノ関係

朝鮮人ハ皆姓ヲ有ス而シテ各人ノ姓ハ父ノ姓ニ因リテ定マリ身分又ハ家籍ニ変更アルモ之ヲ改メス故ニ婦女人ニ嫁スルモ依然トシテ其本姓ヲ称シ夫ノ姓又ハ夫ノ属スル家ノ姓ヲ称スルコトナシ例ヘハ某ノ妻李氏若クハ寡女金姓ト云フカ如キハ即チ其本姓ヲ指セルモノナリ

此ノ如ク有夫ノ女又ハ寡女カ夫ノ姓ヲ冒スコトナシト雖モ婦女婚姻ヲ為シ若クハ寡女トナルトキハ金召史又ハ李召史ト云フカ如ク召史ノ語ニ姓字ヲ冠シテ之ヲ称呼ト為スコトアリ而シテ此場合ニ於ケル姓字ハ或ハ夫ノ姓ニ依ルコトアリ或ハ本人ノ姓ヲ用フルコトアリ区区ニシテ一定セス但此称呼ハ概シテ中流以下ノ

者ノミニ用ヒ上流ニハ多ク之ヲ用ヒス而シテ奴婢ニモ亦之ヲ用ヒサリシモノトス

蓋シ召史ノ字ハ吏讀ニシテ之ヲ「조이」（チヨウイ）ト讀ミ其意義ハ略ホ「彼ノ人」ト云フニ相當シ本來ハ有夫ノ女又ハ寡女ニ対シ他人ノ用フル敬語ニシテ自ラ称スヘキモノニ非ス而シテ方今之ヲ「소사」（ソウサ）ト讀ムハ字音ニ依レルモノナリ

召史ノ語ノ用例ニ付テハ儒胥必知ニ「如金姓人則曰金召史李姓人則曰李召史各随其姓」トアリ其本人ノ姓ヲ用フヘキヲ言ヘリ而シテ甲午以前ノ戸籍ニ就テ之ヲ見ルニ大抵本人ノ姓ヲ用ヒタルカ如シ然レトモ戸口調査規則施行當時ノ戸籍ニハ或ハ本人ノ姓ヲ用ヒ或ハ夫ノ姓ヲ用ヒテ一定セス又民籍法施行後ニ於テハ多クハ本人ノ姓ヲ用ヒシムル傾アリト雖モ日常普通ニ用フル所ハ依然トシテ二様ナリ

今回平壤、鎮南浦、安州、新義州、義州等ニ於テ古老ノ意見ヲ徴セシニ鎮南浦ニ於テハ婦女ヲ召史ト称スル場合ニハ寡女タルト有夫女タルトヲ問ハス其本姓ヲ用フル慣例ナリトノ答ヲ得タルモ他ノ地ニ於テハ召史ハ寡女ノ称ニシテ寡女カ戸主タル場合ニノミ此称ヲ用フヘキモノナルモ実際ニハ戸主タルト否トニ拘ラス一般ノ寡女ニ用フルコトアリ而シテ之ニ冠スル姓字ハ夫ノ姓ヲ用フル慣例ナルモ近來無識ノ徒往往本人ノ姓ヲ用フル者アルニ至レリトノ答ヲ得タリ又此等ノ地方ニ於ケル民籍簿ニハ本人ノ姓

朝鮮總督府中樞院
朝鮮總督府

ヲ記載シ閲覧ヲ遂ケタル部分ニハ夫ノ姓ヲ記載セル例ヲ発見セス

## 庶子アル場合ノ養子

朝鮮ニ於テハ養子ハ奉祀者ヲ定ムルタメニス故ニ奉祀者アル者ハ養子ヲ為スコトヲ得ス而シテ奉祀者タルコトヲ得ル者ニ関シテハ経国大典礼典奉祀ノ條ニ「嫡長子無後則衆子衆子無後則妾子奉祀」ト記シ庶子ノ奉祀ヲ認メ又経国大典礼典立後ノ條ニハ「嫡妾倶無子則告官立同宗支子為後」ト記シ嫡子ナリ且庶子ナキ場合ニ限リ養子ヲ許セリ然ルニ近年ニ至ルマテ庶子アルニ拘ラス養子ヲ為ス者往往ニシテアリ其由来ヲ案スルニ一ニハ嫡子ヲ重シ庶子ヲ軽スルノミナラス庶子ヨリ出タル者ハ仮令嫡子ナリト雖モ庶流トシテ略ホ庶子ト同視スル風アリ又一ニハ経国大典吏典限品叙用ノ條ニ「文武官

二品以上良妾子孫限正三品賤妾子孫限正五品六品以上良妾子孫限正四品賤妾子孫限正六品七品以下至無職人良妾子孫限正五品賤妾子孫及賤人爲良者限正七品良妾子賤妾子限正八品」ト記シ大典通編及大典會通ニ於テハ更ニ改マレルモ庶子ノ叙用ハ文武官從二品以下ニ限リ其以上ニ至ルコトヲ許ササリシヨリ班家ハ庶子アルモ養子ヲ爲シ常民亦之ニ倣フ者アリ遂ニハ一部ノ風ヲ成シタルモノノ如シ但法規ハ依然トシテ庶子アル者ノ養子ヲ認メス開國五百三年六月二十八日ノ議案ニ於テ更ニ「嫡妾俱無子然後始許率養申明旧典事」ノ件ヲ定メ刑法大全第五百八十二條ニモ其二號ニ「妾의子가有한되同宗에率養한者는懲役一年에處하고其子는本宗에歸홈이라」ト規定シタリ

今回平壤、鎮南浦、安州、義州、新義州等ノ調査ニ於テハ應答者ハ皆庶子アル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得サル慣習ナルコトヲ答ヘ新義州、安州及平壤ノ應答者ハ從前京城ノ班家ニ倣ヒ庶子アルニ拘ラス養子ヲ爲シタル者極メテ稀ニアリシコトヲ附言シタリ

奉祀ニ付キ胎児ト養子トノ関係

朝鮮ニ於テハ奉祀ノ資格アル者ハ男子孫ニ限ル故ニ男子孫ナキ者ハ養子ヲ為スヲ例トス然ルニ亡奉祀者ノ妻又ハ其長子婦ニ胎児アルトキハ其出生ニ至ルマテ養子ヲ為ササルコトアリ或ハ胎児ノ有無ニ拘ラス養子ヲ為ス者アリ慣例一様ナラス而シテ養子ヲ為シタル後胎児出生スルトキハ養子ヲ奉祀者ト為スヘキカ将タ実子ヲ奉祀者ト為スヘキカニ付キ續大典礼典奉祀ノ條ニハ凡無子立後者既呈出立案後或生子當為第二子以立後者奉祀トアリ養子ヲ奉祀者トスヘキコトヲ明ニセリ今回ノ調査ニ於テハ鎮南浦ノ應答者ハ胎児アル場合ニ養子ヲ為スト否トハ寡女ノ任意ニシテ胎児ア

ルコトヲ知リテ養子ヲ為シタルトキハ養子奉祀者トナリ若シ知ラスシテ養子ヲ為シタルトキハ胎児ノ出生後多少ノ財産ヲ分チテ罷養ヲ為ス例ナリト答ヘ平壌ニ於テハ胎児ノ有無ニ拘ラス必ス養子ヲ為シ而シテ養子奉祀者トナル慣習ナリト答ヘ安州、義州及新義州ニ於テハ胎児アルコト分明ナルトキハ其出生ニ至ルマテ養子ヲ為ササルヲ例トスト答ヘタリ

## 婚姻ノ方式

婚姻ノ方式ニ付テハ續大典禮典婚嫁ノ條ニ「婚姻一依家禮」トアリ而シテ実際ニ於テモ家禮ヲ本トシテ編纂シタル「四禮便覧」ニ依ルヲ普通トスルモ地方ニ因リ多少ノ差異アリ今回義州、新義州、安州、平壌、鎮南浦等ニ於テ應答者ヨリ聴取シタル所左ノ如シ

義州ニ於テハ媒人先ツ両家ノ意思ヲ通シ次ニ男家ヨリ請婚書ヲ送リ女家之ニ対シ許婚書ヲ送ル而シテ四柱單子ヲ送ルノ習ナク擇日單子ハ男家ヨリ送ル納采（納幣）ハ行禮ノ當日若クハ其前特ニ日ヲ擇ヒテ送リ之ニ婚書ヲ添フ又擇日單子ヲ納采ト共ニ送ルコトアリ行禮ノ日男ハ女家ニ至リ

奠雁ノ式ヲ擧ケタル後距離近ケレハ一應歸家シ晩景更ニ女家ニ至ル女モ亦距離近ケレハ行礼ノ日ニ男家ニ至リ姑舅ニ見エ祠堂ニ謁ス若シ距離遠ケレハ男ハ兩三日女家ニ留リテ歸家シ更ニ日ヲ擇ヒテ婦ヲ迎フ而シテ醮礼ハ之ヲ行フコトアリ行ハサルコトアリテ一定セス又女子カ髮ヲ結ヒ笄ヲ挿ムハ行礼ノ翌朝ナルヲ普通トス

新義州ニ於テモ擇日單子ハ男家ヨリ送リ委ク手簡ヲ以テシ特ニ單子ノ式ニ依ラス行礼ノ當日女家ニテ奠雁ノ式ヲ擧ケタル後女ハ男家ニ至リ姑舅ニ見エ且祠堂ニ謁シ即日歸家シ三日ヲ過キテ男家ニ入ルヲ例トス而シテ醮礼ハ男女ノ知人ヲ會シ新郎ノ知人ハ新郎ト同一ノ服裝ヲ為シ新婦ノ知人亦新婦ト同一ノ服裝ヲ為シ（新郎新婦何人ナルカヲ判別セシメサル趣旨ニ依ル）男女卓ヲ挟ミテ飲食シ卓上ニ紙製ノ造花ヲ飾ル（是亦是ニ服ヲ遮ルノ趣旨ニ依ル）但之ヲ行フ者少ク其時期亦一定セス又女ハ男家ニ至ル際垂髮ノ侭笄ヲ挿ミ行礼ノ翌朝更ニ髮ヲ結ヒテ笄ヲ挿ム

安州ニ於テモ男家ヨリ擇日單子ヲ送リ奠雁ノ式ヲ擧クルモ醮礼ヲ行フ者少クシ幣錢ヲ送ルノ望ハ一般ニ存シ中流以下ニハ殊ニ甚シ其額五十円乃至百円ニシテ請婚書ト同時ニ贈ルヲ通例トス但婚礼ノ成立セサル場合ニハ之ヲ返還ス

平壤ニ於テモ擇日單子ハ男家ヨリ送ルヲ例トシ

ヒ後苑守直ノ任ニ當ラシメ就官(行政官)ス

朝鮮總督府中樞院

異例小作 其一

(義州府及龍川郡ニ於ケル私有地並ニ官有地)

朝鮮ニ於ケル小作慣例ハ大別シテ二種トナスコトヲ得ヘシ即チ其一ハ地主ト小作人トノ間ニ收穫ヲ折半スル[illegible]ニシテ之ヲ並作ト称シ其二ハ[illegible]ハ小作料ノ数量若クハ收穫ニ対スル割合ヲ豫定スル方法ニシテ之ヲ賭地ト称ス而シテ説明ノ方法ニ依ルトキハ地主ハ耕作季内ニ非サレハ何時ニテモ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘク小作人ハ地主ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其権利ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得サルヲ慣例トス然ルニ平安北道義州郡及龍川郡内ニハ[illegible]小作人ニ於テ其権利ヲ任意ニ讓渡[illegible]

笄ヲ揷ムハ行礼ノ日ノ旦ニ於テスルヲ普通トス

鎭南浦ニ於テモ擇日單子ハ男家ヨリ送リ奠雁ト醮礼トヲ別ニ行フ而シテ四柱ハ請婚書ト共ニ送リ單子ヲ用ヒス又女家ハ許婚ノ時ニ四柱ヲ送ル而シテ笄礼ハ行礼ノ當日垂髮ノ侭之ヲ揷ミ翌朝髮ヲ結フ

朝鮮總督府中樞院

笄ヲ挿ムハ行礼ノ日ノ旦ニ於テスルヲ普通トス
鎮南浦ニ於テモ擇日單子ハ男家ヨリ送リ奠雁

得タル地ニハ時價ヲ償フニ非サレハ小作人ノ權利ノ移動セスト
ノ得サル小作慣例アリ一ヲ私賭地ト称シ他ノ一ヲ原賭地ト称ス

一 私賭地及原賭地ノ区別並其由因

私賭地ハ一ニ小賣賭地ト称シ小賣ハ私賣ノ意ニシテ私賭地モ亦私賣賭地ノ義ナリ蓋シ文字其儘ノ意義ハ一ナリ而シテ原賭地ハ別ニ元賭地ト書シ字音相通スルヨリ口語ノ上ニハ区別ナシ

古来ノ慣ト擬シハ私賭地及原賭地ハ而シテ私賭地ト

只賭地ノ異ナル點ハ私賭地ニ在リテハ小作人カ擅ニ其小作権ヲ他人ニ讓渡シ轉轉シテ私賭地トスルモノ大ニシテ原賭地ハ小作人ノ地主ヨリ小作権ヲ讓渡スルコトヲ認許セラレサルナリ

1

鴨緑江沿岸ニ於ケル特種小作慣例

朝鮮ニ於ケル小作ノ種類ハ大別シテ二ト為スコトヲ得ヘシ一ハ地主ト小作人トノ間ニ收穫ヲ折半スルモノニシテ竝作ト称シ他ノ一ハ小作料ノ数量又ハ金額ヲ契約シテ除定スルモノニシテ賭租法ト称ス而シテ其契約ノ種類ニ屬スル所ハ耕作季節外ニ於ケル地主及小作人互ニ鮮ヲ為シテ選ヒタル小作人ハ地主ノ業務ニ非サレハ其權利ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得サル慣例ナルモ鴨緑江中ノ島嶼及其沿岸一帯ノ地ニ存スル私賭地及原賭地ト称スル

ヒ後苑守直ノ任ニ當ラシメ就官（行政官）ニ

朝鮮總督府

笄ヲ挿ムハ行礼ノ日ノ旦ニ於テス(ルヲ)普通トス
鎮南浦ニ於テモ擇日單子ハ男家ヨリ送リ奠雁

小作慣例ハ地方ニ依リ其称呼ヲ異ニスルモ [illegible] 小作人ハ
権利ヲ [illegible] 導掌権利ハ消滅セシメラレ [illegible] 得タル又ハ小作人ハ
但意ニ其権利ヲ譲渡スルヲ得ル点ニ於テ特色ヲ有セリ
賭地 [illegible] 賭地ニ付テハ [illegible] 導掌ヲ於テ一定ノ導掌ヲ
為シ臨時土地導掌ニ於テ之ガ導掌ヲ為サシメ [illegible]
導掌ヲ導掌ニ [illegible] 其者ガ保護地トシ臨時
土地導掌ノ導掌ニ [illegible] 其名称ヲ賭地ト称シ [illegible]
其地ヨリ小作人ニ於テ [illegible] 権利関係 [illegible] ノ如シ
ノ其大ハ或ハ地主ニ因リ称呼ヲ異ニシ [illegible] 二種ノ
小作慣例 [illegible] 其一種ノ之ヲ導掌ト云フ [illegible]
[illegible] 導掌ノ結果ヲ異ニスルモノヤ [illegible]

紀人ノ [illegible] 共ニ導掌ノ [illegible] 之ヲ [illegible] 仍テ此ノ異ノ
更ニ導掌ニ且其小作権ノ [illegible] 物権ト [illegible] 性質
権ニ [illegible] 人カ [illegible] 地方鮮人ノ間ニ
キ慣行ヲ [illegible] ノ如キ [illegible] 結果ヲ得タリ

ヒ後苑守直ノ任ニ當ラシメ就官(行政官)ニ

内官ニ関スル調査

一、内官ノ由來

内官ノ制ハ支那周代ニ始マリ周官ニ宮正、宮伯、宮人、内宰、閽人、寺人等ノ職制アリテ專ラ王ノ宮寢ヲ掌リシカ戰國以來明ニ至リ官制職掌ヲ增減セシコト常ナラサリキ（別紙一號參考書參照）

朝鮮ニ於テハ新羅統一ノ後唐制次第ニ輸入セラレシモ内官ノ制ハ實現セス高麗朝ニ至リ始メテ下賤或ハ賤人ニシテ襁褓ノ時睾丸狗ニ噛レタル者ヲ用ヒテ宮闈及ヒ後苑守直ノ任ニ當ラシメ就官（行政官）ヘ

笄ヲ揷ムハ行礼ノ日ノ旦ニ於テスルヲ普通トス
鎮南浦ニ於テモ擇日單子ハ男家ヨリ送リ奠雁

ルコトハ得サリシカ毅宗ノ時ニ至リ宦者鄭諴、白善淵始メテ事ハレ特ニ祗候ノ官ニ任セラレタルモ宰相臺諫王旨ヲ奉ラス竟ニ施行セサリキ忠烈王妃齊國公主ニ於テ宦者数人ヲ元世祖朝ニ獻セリ此等ノ人大ニ寵マレ詔ヲ奉シテ高麗ニ使臣トシテ来レリ王ニ於テ其ノ家ヲ復シ其ノ族ヲ官ニ就カシメ恩寵スルコト至ツテ厚キ至レリ於是乎残忍僥倖ノ徒相轉シテ效慕シ父ハ其ノ子ヲ宮シ兄ハ其ノ弟ヲ宮シ強暴ノ者ハ自ラ割キテ宦者トナルモノ甚タ多キニ至レリ（別紙二號参照）

李朝ニ至リテハ大典會通吏典京ニ内侍府ハ「掌大内監膳傳命守門掃除之任」ナル職制アリテ共計一百四十人トシ「續増」ニ長番ハ定員ナク出入番ハ七十四人トシ各處上直小宦九十人ヲ置クニ至レリ甲午維新ノ時職制ヲ改メ「奉侍十人以下承奉二人奏任」ヲ置キ其ノ外各宮次知及ヒ長番等アリシモ以前ニ比シ少数ナリキ其ノ待遇ニ就テハ刑典因禁條京ニ内侍府ハ「啓聞因禁」ト同推断條京ニ「十惡奸盜非法殺人枉法受贓外笞杖并收贖」ト又「勿爲請刑直請受教照律」ト云ヒ是レ王宮私人ニ特優セシコトヲ示スモノナリ

二、養子縁組

大典會通刑典「續」ニ宦官養子本非血屬犯逆縁坐不法合意亦不可無罪遠地定配トアルヲ以テ内官養子ノ例アルヲ徴スヘシ（別紙三號參照）自來一子ニ止メシモノヲ中年以來二子ヲ縁組シハ何時ヨリ創マリシハ詳カナラサルモ參議柳正秀氏言ニ曰ク曾テ聞クニ英祖ノ時受教アリシト云ハレルモ據ル（ヘキ書籍未タ發見セス

養子ニ關シテハ「唐開元七年三月勅内侍五品以上者許養一子仍以同姓者初養日不得十歲」ト勅令ヲ以テ定ム（別紙一號參照）

養子縁組ノ慣例ニツキ傳言ヲ聞クニ内官ノ勢力及ヒ豪富ヲ貪圖スル地方賤人又ハ貧困ナル者ニ於テ其ノ子孫襁褓ノ時大便ヲ睾丸ニ粘塗シテ狗ヲシテ啗シメタル者、刀刃ニテ割キタル者、或ハ不注意ニ由リ狗ニ誤啗セラレシ者ヲ即チ人宦ト稱シ之レヲ内官ニ紹介スレハ内官ハ人ヲ送リ又ハ親ラ赴キ天宦（天性）ニアラス容貌娟娍ニシテ風骨完全ナリヤ否ヤヲ確メ相當ト認ムル場合始メテ養子縁組ヲ申込ムト其ノ兒ノ父祖ニ於テ該内官ノ財産、勢力ノ有無及ヒ門閥（即廳家長番家）等ヲ調ヘテ希望ニ副

フトキハ養子タルコトヲ許諾シ不滿足ノ場合ニハ拒絶ス

養子ノ年齢ハ十歳以下、養父ノ年齢ハ二十歳以上ヲ普通トシ又養子ノ姓氏ハ同姓ヲ以テセシハ支那ノ規定ナリ朝鮮ニ於テモ之レニ倣ヒ同姓ノ者ヲ縁組シタル者アリシモ一二家ニ過キス他姓養子多カリキ普通人ノ養子ハ必ラス同姓同本ノ者ニ限ルモ内官ハ同姓ニ限ラサルヲ以テ一見收養子ノ觀アルモ其ノ他ノ家督相續ニ付テハ何等異ナル点ナシト云フ

養子トシテ連レラレタル後ハ養父母ニ對シ父母ト稱呼シ其ノ他ノ親族ニハ等級ニ隨ヒ相互ニ稱呼シ生家ニ往復スルコトヲ許サス生家親族モ亦頻繁ニ往復スルコトヲ得ス

三、罷養ノ條件

内官ノ養子トナリタル後若シ畢丸發生ノ場合ニハ罷養ノ上其ノ實家ニ復歸セシムルコトハアルモ其ノ他ノ事故ニテハ罷養スルコトヲ得ス假令罷養セラルヽトモ再ヒ他ノ内官ノ養子タルコトヲ得ス又本家ニモ復歸スルコトヲ得ス獨立生活ヲ營ムノ外他ニ道ナシト云フ

四、冠婚喪祭

婚姻ニ関シテハ高麗史列傳ニ鄭誠ニ於テ「以穀宗乳媼爲妻」ト謂ヒ又李大順ニ於テ「嘗娶聾涛儒女」ト謂ヒテ娶リシコトハ是レニ由ツテ徴スヘシ（別紙二號参考書参照）慣行ヲ聞クニ喪葬、祭禮、冠禮ハ凡人ト異ラス婚禮ハ速賓、宴饗等ノ禮ト新婦新郎ノ盛飾往復ト奠鴈、交拜、醮禮、于歸等ノ節次ハ他人ノ見聞ヲ避ケ必ラス新郎家ニ於テ暗夜之レヲ行フト云フ宮中ニ於テ妻ト稱スルコトヲ得ス家直ト云ヒ他人トノ對話ニモ妻又ハ夫人ト稱スルコトナク位階アルモ妻ハ夫ノ職ニ従ウコトヲ得ス又常居家屋モ内房出入ノ門ヲ堅閉シテ他人ノ出入ヲ厳禁シ所謂其ノ妻ハ門外ニ出入スルコトヲ得ス

五、戸籍

戸籍上ノ関係ハ詳カナラサルモ生父家ニ於テ最初ヨリ其ノ籍ニ入レス若シ入籍セラレタル者ト雖除籍スルニ止マリ何内官ノ養子タルコトヲ記入セス其ノ系圖ニモ何内官ニ出系ト記入セシヲ未タ聞カス内官ハ普通戸籍ナク内官ノ籍ナルモノ別ニアリテ國家ニ對スル義務ハ殆ント免除セラレ唯タ土地ニ對スル税金ノミヲ納入ストニ云フ

朝鮮總督府中樞院

內官制度에關ᄒᆞᆫ件　　金漢睦

夫內官은支那에在ᄒᆞ야ᄂᆞᆫ閹官에宦官、宦伯、宦人、內竪、閹人、寺人의職이有ᄒᆞ야王의宮寢을掌ᄒᆞ더니戰國以來로明에至ᄒᆞ야官制職掌의增減이無常ᄒᆞ가ᄅᆞᆯ一辨別紙ᄅᆞᆯ係付ᄒᆞ고我朝에從ᄒᆞ야ᄂᆞᆫ奏子에關ᄒᆞ야ᄂᆞᆫ「虞閑之七年三月勅內侍五品以上者許養一子仍以同姓者初養由不得過十歲」라勅定ᄒᆞᆫ文이有ᄒᆞ니

朝鮮에在ᄒᆞ야ᄂᆞᆫ新羅以前은王宮制度가草創ᄒᆞ고已新羅統一後로宦制를改革輸入ᄒᆞ얏ᄉᆞ나內官의制ᄂᆞᆫ未現이러니高麗에至ᄒᆞ야ᄂᆞᆫ下賤或賤人이

朝鮮總督府中樞院

（赤坊遠）禄綵時에 獨啗ᄒᆞᆫ 者ᄅᆞᆯ 用ᄒᆞ야 宮闈와 後苑守（單九字）
直ᄒᆞᄂᆞᆫ 任에 備ᄒᆞᆫ 바 宦官은 先不得ᄒᆞ얏더니 毅宗
時에 宦者 鄭誠 白善淵이 擢用事ᄒᆞ야 始使ᄒᆞ야 官
을 授ᄒᆞ나 宰相 崔惟清 陳이 王旨를 不奉ᄒᆞ야 竟不
施行ᄒᆞ얏고 忠烈王 妃 齊國公主가 宦者數人을 元 世祖
朝에 獻ᄒᆞ얏더니 此人이 得寵ᄒᆞ야 奉從ᄒᆞ고 朝鮮에 來
使ᄒᆞ야 王이 其家를 復ᄒᆞ고 族을 官ᄒᆞ얏스ᄆᆡ
寵이 至尊에 至ᄒᆞ야 於是 殘忍 僥倖ᄒᆞᆫ 徒가 轉
相 效慕ᄒᆞ야 父가 其 子를 宮ᄒᆞ고 兄이 其 弟를 宮ᄒᆞ
며 強暴ᄒᆞᆫ 者ᄂᆞᆫ 自割ᄒᆞ야 宦者가 甚多ᄒᆞᆫ 데 至ᄒᆞ니
라
婚姻에 關ᄒᆞ야ᄂᆞᆫ 高麗史 列傳에 鄭誠이가 以毅宗

乳媼 爲妻ᄒᆞ고 ᄒᆞ고 又 李大順이가 壹嬖ᄒᆞ야 章淨
儒女를 妻ᄒᆞ얏ᄂᆞᆫᄃᆡ 此ᄂᆞᆫ 可畏ᄒᆞᆯ 事라 此에 關
ᄒᆞ야 第二號 等 若 書를 添附ᄒᆞᆷ
李朝에 至ᄒᆞ야ᄂᆞᆫ 大典會通 吏典 原에 內侍府
는 掌大內監膳傳命守門掃除之任이라 ᄒᆞ며 制
를 有ᄒᆞ니 共計 一百四十人이오 擯ᄂᆞᆫ 書을 定數
가 無ᄒᆞ며 出入番은 七十四人에 多至 百四 宦
이 九十에 至ᄒᆞ며 甲午更張에 此時에 更職制를 改ᄒᆞ
얏ᄂᆞᆫ데 奉侍 十人 以下（從事二人）를 置ᄒᆞ고 其 分을
定ᄒᆞ얏고 長番 等이 有ᄒᆞ야 以外 此 兩 少 數ᄒᆞ야 其 待
遇에 關ᄒᆞ야ᄂᆞᆫ 刑典 因禁條에 內侍府ᄂᆞᆫ 啓聞 因禁
에 斷ᄒᆞ에ᄂᆞᆫ 擬斷條에 十惡 奸盜 非法 殺人 枉法 受

朝鮮總督府中樞院
朝鮮總督府中樞院

職外笞杖幷收贖」이라ᄒᆞᆫ 又「勿爲請刑直結發敎

照律」이라ᄒᆞᆫ 同條(續)에「宦官養子本非宦屬犯

逆緣坐不合法毋[illegible]不[illegible]罪ᄒᆞᆫ地로定配ᄒᆞᆫ다ᄒᆞ며

宦官養子의例가有ᄒᆞᆷ을可히徵ᄒᆞᆯ지니 (宦官의[illegible]를[illegible]一子에止ᄒᆞ[illegible] 三号別紙參照)

ᄒᆞ더니中年以來로二子를養ᄒᆞᆷ은何時로創自

ᄒᆞᆫ지未詳ᄒᆞ나[illegible]議[illegible]秀臣[illegible]에[illegible]閔英

祖時에受敎가有ᄒᆞ다云ᄒᆞ나文籍의可據ᄒᆞᆯ者無

ᄒᆞᆷ

慣行을聞ᄒᆞᆫ즉[illegible]은冠禮는凡人과同

一ᄒᆞ고婚禮ᄂᆞᆫ迎賓、宴饗等禮가新婦新郞

의盛儀를從來와如히奠雁、交拜、醮禮、于歸等節次

ᄂᆞᆫ他人의聞見에[illegible]ᄒᆞ고此를暗夜에行ᄒᆞᆫ다云

ᄒᆞ며閣內에서妻를[illegible]라稱ᄒᆞᆷ을不得ᄒᆞ고尙宮

이라云ᄒᆞ며娶人ᄒᆞᆫ後에ᄂᆞᆫ妻又ᄂᆞᆫ夫人이라稱ᄒᆞᄂᆞ니此

ᄒᆞᆯ時品階가有ᄒᆞᆫ자의妻ᄂᆞᆫ從夫職ᄒᆞᆷ을[illegible]ᄒᆞ며

又所居家屋은內室出入의門을堅閉ᄒᆞ야他人出入

을嚴禁ᄒᆞᆫ所謂甚嚴ᄒᆞᆫ門外에出ᄒᆞᆷ을不得ᄒᆞᆷ

養子의慣例ᄂᆞᆫ宦官을聞ᄒᆞᆫ즉宦官의勢力이富豪

富豪ᄂᆞᆫ[illegible]ᄒᆞᄂᆞᆫ地方의殘人又ᄂᆞᆫ貧困ᄒᆞᆫ人의其子

孫에[illegible]ᄒᆞ야幼ᄒᆞᆯ時에大便을[illegible]丸에粘塗ᄒᆞ고獨

로[illegible]刑ᄒᆞᆫ者或刀刃으로割去ᄒᆞᆫ者或不[illegible]

로狗의誤嚙ᄒᆞᆫ者로[illegible]人宦이라謂ᄒᆞᄂᆞ니此를內

官의게紹介ᄒᆞ야內官이送人或就[illegible]ᄒᆞ야天宦

이나이에[illegible]이婚姻ᄒᆞᆫ[illegible]

[illegible]完寫

査ᄒᆞᆫ즉 合意ᄒᆞᆫ 同時에 養子ᄅᆞᆯ 連ᄒᆞ야 其地에 父
祖ᄂᆞᆫ 該內官의 財産과 勢力有無及門閥(郞廳 長書家)
을 調査ᄒᆞᆫ後 希望에 適當ᄒᆞ면 養子ᄒᆞ기를 許ᄒᆞ고
不滿足ᄒᆞᆫ 境遇에ᄂᆞᆫ 排絶ᄒᆞᆷ
養子의 年齡은 十歲以下 養父年齡은 二十歲以
上으로 普通이라ᄒᆞᆫ즉 又養子의 姓氏ᄂᆞᆫ 同姓으로
ᄒᆞᆷ이 古來의 規定이오 朝鮮에서도 此에 依ᄒᆞᆷ
이 同姓養子ᄒᆞᄂᆞᆫ 內官이 有ᄒᆞ나 此ᄂᆞᆫ 一二家에 不過
ᄒᆞ고 ~~普通~~ 他姓養子가 多ᄒᆞ나 太抵 內官養子
ᄂᆞᆫ 普通人과 如히 絶孫으로 繼絶存亡ᄒᆞᆷ이나 內官은 但家
產家務를 傳續ᄒᆞᆯ 思ᄲᅮᆫ이고 卽 收養子의 同一ᄒᆞᆷ으로
恩惠ᄒᆞᆷ

朝鮮總督府中樞院

養子로 率來ᄒᆞᆫ後ᄂᆞᆫ 養父母ᄅᆞᆯ 父母로 稱呼ᄒᆞ고
其他 親族의 게ᄂᆞᆫ 等級을 隨ᄒᆞ야 互相稱呼ᄒᆞ며
生家에 往來ᄒᆞᆷ을 不許ᄒᆞ고 生家親屬도 亦頻
繁往來ᄒᆞᆷ을 不得ᄒᆞᆷ
戶籍上關係ᄂᆞᆫ 未詳ᄒᆞ나 生父家에 什ᄂᆞᆫ 其籍
에 初不入ᄒᆞ고 若入籍ᄒᆞᆫ 者라도 拔去ᄒᆞᆷ에 不過ᄒᆞ고
何如間 養子된 者ᄅᆞᆯ 不記ᄒᆞᆷ에 其家傳에ᄂᆞᆫ 何內官
에 出系라 記入ᄒᆞᆷ은 未詳ᄒᆞ니 內官은 普通戶籍
을 是ᄒᆞᆫ 內官의 籍이 有ᄒᆞ야 一般官에 對ᄒᆞᆫ 義
務ᄂᆞᆫ 免除ᄒᆞ고 土地稅金만 納入ᄒᆞᆯ 뿐ᄒᆞᆷ
內官이 養子된 後에 或 畢竟 發生ᄒᆞᆫ 바 罷養ᄒᆞᆫ
件 其生家에 歸ᄒᆞᆫ 事ᄂᆞᆫ 有ᄒᆞ나 外他 事件도 없ᄂᆞᆫ 罷

朝鮮總督府中樞院

寺官等에는或罷寺官지及他內官과寺官子
號를有하야宦官이라하고嗣子를立하야出生
活하는外是無하니라

或은戶籍이有하되別紙謄寫
特히戶籍을有한者도有하니이를謄寫添付하야
參考에供함

朝鮮總督府中樞院

一號ノ一

一號別紙十枚

（淵鑑類函卷九十六設官部三十六）

杜氏通典天文有宦者四星在帝座之西周官有宮正宮伯（皆主王宮中官之長）宮人（掌王之大寢）內宰（掌王內之政令以陰禮教六宮）大閽人（掌守王宮）寺人（掌王之內人及女宮）

戰國時有宦者令（趙有宦者令繆賢是也）

秦少府屬官有中書謁者令丞又有將作衛尉少府各一人（並皇后卿）

漢景帝中元六年改將作爲大長秋（大者龍秋者收成之時長者恒久之義故以爲皇后官名）或用中人或用士人（中人閹人）

成帝加置太僕一人掌太后輿馬通謂之皇太后卿皆隨太后宮爲官號在正卿上（絶太后則闕衛尉在未央衛尉上本府在少府上之類是也）又有長信詹事掌皇太后

朝鮮總督府中樞院

朝鮮總督府中樞院

宮

景帝六年更名長信少府

平帝元年更名長樂少府。帝祖母稱長信宮帝

母稱長樂宮故長信少府長樂少府職如長

秋。位在長秋上。皆以宦者也

後漢職掌。奉中宮命凡給賜宗親當謁見

者關通之。中宮出則從應官有丞中宮僕謁

者私府署令。初秦又置中常侍官參用士人

皆銀璫左貂。給事殿省

漢制置侍中中常侍各一人省尚書事。黃門侍

郎一人傳發書奏皆用旅姓

後漢中常侍掌貫導內侍顧問應對亦平中



始定員數中常侍四人（漢舊儀曰秩千石得出入臥內掌治者中者中郎禁中也 成帝外家王禁忠重朝中為諱禁曰省）小黃門十人

自明帝以後定數稍增改以金璫右貂兼領卿

署之職

自和熹太后以女主稱制不接公卿乃以閹人

為常侍小黃門通命兩宮自此以來悉用閹

人不復他士自安帝後桓權傾重手握王爵

口含天憲桓帝既與宦官謀誅梁冀入

封者五人（單超徐璜具瑗左悺唐衡也）同日為侯皆食邑故

世稱五侯及袁紹大誅宦者之後亦甚據

庭復用士人閹閹出入並有禁切侍中侍郎

門郎獨掌中外雜錯醜聲著聞

朝鮮總督府中樞院

魏改漢制三卿在九卿下

晉復舊在同職卿上有后則置無后則闕

齊鬱林王立文安太后即尊號以宮名置宣

德衛尉少府太僕

梁有弘訓太后亦置屬官

陳亦有太后三卿

後魏大長秋掌監內外對宮文明馮后閹官

用事大者令僕小者卿守（宦者趙黑為選部尚書）

北齊有中侍省置中侍中二人中常侍四人掌

出入門閣又有長秋寺置卿中尹各一人掌

諸宮閣領掖庭等令並用宦者

後周有司內上士小司內中士墨伯中士等官

朝鮮總督府中樞院

隋

內侍即舊長秋內常侍即舊中常侍

煬帝改內侍省為長秋監置令一人少令一人

丞二人並用士人僕用宦者領掖庭宮闈奚

官三署亦參用士人

唐武德初改為內侍省皆用宦者

龍朔二年改為內侍監

咸亨元年復舊

光宅元年改為司宮臺

神龍元年復舊有內侍四人掌執宮內供奉

中宮駕出則夾引總判省事舊二人

開元中加二人七年三月勅內侍五品以上者許

養一子仍以同姓者初養日不得過十歲

朝鮮總督府中樞院

内常侍六人通判局事内謁
者監六人内侍伯二人寺人六人領掖庭宮
闈奚官内僕内府等五局
神龍元年以後改以中使出監諸軍兵馬
寶應元年五月勅諸道州府承上命須憑
飛勅施行不得輒便信中使宣勅即遵行
内侍事周禮内小臣之職掌王后之命出入
前驅
後漢少府有給事内常侍左右止在内宮
以通中外及中宮以下衆事
自魏至梁陳並具職
後魏有中給事中後改爲中給事

北齊中侍中省有中給事中四人
煬帝改爲内承直
唐復爲内侍仍置八人
内寺伯周禮寺人掌王之内人及女宮之戒
令
隋内侍有内寺伯二人
唐因之
掖庭局令
秦置永巷
漢武更名掖庭置令掌宮人簿帳及蠶桑
蠶及女工等
後漢掖庭令掌後宮貴人采女又有永巷

朝鮮總督府中樞院

令典官婢皆宦者爲少府處置二人
宮闈局令二人
隋置令掌宮內門閤之禁及出納神主并內從使
各帳糧廩事唐因之
奚官局令二人
齊署隋陳有奚官署令掌守宮人使藥疾病
罪罰喪葬等事唐置二人
內僕局令二人
後漢有中宮僕令掌車輿雜畜及導等唐
置二人
內府局令二人
漢有內者局令隋因內者唐爲內府置令二人掌

朝鮮總督府中樞院

內庫出納帳役澡沐等
宋史曰宋置入內內侍省初有內班院
淳化五年改爲黃門九月改內侍省入內內侍省
與內侍省號爲前後省而入內省尤爲親近
通侍禁中役服褻近者隸入內內侍
省供侍殿中備灑掃之職役使雜品者隸內
侍省入內內侍省有都都知都知副都知押班內
東頭供奉官內西頭供奉官內侍殿頭內侍高
品內侍高班內侍黃門內侍省有左班都知副
都知右班都知副都知押班內東頭供奉官
內西頭供奉官內侍殿頭內侍高品內侍高
班內侍黃門自供奉官至黃門以二百八十人爲

朝鮮總督府中樞院

宦官
凡內侍初補曰小黃門經恩遷補則爲內侍黃門
遷者~~內~~官闕則以前省官補押班次遷副都
知次遷都〻知遂爲內臣之極品其官秩則有
內客省使延福宮使宣政使宣慶使昭宣使
元豐議改官制張誠一欲易都知押班之名置
殿中監以易內侍省既而宰執進呈神宗曰
祖宗爲此名有深意豈可輕議
政和二年始並改爲以通侍大夫易客省使正侍
大夫易延福宮使中侍大夫易景福殿使中
亮大夫易宣慶使中衛大夫易宣政使拱衛
大夫易昭宣使供奉官易東頭供奉官

朝鮮總督府中樞院

右侍禁易內侍殿頭左班殿直易內侍
高品右班殿直易內侍高班而黃門之名如故
其屬
御藥院勾當官四人以入內內侍省充掌案
驗方書修合藥劑以待進御及供奉禁中
之用
內東門司勾當官四人以入內內侍省充掌宮
禁人物出入周知其名數而譏察之
合同憑由司監官二人掌禁中宣索之物給其
要驗
凡於書詔手皆具名數憑由付有司準給管勾
往來國信所管勾官二人以都知押班充掌

朝鮮總督府中樞院

出使令文牒之事
後苑句當官無定員以內侍充掌苑囿池沼臺
殿種藝雜飾以備遊幸
造作所掌造作禁中及皇屬婚娶之名物
龍圖天章寶文閣句當官四人以入內內侍充掌
藏祖宗文章圖籍及符瑞寶玩之物而安像設
以崇奉之
軍頭引見司句當官五人以內侍省都知押班及
閤門宣贊舍人以上充掌供奉便殿禁衛諸軍
入見之事及馬步兩直軍員之名
翰林院句當官一員以內侍押班都知充總天文
書藝圖畫醫官四局凡執伎以事上者皆隷焉

中興以來深鑒內侍用事之弊嚴前後者使臣與兵
將往來之禁著內侍官不許出謁及接見賓客
之令
紹興三十年詔內侍省所掌職務不多徒有冗費
可併歸入內內侍省
續文獻通考曰遼世面近侍局設於侍衛司南面
內省官曰內省使內省副使其內侍省官曰黃門令
曰內謁者曰內侍省押班曰內侍左右廂押班曰
內侍都知曰左右承宣使其上京東京各有內省
司各置省使與省副使金內侍職入於衛尉司
司內內侍局中常侍入於宣徽使內其事分領
於宣徽使而內侍者不復充內侍者亦不復其

朝鮮總督府中樞院

職不專宦寺事即文階並授之
弇山堂集曰明吳元年置內使監設令丞奉御內
使典簿等官三年改定內使監御用監秩
皆從三品其後令從三品丞正四品皇門官
秩從四品正從四品副正五品尋置門官正副
同
十七年更定內官諸監庫局及外承運等
庫局品職
尚宮局尚宮一人正五品司記司言司簿司闈正
六品掌記掌言掌簿掌闈正七品女使六人
尚儀局尚儀一人司籍司樂司賓司贊掌籍
掌樂掌賓掌贊女使二人

朝鮮總督府中樞院

一千人

尚服局尚服一人司寶司衣司飾司仗掌寶掌
仗掌衣掌飾女使二人
尚食局尚食一人司饌司醞司藥司饎掌饌掌
醞掌藥掌饎女使二人
尚寢局尚寢一人司設司輿司苑司燈掌設掌
輿掌苑掌燈女使二人
尚功局尚功一人司製司珍司綵司計掌製掌
珍掌綵掌計女使二人品皆與尚宮同
宮正司宮正一人正五品司正二人正六品女使二人
內官監置通掌內使名籍總督各職凡差遣及聞
奏具名奏請設令一人正六品丞二人從六品典
簿一人正九品

朝鮮總督府中樞院

神宮監 掌太廟祭器及祭儀灑掃 設令一人正
七品丞一人從七品奉御一人正八品
尚寶監 掌御寶圖書凡用御寶則奉請並
後付尚寶司官用之畢則捧入 設令一人正七品
丞一人從七品
尚衣監 掌御用冠冕衣服鞾履 設令一人正
七品丞一人從七品奉御四人正八品
尚膳監 掌御膳 設令一人正七品丞一人從七品
司設監 掌御用儀仗輦輅輿帳茵褥帳 設令
一人正七品丞一人從七品奉御四人正八品
司禮監 掌宮庭禮儀凡正旦冬至等節命婦朝賀
等禮則掌其班位儀注及糾察内官人員違犯禮
法者 設令一人正七品丞一人從七品
御馬監 掌御廐馬匹 設令一人正七品丞一人從
七品
直殿監 掌各殿灑掃陳設 設令一人正七品丞四
人從七品 小内史一十五人
宮門承制 掌傳奉宣旨 設奉御五人正八品 又宮
門守門官 掌宮門灑掃時其開閉識察出入
設門正一人正八品副四人從八品
内承運庫 掌宮御金銀段疋等物 設大使一人
正九品副使二人從九品
司鑰庫 掌皇城各門管鑰 設大使一人正九品
副使四人從九品

朝鮮總督府中樞院

巾帽局掌造內府冠帽設大使一人正九品副使
一人從九品
針工局掌造內府衣服設大使一人正九品副使一
人從九品
顏料局掌燒造銀硃等項顏料設大使一人正九
品
司苑局掌種蒔蔬果大使一人正九品
司牧局掌牧養藝生大使一人正九品以上皆於
內官內選用
二十八年重定內官監司庫局與諸門官并東
宮六局王府承奉等官職秩頒皇明祖訓遂為
定制內官監十一曰神宮曰尚寶曰孝陵神宮曰尚

一号
十

膳曰尚衣曰司設曰內官曰司禮曰御馬曰印綬
曰直殿皆設太監一人秩六品左右少監各一人
秩從四品左右監丞各一人秩正六品
三十年又置都知監秩正四品掌內府各監行
移一應關支勘合設太監一人正四品左右少
監各一人從四品左右監丞各一人正五品典簿
一人正六品
大長秋掌皇后宮 續漢書百官志曰秦曰將
行宦者景帝更名大長秋秩二千石掌皇后太
子家或用士人為之中興常用宦者職掌奉宣
中宮命
漢天子卿士掌皆辭釋名曰長秋何皇后宮稱

朝鮮總督府中樞院

天子卿釋曰長秋主宮中凡物所書生成秋欲
使中宮之職如之故為名號皇后陰宮秋者陰
之始長者欲其久也
杜氏通典曰内謁者後漢大長秋屬官有中宮
謁者三人主報中章後魏廿六年皆置有
中謁者僕射諸內侍者有中謁者監六人内
謁者十二人夏周之



三号ノ一

○星湖僿說數卷之四上
宦官廩食不過得試班之守門將毋得娶
妻毋得養子龍爵如是庶乎可也
○高麗史選舉三銓注
凡宦寺之職毅宗五年以鄭誠權知閣門祗
候御史臺以宦者爲朝官無先制争之
元宗元年六月下制宦者閔世沖自幼時以
至今日有救勝疾功不可負限六品叙用宦官
拜參始此
恭愍王元年十二月臺諫交章請依舊制宦官不
許拜六品在傳朝已拜參宦者追奪告身放還
田里

趙浚上言宦者自國初至慶陵（忠烈王）朝不
得參官近年以宦寺傳命之任濫授論道
經邦之列非所以示于朝廷願遵慶陵之制不許朝參

高麗史列傳

高麗閹人其本非賤則賤也高麗不用腐刑在襁
保為猘所噬者皆是也但備宮闈永巷之任
而已不得拜參官其處深遠矣毅宗時鄭諴
由善潤始用事然識之為祗候宰相臺諫固
爭而不奉旨蓋猶有先王之遺風焉齊國公
主嘗獻校人於元世祖頗得執侍闈闥出納
帝藏有事於來使復其家其族因寵至
學於是殘忍僥倖之徒轉相慕效父宮其
子兄宮其弟又其強梁者小有憤怨輒自
割勢不數十年間刀鋸之輩甚多及元政彫
豪閹人用事此輩或官至大司徒者還授軍
章政事者其他皆為院使日卿姻婭弟姪並
受朝命第宅車服僭擬卿相富貴之業漢
南閹人所不及國家每有奏請必賴其力故忠
烈之世已有封君者忠宣以留于元得出入三宮
此輩毋豈相挾令有倖得王擇其先近倖者
皆封君錫爵修睦拔檢合議密宣由是舊
典盡壞恭愍腐索僕者亦輕視本國如伯顏禿
古思李大順高山節李三真高龍普等
皆反噬其主譖遞擇得宮之所謂歸心葉殷

朝鮮總督府中樞院
朝鮮總督府中樞院

二ノ二

輕信日久猜忌大臣以群小為耳目信任閹寺
至列於論道經邦之任唯廟堂議國政而畏
之社稷危不久矣可不戒者惟宦者傳

朝鮮總督府中樞院

二十八五

高麗史列傳

李得芬有寵於辛禑位至贊成事貪鄙饕餮納賄
多行不義與內紛密直睦忠遂毀李仁任崔
瑩宰樞甚舊會議白禑曰李得芬嘗提
調善源庫收田稅入其家又奪養賢之庫田使
不得養士兮欽人財奪土田又嘗逼侍元子於
禿其家私改亂冊以結私黨是非人臣所得
為也得禍亂之禍自此萌矣禑然之流得芬
鷄林藉其家黜假子宦者鄭寶鳳等二十
人又流忠州安東先是睦仁吉奪養賢之庫
在延安府者百餘結仁吉死得芬又奪之至
是成均館上疏請復屬養賢庫從之

朝鮮總督府中樞院

二章ノ七

白善淵本南京官奴毅宗嘗幸南京見而悅之
錄爲養子宦人鄭誠亦官婢也嬖於王善淵狎
之頗有醜聲善淵與王光就常出入王卧內專
擅威福（以下畧）
崔世延怒其妻悍妬有宦爲閹（以下畧）時
宦者寵幸人皆欲爲之多自宮者置宮司錄事
崔成爲宦所誣得遇其情自宮又呂寧縣
民爲崔成都監役被斂銀不堪其苦至世
延家前亦自宮
李淑小字福壽平章郡人母太白山巫女淑有
寵於忠烈封璧上三韓正匡平章君選入元爲

朝鮮總督府中樞院

太監王有所奏請後有功王待甚厚（以下畧）
任伯顏禿古思者壽米是家奴也自宦爲闍赤
宣時封庇仁君食邑事元仁宗於藩邸（以下畧）
李大順蘊泰縣人入元得幸用事忠宣繼藩泰
爲泰安郡封大順泰安府院君嘗與朝闒偶如
（以下畧）
龜山節忠肅時封豊山君忠宣諫其父頑嘗以
府使令奏四庫以贍司及諸院司出銀有差以建
之山節嘗娶金牧卿女（以下畧）
高龍普入元有寵拜資政院使忠惠封完山君
以帝命來賜王衣酒（畧之）普龍乃辛裔妹婿云云
申小鳳臣苟懇入宿凡十一年及王即位隨大護軍錄

随從功爲一等遷上護軍後封寧原府院君魯
國公主薨小鳳守陵喪畢時其勞以忠勤節
義翊戴功臣諱拜密直使高識金議部監事
命下及恭王迎賓鍍是日松嶽山崩時識以爲太祖
宗之法宦者不得受爵者今毀舊法且之嶽崩
鎮之崩者如不由是也轉奉識詳理帝官之庇藥
事將紛繕忠禧

二五/六

高麗史列傳

鄭諴仁宗時爲內侍西頭供奉官以毅宗乳
媼爲妻毅宗即位賜甲第一區援內侍崇班

# 東史綱目十六官職圖

中官沿革 附內侍院

三國 未考

高麗 國初以後但備宮闈之任不得釋 未考

毅宗 自此多寵宦者事見以業權位一世矣

恭愍王 設內府事內常侍內侍監等官後有置內侍府事判事、同判事、知事、僉事以上並設檢校又曰知事、同僉事、左右承直、副承直、謁者、宮闈丞、奚官令、給事、通事自正二品至從九品受官者凡百二十一人 禑罷 恭讓王復

內侍院

麗時成象選官之法曰內侍院曰茶房曰掖曰司衣曰司鑰備宿衛近侍之任名臣亦輔多從內侍中出選甚榮後來冗濫避軍役者爭相充補至無麗事猶存與中官名同而實異

朝鮮總督府中樞院

（大典會通吏典）

內侍府原掌大內監膳傳命守門掃除之任 共一百四十員
部曰○四品以下依文武官仕數加階三品以上則有特旨乃授
（原典）功臣則例加至通訓 長番及出入番者每日給仕一（出番
本（續）諸宦讀書通給別仕二略通一粗通半不通則仕三旬毋因
講四書中自願一書三處 小學三綱行實每三處得通五者
加階免講（年滿六十五亦免）○聽講日給別仕一每朔二度講三
處依上項給仕每朔目講者則七處通者則八處俱通者
六品以上則准轉七品以下則守職四通三略以上者當授陞則
陞授其餘給仕（雖六通七通有粗則給仕）○尚膳二員從二品尚
醞一員正三品尚茶一員正三品尚藥二員從三品尚傳二員正四品尚
冊三員從四品一寫坊達兒二大殿薛里酒房封容臺上王妃殿尚
承內各一薛里達兒止此尚弧四員正五品大殿二廣坊二房王妃殿酒
二房文昭殿薛里世子宮長番達兒止此尚帑四員從五品大殿二廂
庫燈燭二房多人薛里監農世子宮薛里達兒止此尚洗四員從六品
大殿掌務史藥房刀鑰二房掌內苑王妃殿燈燭二房文昭殿
進止世子宮燈燭二房達兒止此尚烜四員正七品酒二房燈宮薛里酒二房
達兒止此尚燭四員從六品大殿門差備王妃殿門差備掌務世
子宮燈燭房達兒止此尚烜四員正七品世子宮門差備各宮薛
里門差備達兒止此尚設六員從七品尚除六員正八品尚門五員
從八品尚更六員正九品尚苑五員從九品

朝鮮總督府中樞院

慎士殿長番攸定出入番二甲子 王妃殿出入番二十 世子
宮長番 並宮殿以大 殿長番並 出入番二十 嬪宮出入番 直山宮 八〇名 窓上 九十

大典會通刑典

(囚禁)原 杖以上囚禁文武官及內侍府士族婦女僧人
啓聞囚禁
續 內侍有罪者啓聞囚禁犯死罪者囚後啓達者先
囚後推
(推斷)原 文武官內侍府士族婦女僧人觀察使啓聞
所犯並不節制使報觀察使啓聞
文武官及內侍府有蔭子孫生員進士犯十惡奸
盜非法殺人枉法受贓外笞杖並收贖公罪徒

私罪杖一百以上決杖
續 宦官妻子奉祀並蔭族犯逆緣坐不合法者亦
不可並罪遠地安配
宗親及文武官時任實官及曾經內侍以上人武臣
內乘室侍官侍衛府郎圍師曾經時任人蔭官
曾經敕敦寧都正以上人因保殺人及贓污外 別軍
後府達免者並勿為請刑直請受教照律 直長
書內侍醫官二品以上亦用此例

法規類纂

宮內府官制中侍從院

奉侍十人以下 奏任

第六九條 開國五百四年十月十日布達第五號至光武九年

朝鮮總督府中樞院

二月二十八日勅令第百廿五號中本官制에特別히規定이有한者と本官制施行日로부터廢止홈이라

光武十年十月二十三日

朝鮮ニ於テ醫ヲ卑ミシ理由

一 舊時ニ於テハ學問ヲ尊ヒ技術ヲ卑ミ政治ヲ重ンシ職業ヲ輕ンシ文武官ハ學問出身ナル政道ニ與ルナ以テ之ヲ尊ヒ文武官中ニ在リテモ文官ヲ最トシ武官之ニ次ケリ醫ハ技術ニ屬シ且ツ職業ナルヲ以テ之ヲ卑ミ人民階級中兩班常人ノ中間ニ位スル「中人」ニ屬セシメタリ随テ醫ヲ以テ任官スル者モ職ハ正三品（典醫監正）ニ止リ文武官ニ對シ下位ニ立テシモノトス李朝正祖ノ時ノ人李重煥ノ八域志四民總論ニ「人品層級甚多宰臣與士

大夫為朝廷搢紳之家 下士大夫則為鄉曲品
官 下此為士庶人及將校醫譯方外閑散人
又下為吏胥軍戶良民之屬……」ト記
シ大典會通ニハ吏典除授(任用)ノ条ニ「三醫司三
品官之子孫勿許承蔭」吏典追贈ノ条ニ「醫
譯中應贈職者勿許參判 總管」ト規定セリ

朝鮮ノ神ト鬼　　廬化　洪敬鉉

「社稷ノ神」

社曰土地之神　稷曰五穀之神　自新羅至李朝必設
社稷壇祭神挙行
(續)山陵山神従祀於山川壇　自新羅行之而至本朝継行、
朝鮮名寺刹ニハ山神閣アリ民衆ハ寺刹ニ参詣シ山神ニ

祭祀ヲ行フ、

「城隍神」

参考 高麗文宗九年宣德鎮新城置城隍神祠賜號崇威春秋致祭

(補)

仁宗十四年西京平金富軾遣人祀城隍諸神、

本朝城隍壇與風雲雷雨同壇享城隍之神、

太宗六年命修治城隍堂壇場給守護人丁、

仁祖十四年上在南漢命祭于本州城隍以祈神助

「淫祀」

本朝白岳神祠在白岳山頂、每春秋醮祭中岳之南山就祭此、

覔神祠在木覔山頂每春秋醮祭今並廢之、

「厲鬼」

戰亡士卒、寃鬼、無嗣鬼、餓鬼、溺死者ナドヲ祭祀スル場所ヲ厲鬼壇ト云フ、

本朝厲壇在北郊享無嗣鬼神

定宗二年設厲祭壇命州縣亦設壇

本朝太祖參贊門下府事權近言古者凡有功民及死事之人無不致祭無祭之鬼亦有泰厲國厲之法今宜遵明朝之法、從之、

「參考」

國家宗廟ニハ祖先神ト云ヒ私家父母祖上ヲ亦家神ト云フ也、

而シテ各地方ニ於テ神ト鬼ヲ祀ル事アリ仮令京畿

道麻田、積城、開城等ニハ君雄神ヲ祀ル事アリ、
松都豊徳郡徳物山ニ崔瑩将軍ヲ（高麗時ノ名将）祀ル事
アリ其附近ノ人民ハ老幼ヲ問ハズ祈祷祭祀ヲ行フ
事盛大ナリ、

慶尚道聞慶、尚州、江原道全部ノ人民ハ五月頃、
金溥大王ヲ祭祀スル事アリ、

忠清道、慶尚道、全羅道一面ニ二月頃家々ニテ餅飯ヲ造
ヘテ山嶺童鬼神ヲ祀ル
嶺童鬼トハ原来寧陽郡廳ノ通引ナリ其童カ冤罪ニ依
リ殺害セラルモノニテ死后其幽霊カ度々民間ニ顕ストイフノア
人民ハ其通引ヲ冤鬼トシテ祭ルノアル、
咸鏡道ニ於テハ人民カ南慎閔氏ヲ祀ル事アリ咸興郡ニハ三月

呼、蟠龍山ニ登リ痘鬼ヲ祀ル事アリテ婦女子ハ盛ニ参詣ス、
平安道ニハ五月五日ニ關羽廟ニ参詣シ祀ル事アリキ
文獻備考ニ依レバ神ハ国王、偉人ニ対シ神トシテ無嗣
者、冤死者ヲ以テ鬼神トスルガ如シ、
参考トシテ民家ニ於テ家屋所在地ノ地主神ト家屋守
リ神ナドハ城主神ト云ヒ又府君大監トモ云フモノアリテ

祀ル事アリ此レヲ祀ルニハ毎月餅ヲ造ヘ酒ト共ニ以テ祀ル
習慣アリ就中十月ニハ酒餅及牛頭足、豚頭等ヲ
盛大ニ供ヘテ祀ルノガ風俗テアル十一月冬至日ニハ胴鬼
ニ対シ赤豆粥ヲ供スル風アリ
下級人民ニ至リテハ家族中病疫アル時ニハ悪鬼ガ憑ク
タリトシ湯食ヲ造ヘテ路上ニ投棄スル事多クアリ、尚

ト巫覡ヲシテ之レヲ祈禱スル事モアリキ四五十年前ニハ種痘ナキ為メ一般人民ハ天然痘ヲ恐懼シ其時ハ痘神アリト云フテ祀ルト云フテ祓禳スル風習アリタリ、又虎列刺流行ノ時ニハ癘鬼接近スルト云フテ朱砂ニテ逐鬼二字ヲ書シ門楣ニ張リ付クル風アリ船頭ハ海上危険ノ時ニハ海鬼神アルト云フテ船中ニ於テ祀ル事アリト云フ、

屋敷ニ於テ化物アル家ハ世人之レヲ化物屋敷ト云フ朝鮮ハ化物ヲ獨甲ト云フ此レ即チ悪魔又ハ魔鬼ト云フ意味ナリ

# 支那古代の姓氏に關する研究(一)

内田銀藏

このごろ日本古代の氏族制度を研究するに當り支那古代の姓氏のことをも聊か取調べ置かんと思ひ立ちたり。思ひ立ちたるばかりにて其の研究に從事することと日なほ淺く諸書の記事未だ博く之を捜るに及ばず先輩の考說未だ之を知るに及ばざるもの多し。然れども少しく知り得たる所を收録して他日の備忘に供しまたそれにつき聊か思ひ浮びたることどもを書き集めて暫く假說として之を提出し世の識者の批正を仰がんと欲

朝鮮總督府中樞院

す。

## 第一「左傳」及「國語」に存する姓氏研究の資料

支那古代の姓氏に關する記事は、支那の古書、特に「國語」及「左傳」等に多く存す。中に就きて先づ最も普通に引用せらるゝは「左傳」（校本巻一）隱公八年の條なり。今其の文を左に録し、參考の爲め杜預の解をも附し置くべし。（圏點は余輩の注意を惹ける所に之を附す但し必らずしも其の圏點を附したる所の記事を採り其の見解又は解釋を認むるといふには非るなり下皆之に同じ諸家の考説に圏點を附する場合其の説に従ひ難しと思はるゝ所にも注意を惹ける上は同じく之を附す。）

無駭卒、羽父請謚與族、公問族於衆仲、衆仲對曰

天子建德（立有德以為諸侯）因生以賜姓（因其所由生以賜姓謂若舜由嬀汭故陳為嬀姓）胙之土而命之氏（報之以土而命氏曰陳）諸侯以字（諸侯位卑不得賜姓故其臣因氏其王父字）為謚因以為族（或便即先人之謚稱以為族）官有世功則有官族、邑亦如之（謂取其舊官舊邑之稱以為族、皆稟之時君）公命以字為展氏（諸侯之子稱公子、公子之子稱公孫之子以王父字為氏無駭公子展之孫故為展氏）

「左傳」（校本巻二十六）昭公二十九年の條の記事はまた、支那古代に於て姓氏の性質及起原に関し如何なる思想存在せしかを徴するに足るものゝ一なりとす。其の文左の如し。（杜氏の解を附することと上に同じ。）

秋龍見于絳郊（絳晉國都）魏獻子問於蔡墨（蔡墨晉大史）

朝鮮總督府中樞院

曰吾聞之蟲莫知於龍以其不生得也謂之知信乎對曰人實不知非龍實知(言龍無知乃人不知之耳)古者畜龍故國有豢龍氏有御龍氏(豢御養也)獻子曰是二氏者吾亦聞之而不知其故是何謂也對曰昔有飂叔安(飂古國也叔安其君名)有裔子曰董父(裔遠也玄孫之後為裔)實甚好龍能求其耆欲以飲食之龍多歸之乃擾畜龍以服事帝舜帝賜之姓曰董氏曰豢龍(擾順也)(豢龍官名官有世功則以官氏)封諸鬷川鬷夷氏其後也(鬷水上夷皆董姓)故帝舜氏世有畜龍及有夏孔甲擾于有帝(孔甲少康之後九世君也其德能順於天)帝賜之乘龍河漢各二(合為四)各有雌雄孔甲不能食而未獲豢龍氏有陶唐氏既衰其後有劉累(陶唐堯所

治地)學擾龍于豢龍氏以事孔甲能飲食之夏后嘉之賜氏曰御龍(夏后孔甲)以更豕韋之後(更代也以劉累代彭姓之豕韋累尋遷魯縣豕韋復國至商而滅累之後世復承其國為豕韋氏在襄二十四年)龍一雌死潛醢以食夏后(潛藏也藏以為醢明龍不知)夏后饗之既而使求之(求致龍也)懼而遷於魯縣(不能致龍故懼遷魯縣自貶退也魯縣今魯陽也)范氏其後也(晉范氏也)獻子曰今何故無之對曰夫物物有其官官脩其方(方法術)朝夕思之一日失職則死及之(失職有罪)失官不食(不食祿)官宿其業(宿猶安也)其物乃至(設水官脩則龍至)若泯棄之物乃抵伏(泯滅也抵止也)鬱湮不育(鬱滯也湮塞也育生也)故有五行之官是謂五官實列受氏姓封為上公(爵上公)祀為貴神社稷五祀是尊是奉(五官之君

長能脩其業者死皆配食於五行之神爲王者所尊奉 木正曰句芒 正官長也
取木生句曲而有芒角也其祀重焉 火正曰祝融 祝融明貌其祀犂焉 金正
曰蓐收 秋物摧蓐而可收也其祀該焉 水正曰玄冥 水陰而幽冥其祀脩
及熙焉 土正曰后土 土爲群物主故稱后也其祀句龍焉在家則祀中霤在野
則爲社（中略）獻子曰社稷五祀誰氏之五官也 間五
官之長皆是誰 對曰少皞氏有四叔 少皞金天氏 曰重曰該
曰脩曰熙實能金木及水 能治其官 使重爲句、芒、該、
爲蓐收、金正 脩及熙爲玄冥、二子相代爲水正 世、不、失、職、
遂、濟、窮、桑、此其、三、祀、也、窮桑少皞之號也四子能治其官使不失職濟
成少皞之功死皆爲民所祀窮桑地在魯北 顓頊氏有子曰犂爲祝
融、犂爲火正 共、工、氏、有、子、曰、勾、龍、爲、后、土、共工在大皞後神農
前以水名官者其子句龍能平水土故死而見祀 此其二祀也后土爲

社 方答社稷故明言爲社 稷、田、正、也、掌播殖也 有、烈、山、氏、之、子、
曰、柱、爲、稷、烈山氏神農世諸侯 自、夏、以、上、祀、之、祀柱 周棄亦
爲稷 棄周之始祖能播百穀湯既勝夏、廢柱而以棄代之 自、商、以、來、祀、之、
傳言蔡墨之博物

是れ主として龍の話にして、それより五行の官、即ち五官のことに及び社稷五祀を説きたるものなれども同時にまた姓氏のことを説明したるものなり。其の他左傳には姓氏研究の資料に供すべき實例頗る多し。

「國語」に於ては先づ卷一周語上に宣王民を大原に料（かぞ）ふるの條あり曰く宣王既に南國の師を喪ひて乃ち民を大原に料ふ、仲山父諫め

て曰く、民は料ふべからざるなり、夫れ古には民を料へずして而して其の少多を知る、司民孤終を協へ、註に司民、掌登萬民之數、自生齒以上、皆書於版、協合也、無父曰孤、終死也、合其名籍以登於王といへり司。商。名。姓。を。協。へ。律昭之を解して曰く司商、掌賜族受姓之官、商金聲清、謂人始生吹律合之定其姓名と司徒、旅を協へ司寇姦を協へ牧職を協へ工革を協へ場、入を協へ廩出を協ふ、是れ即ち少多死生出入往来は皆知るべき也（中略）且つ政なくして而して民を料ふるは天の悪む所なり政に害あつて而して後嗣に妨げありと王卒いに之を料ふ幽王に及んで乃ち廢滅しぬと。此の文は支那古代に於ける人口調査の由來、及特に人口調査を行ふを不可とせる思想の起原を考ふる上に於て重要なる資料なるが文中に司姓協名姓の語あることは姓氏研究に志すものゝ直ちに注意する所なるべし。それよりも姓氏研究の資料として一層興味あるは巻二周語の中、富辰が襄王の翟女を以て后とするを諫む條なり。是れは特に大切なれば稍々長けれども左に其の原文を録し要用と思ふ所には注解の文をも附載し置かん。

十七年王降翟師以伐鄭也降下王徳翟人、將以其女為后富辰諫曰不可夫婚姻禍福之階也利内則福由之利外則取禍今王外利矣樹利於翟

朝鮮總督府中樞院

其無乃階禍乎昔摯疇之國也由大任摯疇二國任姓奚仲仲虺之後大任之家也大任王季之妃文王之母詩云摯仲氏任又曰思齊大任文王之母杞繒由大姒杞繒二國姒姓夏禹之後大姒之家也大姒文王之妃武王之母齊許申呂由大姜四國皆姜姓四岳之後大姜之家大姜大王之妃王季之母陳由大姬陳媯姓舜後大姬周武王之女成王之姊傳曰以元女大姬配虞胡公而封諸陳是皆能內利親親者也昔鄢之亡也由仲任密須由伯姞鄶由叔妘聃由鄭姬聃姬姓文王之子聃季之國鄭姬鄭女為聃夫人同姓相取猶魯昭公取於吳矣亦其黷姓所以亡息由陳媯鄧由楚曼羅由季姬盧由荊媯是皆外利離親者也王曰利何如而內何如而外對曰尊貴明賢庸勳長老愛親禮新親旧然則民莫不蠲其心力以役上令官不易方而財不匱

竭求無不至動無不濟百姓兆民百姓百官也官有世功受氏姓也夫人奉利而歸諸上是利之內也十億曰兆夫人猶人人也若七德離判民乃攜貳各以利退上求不暨是其外利也夫翟無列於王室列位次也鄭伯南也王而卑之是不尊貴也翟豺狼之德也鄭未失周典王而蔑之是不明賢也平桓莊惠皆受鄭勞王而棄之是不庸勳也鄭伯捷之齒長矣王而弱之是不長老也翟隗姓也隗姓赤翟鄭出自宣王王而虐之是不愛親也夫禮新不間舊王以翟女間姜任非禮且棄舊也姜氏任氏之女世為王妃嬪今以翟女代之為棄舊也王一舉而棄七德臣故曰利外矣書有之曰必有忍也若能有濟也王不忍小忿

而棄鄭又登叔隗以階翟（階階翟禍也）翟封豕豺狼也不可厭也王弗聽十八年王黜翟后（十八年魯僖二十四年也黜廢也翟后既立而通於王子帶故廢之）翟人来誅殺譚伯（誅責也翟人奉子帶以攻王而殺譚伯譚伯周大夫）富辰曰昔吾驟諫王王弗從以及此難若我不出王其以我爲懟乎乃以其屬死之初惠后欲立王子帶故以其黨啓翟人翟人遂入周王乃出居於鄭晉文公納之

同じ巻なる單子陳の亡ぶるを知る條には瀆姓の語あり。巻三周語下靈王二十二年（魯襄之二十四年）大子晉川を壅ぐことを諫むる條はまた頗る參考に資すべきものありとす。今要用ある部分だけを左に摘錄せん（註文は必要と考ふる所だけを附記し其の他は略す下亦同じ）

皇天嘉之胙以天下（胙祿也）賜姓曰姒氏曰有夏（堯賜禹姓曰姒封之於夏）謂其能以嘉祉殷富生物也胙四岳國命爲侯伯賜姓曰姜（姜四岳之先炎帝之姓也炎帝之世衰其後變易至四岳有德帝復賜之祖姓使紹炎帝之後）氏曰有呂（以國爲氏）謂其能爲禹股肱心膂以養物豐民人也（肱臂也豐厚也氏曰有呂者以四岳能輔成禹功比於股肱心膂呂之爲言膂也）此一王四伯豈緊多寵皆亡王之後（王謂禹四伯謂四岳也爲四岳伯故稱四伯豈辭也緊是也言禹與四岳豈是多寵之人乃亡王之後禹鯀之子禹郊鯀而追王之四岳共工從孫共工侵陵諸侯以自王言皆無道亡非伯王所起明禹岳之興非因之也）而唯能釐擧嘉義（擧用也）以有胤在下守祀不替其典（下後也典常也）有夏雖衰杞鄫猶在（杞鄫二國夏後也猶在在靈王之世）申

朝鮮總督府中樞院

呂雖衰齊許猶在（申呂四岳之後商周之世或封於申齊許其族也）唯有嘉功以命姓受祀迄於天下（受祀謂封國受命祀社稷山川也迄至也至於有天下謂禹也祀或爲氏）及其失之也必有慆淫之心間之（慆慢也間代也以慢淫之心代其嘉功謂若桀也）故亡其氏姓踣斃不振（踣僵也振救也）絕後無主（無祭主也）湮替隸圉（湮沒也替廢也隸役也圉養馬者）夫亡者豈繄無寵皆黃炎之後也（鯀黃帝之後共工炎帝之後）唯不帥天地之度不順四時之序不度民神之義（義宜也）不儀生物之則（儀準也）以殄滅無胤至於今不祀及其得之也必有忠信之心間之（以忠信之心代其慆淫也）度於天地而順於時動（順四時之令而動也）龢於民神而儀於物則故高朗令終顯融明（朗明也終猶成也融長也）命姓受氏而附之以令名（附隨也）若啓先王之遺訓（啓開也訓教也）省其典圖刑法（典禮也圖象也）而觀其廢興者皆可知也其興者必有夏呂之功焉其廢者必有共鯀之敗焉（下略）

巻の十、晋語四、重耳（文公）諸國を徧歷する條にも姓氏に關する記事あり其文に云ふ。

公子過鄭文公亦不禮焉叔詹諫曰臣聞之親有天用前訓禮兄弟資窮困天所福也今晋公子有三胙焉天將啓之同姓不婚惡不殖也（殖蕃也）狐氏出自唐叔（狐氏重耳外家也出自唐叔與晋同祖唐叔之後別在犬戎者）狐姫伯行之子也實生重耳（下略）

それより少し後の段は極めて重要なり其の

朝鮮總督府中樞院

文左の如し。

秦伯見公子曰寡人之適此爲才、子圉之辱備嬪、嬙焉（辱質於秦時嬪嬙婦官也）欲以成婚而懼離其惡名非此則無故（言欲以成婚懼以爲子圉妻恐離其惡名非有此則無它故）不敢以禮致之歡之故也（不敢以婚姻正禮致之而令與於五人歡愛此女故）公子有辱寡人之罪（辱謂降服也言寡人不備禮故令公子卑之此自寡人之罪）唯命是聽（進退此女聽公子命）公子欲辭（嫌於骨肉相取己欲辭讓不敢當也）司空季子曰同姓爲兄弟（季子晉大夫胥臣臼季也後爲司空賈侍中云兄弟婚姻之稱也昭謂同姓爲兄弟謂同父而生得姓同者乃爲兄弟以言惠公重耳其禮不同則子圉道路之人可以取其女）黃帝之子二十五人其同姓者二人而已唯青陽與夷鼓皆爲己姓（其二人相與同德故俱爲己姓青陽金天氏帝少昊也）青陽方雷氏之甥也夷鼓彤魚氏之甥也（方雷西陵氏之姓也彤魚國名）（帝繫曰黃帝取於西陵氏之子曰纍祖實生青陽姊妹之子曰甥聲雷纍同）其同生而異姓者四母之子別爲十二姓凡黃帝之子二十五宗其得姓者十四人爲十二姓（得姓以德居官而賜之姓也謂十四人而二人爲姬之二人爲己故十二姓）姬酉祁己滕箴任荀僖姞儇依是也唯青陽與倉林氏同於黃帝故皆爲姬姓（二十五宗唯青陽與倉林德及黃帝同姓爲姬也）同德之難也如是昔少典取於有蟜氏生黃帝炎帝黃帝以姬水成炎帝以姜水成（姬姜水名也成謂所生長以成功也）成而異德故黃帝爲姬炎帝爲姜二帝用師以相濟也異德之故也（濟當爲擠擠滅也傳曰黃帝戰於阪泉是也）異姓則異德異德則異類異類雖近男女相及以

生民也重耳懐嬴之舅故又言此以勸之也近謂有屬名也相及相嫁取也同姓則同德同德則同心同心則同志同志雖遠男女不相及畏黷故也畏褻黷其類也黷則生怨怨亂毓災災毓滅姓毓生也是故取妻避其同姓畏亂災也故異德合姓合德合義合姓合二姓為婚姻也合義以德義相親義以道利利以阜姓姓利相更成而不遷乃能攝固保其土房攝持也保守也房居也今子於子圉道路之人也言德姓異也取其所棄以濟大事不亦可乎

（下略）

以上煩を厭はず茲に原文を引用し置く所以は此等「左傳」及「國語」の文は以下引く所の諸家の考説及後段に述ぶべき卑考に大なる関係あるを以てなり。「詩」「書」「禮記」及「史記」等にも直接又は間接に古代姓氏の研究上參考に供すべき記事あれどもそれ等は後段必要あるに從ひて之を引證することとなさん（以下嗣出）

朝鮮總督府中樞院

## 支那古代の姓に關する研究（三）

內田銀藏

### 第二　支那古代の姓氏に關する日本人の研究

支那古今の學者姓氏のことを考究したるもの頗る多し今其の考說の重もなるものだけにても茲に擧げ置かんと欲すれどもそれも割合に多くの紙數を要すべければ暫く省略することとし卑考を述ぶるに先きだちて只我邦の學者中此の問題を論じたるものゝ二三を擧げ置くに止めんとす。

先づ伊藤東涯の「制度通」を見るに其の卷十

朝鮮總督府中樞院

に姓氏の事と題して左の如く記せり。唐虞よりさきははるかにして徴なし堯舜の時契と云棄と云禹と云皐陶と云のみただ名を以て相呼んで姓氏名字のわかつべきなし。しかれども稷は姓姬契は姓子といへり。そのかみ姓はあれども後世のごとく連てこれをいふことをきかず夏殷の時より伊尹と云傳說と云その姓なるか氏なる詳にせず亦字あることをきかず周よりして後姓氏名字の別ありて死して又謚と云ことあり後世までこれにより從ひて唐宋以來又別號行第等を以て人を稱することとおこれり。

姓と氏と古へは差別ありて秦漢已來は通用してわかちなし。左傳隱公八年に曾大夫衆仲曰天子建德因生以賜姓胙之土而命之氏諸侯以字為謚因以為族官有世功則有官族邑亦如之と云り。是にて姓氏族の差別あきらかなり。たとへは舜は嬀汭に生る故に姓を賜て嬀と云其外夏は姒姓殷は子姓周は姬姓諸侯にては齊は姜秦は嬴楚は芈と云がごとき皆姓なり。舜は陳に封ぜらるゝによりて氏を命じて陳氏と云。是皆天子より賜ふことなり。諸侯は姓を賜ひ土を胙ひ

朝鮮總督府中樞院

ちるゝことならざるによりて氏を賜ふ。其内に字あり諡あり官あり邑あり魯の公子展が子孫を展氏とし、鄭の子罕が子孫を罕氏とし、子國が子孫を國氏とするがごとき是先祖の字を以て氏とするなり、その時の例祖父の字を取ることとなり、又宋の戴公の子孫を戴族とし、桓公の子孫を桓族とするがごときは先人の諡を以て族とするなり司空司馬のごときは官の名を取て族とするなり南宮・北宮・東門・西門のごときは舊邑の稱を取て族とするなり、この四つのものは諸侯のたまふことにて、かくの如く氏と

朝鮮總督府中樞院

族との別ありといへども畢竟皆氏なり、當時の人姓と氏とあり、たとへは鄭の國參氏をいへば國氏なり、姓をいへば姫姓なり宋の桓雕氏をいへば桓氏なり姓をいへば子姓なり其外も人々そのわけあきらかなるべし、しかれども姓を以て人を稱することなし、ただ婦人は伯姫季姫は字に付けて稱す文姜戴嬀は諡に付けて稱すみな姓なり周公召公を姫旦姫奭とよぶがごときは後世より稱しれることにて當時の稱呼にあらず、

秦漢このかた改て姓氏を賜ふことゝなし偶

朝鮮總督府中樞院

その事あれども定りたる法にあらずこれより後姓と氏と混じて相通用すたとへば漢の高祖を姓劉氏とひふがごとき劉は本氏なれども是を姓と記し、又劉氏と云後世までこの通りなり、大抵かくの如きことはもとは其わかちあれども後世通用して云ひつけたる上はさのみたゞすべきにあらず

東涯は支那に於ても最初は普通にはたゞ名を以て相呼んで姓氏名字の分つべきなかりしとし、姓ありとするも後世の如く連ねてこれを云ふことを聞かずと云ひ周よりして姓氏名字の別明かなりとし、余輩が前に引用し置きたる左傳隠公八年の條の文に據りて姓、氏、族の別を論じたり、其の舜は嬀汭に生る故に姓を賜て嬀と云ふと說けるを以て見れば、姓は專ら居所に由て稱するものと思惟したるが如し東涯は又先秦の時代にありては姓を稱したることを注意したるなり。

尚ほ『制度通』の同じ巻名字の事の條下に左の說あり、またれ參考に資すべし。

上世の人はたゞ名ばかりにして字なし天子にても舜と云、禹と云、啓と云、湯と云て別稱なし、しかれども湯のことばに予小子履

朝鮮總督府中樞院

とのたまふしかれば履は名にして湯と云は後世の謚號の類と見へたり、周の世になりて禮文全く備りて字謚等おこれり記の曲禮に云男子二十冠而字、檀弓に云幼名冠字五十以伯仲死謚周道也と是なり周の時には子生れて三月めに名を付て二十歳に成りて元服を加へ字を付て官爵あるものは死後に謚を賜ふなり、秦漢このかた大様この通りなり、又漢よりこのかたは人によりて又小名といふものあり、司馬相如を太子と云曹操を阿瞞と云がことし

名字と云はたとへは顔子なれば名を回と云、字を子淵と云、子路なれば名を由と云、字を子路と云、名と字とは必義理の縁を取る淵はめぐる意あり路はよる意あり何れもその通りなり、後世には字を又表字とも云かくのごとく名と字と二つつくわけは人の名をさしあてゝ言あらはすは先への無禮なるゆゑに先の名をいはずして字を呼ぶ、その為めに字を付くこととなり故に人を稱するには臣子門人の属わが目下なるものは直にさきの名を稱す、夫子のことばに定りて鯉也回也、由也、賜也とのたまふの類又わが尊ぶところの人はさきの名を呼ぶ

朝鮮總督府中樞院

ことをはばかりて字を呼ぶなり論語に子路子貢と稱する孔氏の門人先輩を推し尊んで稱せらるゝなり又いよ〱尊んでは子と稱す、孔子孟子と云がごとき是なり後世になりて字を呼ぶこともはばかり多きやうになり或は官を稱し或は號を稱するの類さまざまあり

宇野士新(明霞)の「姓氏解」二巻は元文五年(西暦一七四〇年)の刊に係る。上巻は專ら支那の姓氏を論じ下巻は主として日本の姓氏に就き説けり。

其の支那の姓氏を論ずるや更に古氏姓と今姓氏とを區別して辨證す。古氏姓の條に於て論ずる所も頗る長くして今茲に悉く引くこと能はず其の主要なる一節を擧ぐれば左の如し

古の姓氏と秦漢以來の姓氏と日本のウヂカバネと今の家名と四のもの同らず古の姓氏は史記注云、天子賜姓命氏、諸侯命族、族者氏之別名也姓者所以統繫百世使不相別也氏者所以別子孫之所出也とあり姓は天子のつくるものにて諸侯より下にては姓をつくらず氏は諸侯もその臣下に賜る故に姓は少くして氏は多く姓は本にて氏は末姓

朝鮮總督府中樞院

は重して氏は輕く姓は内にありて氏は外にあり禹貢云賜土姓孔安國曰天子建德因生以賜姓謂有德之人生此地以此地名賜之姓以顯之蔡沈曰錫之土以立國錫之姓以立宗姓はあらはすものにあらざれば古注の説にては氏のことゝなる新註に從べし（中略）氏は事により時にしたがひてかはれども姓はかはらず晉の范氏は劉累の後なり虞以上にては陶唐氏夏にて劉累御龍氏となり商にては豕韋氏となり周にては唐杜氏となり士蔿晉に入て士師の官となりて其後士氏となり士會はじめ隨に食采し後范をうけて范氏となる士會が秦へ奔しとき、その子孫秦にとまりて又劉氏となるしかれども堯より以來姓はみな祁なり（下略）

「士新は婦人は姓を名乘りて氏をわかたず男子に姬姜を名乘りし人なし姓の字の女を旁にするもこれ「故ならん古の神母天に感じて」子を生たるゆゑなりといふは信じ難しとす。古は男子姓を名乘らず婦人は外に名を出さゞれば姓名といふ語なし孫子の書に始めて姓名の字あり凡そ氏族は才德功業によりて分るゝものなれば父子兄弟の間にも分るゝこともありて婦人にかゝらず姓は血脈に

朝鮮總督府中樞院

つくものなれば百世の久しきにもかはらずして姓同じければ婚姻を通ぜず或は貴者は氏あり賤者は名あつて氏なしとの説もあれど氏は貴賤を別つものに非ず賤者に氏なしといふは非なりと以上は士新の説の一班なり。

中井履軒の著「履軒漫録」には姓氏断と題する文あり余は内藤博士の厚意により博士所蔵の「履軒漫録」を借覧し姓氏断を讀みたるが議論頗る警拔にして敬服の至りなり。今其の主要なる数節を左に録す。

上古賜姓之法至于武王周公而廢矣夏殷亦不足徵是故尤難料理漢以降之紊亂則亡論已吾聞昔者黃帝二十有五子其得姓者十有四雖若荒唐難信者其理猶可推矣蓋天子多子必須分異其嗣子襲父姓不勞賜焉其諸子分封各賜姓以分別之別者因母譬其母字阿爲者則賜其子以嬀姓字阿吉者則賜其子以姞姓其同母者姓亦同之傳曰因生以賜姓迷古制也謂所生即指母也故文從生從女而姓之文亦多從女所謂嬀姞姚姒姬嬴姜是也蓋當其時制文也夫同父兄弟同相親愛者也況同母者同室而寢食焉則其親愛更有加焉又賜姓而同母同之是同父兄弟之中而同母之

朝鮮總督府中樞院

親更篤也周公與康叔同母故兄弟中最親厚
云是自然之理

舜亦帝者之裔也蓋其祖既受嬀姓而世居于虞故其房邊之水有因而得名者也書曰釐降二女于嬀汭是也夫姓祖先帝王之所賜非他人所能爲也舜既世守焉堯安得奪而更賜焉且爲水製名者文何不從水是水隨姓而得名亦明矣古者謂百官族姓爲百姓而庶民不與之庶氏無姓故也

古者唯婦人用姓矣男子有姓而弗之用其所用唯氏矣於是姓氏無相淆已夫姓終始依婦人文從女不亦宜乎

朝鮮總督府中樞院

履軒は生に因るの生るゝ所の地と解せず所生の母と解し同父にても異母ならは異姓同母ならば同姓とす又嬀姓は嬀水の傍に居りし故に其の姓の稱起りたるに非ず却て嬀姓の人其の河邊に住したる故に其の河流を嬀と呼べるなり若し然らずして最初河流の名稱たりしならば嬀の字宜しく水に随つて其の名を得たるや明なりと論ず是れ頗る注意すべき議論なり。

村瀬栲亭の「秇苑日渉」には巻之一に姓氏と題し支那日本の姓氏を合せ論ず其の專ら支那古代のことを論じたる部分左の如し

朝鮮總督府中樞院

方容之曰姓所以繫百官之正統氏所以別子孫之旁出族則氏之所聚而已三代時姓氏分而為二男子稱氏婦人稱姓氏以別貴賤貴者有氏賤者有名無氏三代之後姓氏合而為一（丹鉛錄曰唐明皇問張說曰今之姓氏皆云出自帝王後古者無民耶說對曰古者民無姓有姓者皆有土有爵者也故左傳云天子命德因生以賜姓胙之土而命之氏黃帝之子二十五人得姓者十四而已其後居諸侯之國土者其民以諸侯之姓為姓居大夫之采地者以大夫之姓為姓莫可分辯故云皆出自帝王也說此言考古證今不刊之論）顧炎武曰言姓者本於五帝見於春秋者得二十有二旬戰國以下之人以氏為姓而五帝以來之姓亡矣然戰國時人大抵猶稱氏族（戰國策甘茂曰昔者曾子處費費人有與曾子同名族者而殺人不言姓而言族可見當時未嘗以氏為姓也）漢人則通謂之姓（姓氏之稱自太史公始混而為一本紀於秦始皇則曰姓趙氏於漢高祖則曰姓劉氏）

榜亭は士新と異り通說に從ひ古へ貴者は氏あり賤者は名あつて氏なしとし張說の言を引きて以て憑據とす。榜亭また顧炎武の言を引き其の說を採れるしとなるか言姓者本於五帝見於春秋者得二十有二旬戰國以下之人以氏為姓而五帝以來之姓亡矣は「日知錄」姓の條の首尾の文を節錄しれるなり。戰國の時の人大抵猶ほ氏族を稱すとして戰國策を引き又姓氏の稱太史公より始めて混じて一と為す云々は同じく「日知錄」氏族の條よ

り採れるものとす（「日知錄集釋」巻二十三參看）。近時の學者にして支那姓氏のことを論じれる人としては先づ故那珂博士を擧ぐべし。那珂氏の「支那通史」巻之一（明治二十一年西暦一八八八年出版）第七篇世態及文事の部には第一章に名字姓氏及世族を說き第二章に嫁娶の制を論ず其の說頗る詳細にして傾聽すべきものあり。又有賀博士は往年其の著「社會學」巻三族制進化論（明治十七年西暦一八八四年刊行）の中に於て支那の姓氏のことに言ひ及ばれ其の以後の著述に於ても亦之に論及せられたり。星野博士は「支那天子の名義と其古代祭天」と題する論文（明治三十八年、西暦一九〇五年發行史學雜誌第十六編第一號掲載）の中に於て、

「抑五經異義も說文も同じく許愼の著はす所なるに其說前後同じからず五經異義には左氏說の「聖人皆有父」と云へるに從へども說文を作る時には「神聖人母感天而生」と云ひ鄭玄の說と同じく聖人の父なきを言はざるは此れ文字は古代に於て制造せられ當時の眞相を寫したるものなれは其說を改めて古代の事實に從ひしなるべし何となれば姓の字は女に从ひ生に从て男生

朝鮮總督府中樞院

に从はずこれ古時女子は多く父母の家に在て夫婦同居せず故に其子は母あるを知て父あるを知らず氏姓は母家所在の地名川名に取て之を稱す姜、姫、姚、嬀の類の如き皆是れなり（姜水姫水は母家近傍の川名姚墟嬀汭も母氏居る所の地名なり其子因て以て姓と爲す猶我が蘓我に居る者は蘓、我を以て氏と爲し平群に居る者は平群を以て氏と爲し之を骨名（カバネ）に連て稱號と爲すが如し）又姞嬴妘姺の如きも女に从へる文字なれば母に因みて得たる姓なるべし唯其幼より母家に在て父と同居せず故に神聖

朝鮮總督府中樞院

の人は其母天に感じて己を生みたると稱するを得るなり世人の之を聞くものも其人の神異を見れば亦皆其言を信じて敢て疑はざるなり此皆姓の字に因て其義を窺ふを得べし「有父無父」の論の如きは言ふに足らざるなり」

と説かる。又橋本增吉氏は明治四十三年（西暦一九一〇年）發行の「史學雜誌」第二十一編第七號に「支那古代に於ける姓氏の意義に就きて」と題する長篇を掲げ諸書の記事を引用して之を批評論辯せられたり。橋本氏は白鳥博士の説をも引かれたるが橋

朝鮮總督府中樞院

本氏引く所に據れば白鳥氏の說は「其比較的後代に至り天子が姓氏を賜ふの頃に及びては姓氏の意義既に一變せるものにして一種の爵位的性質を帶ぶるに至りしものの如く從て其天子より賜ひし後代の所謂姓氏なるものは必しも其原始的性質を有するものにあらざるべし」といふにあるもの丶如し。

成るべく簡單に致す爲めに專ら他の學者の中說を擧げて是迄に如何なる研究あり如何なる說ありしかを示すことは先づ暫く是れだけに止め置くべし。此の外は必に應じ以下卑考を述ぶるに當り併せて之を擧ぐることとす。(以下嗣出)

# 濟州嶋ニ於ケル人情風俗慣習 其他

濟州ト陸地トノ異同

濟州人ハ風俗言語等朝鮮本土ニ異ナレリ女子ハ殊ニ出稼心大ニ發達シ其遠近ヲ問ハス朝鮮ノ沿海ヲ初トシテ支那内地等ノ各地ニ出稼スルノ慣習アリテ近來殊ニ内地ニ出稼スルモノ多シ而シテ婦人ハ一家ノ生活支持ニ全力ヲ傾注シ夫ノ為ニ勞力スルヲ厭ハス夫ヲシテ衣食ニ窮セシムルハ家婦トシテノ恥辱トスルノ風アリ從ツテ農、商、樵、牧、馬毛細工裁縫（ミシンヲ含ム）潜水漁業等ニ從業シ一家ノ生計ヲ繋ク者ハ多ク婦人ノ力ニシテ男子ハ悠々閑々トシテ光陰ヲ徒銷スルノ風アリ資本ヲ要スル事業ヲ除キ日常ノ家計ハ概ネ家婦ニ於テ之ヲ為シ其ノ實權モ婦人ニアリト謂フヘシ

朝鮮總督府中樞院

人情

本島土人ハ殺傷ヲ好ミ争闘スルノ風アリ賣買ヲ為スニモ他島人ニ對シテハ兎角代ヲ高クスル等排外ノ傾向アリテ本土人ニ對シテハ少兒ト雖陸地ノ奴ト云ヒ之ヲ卑メリト謂フ陸ヨリ移住シ二三代ヲ經過シタル者ノ子孫ニテモ陸種ト云ヒテ嘲ケル風アルヲ以テ争論ヲナスコト多シト云フ初對面ノ當初ハ非常ニ親切ナレトモ一ケ月ヲ過キスシテ早クモ踈遠トナルカ如キハ普通ト為セリ又平素出來ノ悪キモノニシテモ本土人ノ子孫ナレハ本土人ノ種何處カ異ナルト賣メテ暗ニ之ヲ嘲ケル風アリ

本島ノ人情風俗言語其他物産ニ至ルマデ本島ノモノニ對シテ悪評ヲ為ス者ニ對シテハ之ヲ喜ハザルノ風アルト云フ殊ニ女子ハ嫉妬心強ク夫他ノ女トノ關係ヲ知ラハ直ニ腕力ニ訴フルカ如キハ

朝鮮總督府中樞院

常ニシテ甚シキハ夫ノ髻ヲ取リ之ヲ打ツ等見ルニ絶ヘザルコトアリト謂フ

風俗

女ノ頭髮ハ黒ク長クシテ且美ナリ家計ヲ助クル最後ノ手段トシテ之ヲ断髮シテ賣ルコトアリテ其ノ價モ拾數圓ニ及フモノアリ而シテ結髮ノ方法モ亦本土ト異レリ

幼兒ハ揺籃ニ寢カスノ風アリ今其ノ籃ヲ見ルニ一尺五寸位楕圓形ノモノニシテ深サ七八寸位ニシテ其底三寸位ヲ上リタル処ニ針線ヲ縦横ニ引キ其ノ上ニ稗又ハ藁ヲ敷キタルモノヽ上ニ臥セシメ其ノ将ニ寢ントスルヤ頻ニ之ヲ揺カシ恰モ内地ニ於テ子女ヲ抱キ揺リ動カシ眠リ易カラシムルニ似タリ手ニテハ仕事ヲ為シ足ヲ以テ之ヲ揺カス等一寸ノ暇モ之ヲ無益ニ過コスカ如キコトナシ又物ヲ運搬スルニ軽キ物ハ籃ニ入レ横腹ニ之ヲ抱ヘ又ハ重キハ紐ヲ肩ニカケテ背ニ負フコト内地ニ於ケルモノニ仝ジク頭上ニ戴キテ

荷物ヲ運フノ風習ナシ
幼児ヲ背負フニハ内地ニ同シク帯ヲ以テ両肩ニ結ヒ付ケ（又水ヲ汲ム時ハ「カメ」ト云ヘル大ナル瓶ニテ背負フヲ普通トセリ）人ヲ訪問ス
ル際本土ニテハ門外ニテ主人ヲ呼フ本島ニテハ家ノ内ニ入リテ室
ノ戸外ニテ呼ヒ往々何レモ云ハス戸ヲ開ケテ直チニ家ニ入ル等
内地人ノ訪問法ニ類似シタルモノカタシ（水汲壺ハ本土ト異リテ口細キ徳利ノ大ナルモノヲ用ヒ居レリ）
針ヲ運フニハ本土ニテ針ノ線ヲ通シタル端ハ親指ト人指トノ間ニ出ル
モ本島ニテハ其ノ端手ノ掌ニ向フ
女子衣類ヲ洗濯スル場合ニモ本土ト異ナリテ單ニ水ニヒタシ置キ之ヲ左右ニ之ヲ振リテ
炊事所釜ヲ温突ノ焚キ口ニカケス別ニ炊事場ヲ設ケテ炊事ヲナ
洗フニ過キス棒ヲ持チテ打チ或ハ揉ミ洗フカ如キコトナシ
ス本土ト異レリ内地風ニ同シ
女子ハ殆ント内職ヲナスタタヲ七八歳ヨリ之ヲ習フ其ノ重ナル收
職ハ網巾涼太（笠ニスルモノ）宕巾韓帽子等トシ其他耕作ニ従事スル
モノハ二尺内外ノ木綿布「ハチマキ」ヲ為スヲ常トシ牛馬ヲ牽ヒテ田

畑ヲ耕シ或ハ漁業ニ従事スル「アマ」ノ如キモ數千人ニ及ヒリ
女子ハ男子ニ比シ多シ男子ニシテ畜妾セサルハ稀ニシテカタキハ
拾數名ニ至レルモノアリ女子ノカタキニ至リシハ本土ヨリノ交通不
便ニシテ出嫁ノ際風波ノ為ニ一死セスルモノカタキニ基因スト云ヘ
リ（女子ハ牛及穀物ト共ニ他ニ之ヲ出スコトヲ官ニ於テ之ヲ禁止シ
タルコトアリト）
弟ノ嫂ニ對シテ本土ニテハ非常ノ敬意ヲ表スルニ拘ラス本島ニテハ
敬語ヲ用ヒス
本土ニテハ子ナルモノ父親ノ前ニテ喫烟ヲ絶對ニナサス本島ニテハ父
子トモ野ニ出テ仕事ヲ為ス際休ム時ニハ父ノ横向ニナツテ喫烟（直接ニ見エサル様）（下流社會）ヲ為ス
喪式ノ時屍體ヲ喪輿ニ入レテ葬式場ニ行フ時ハ女ハ麻布ニテ造

朝鮮總督府中樞院

リタル褒ヲ被リテ柩ノ前ニ立ケテ行ク
男子ハ女子ヲ虐待シ女子ハ男子ヲ侮辱スルノ風アリテ男女互ニ争闘スルヲ常トシ従ツテ離婚スルカ如キハ稀ナラス殊ニ女子ハ他人ト口論ヲ為スヲ好メリ従ツテ上等下等ノ家庭ノ区別ナク夫婦間ノ離縁スルモノ多ク且ツ何レモ恥トセス而役所ニテ民籍ノ取扱甚タ困難ヲ感スルコトアリト謂フ
昔ヨリ官尊民卑ノ陋習アリテ現今ニテモ官吏ノ訪問ヲ受ケタル時ハ光栄トシ他人ニ誇ル風アリテ区長ノ如キ地位卑キ者ニテモ村民ハ非常ニ尊敬スト云フ本島ノ男女ハ本土ト異ナリテ相互ニ談話ヲ交ヒ之ヲ嫌フカ如キコトナシ
本島男女共同畑ノ草取、臼ヲ挽クトキ、村木茂ル時其ノ他仕事ヲナス際必ラス歌ヲ歌フノ風習アリ歌ノ意義明カナラス且悲觀ノ音調アリ例魚ハ河水ヲ自由ニ水泳シ龍ハ天ニ昇ルト謂ヘリ然ルニ我々ハ全ク自由ナラス等
昔ハ特殊ナル家柄ノ極ク小部分ヲ除キテ顔貌ノ少シク綺麗ナル娘ハ大抵妓生ニ選シテ妓楽ニ入ルト云フ故ニ数十年前ハ妓生中々多カリシト云フ
又山間部落ニ於テハ襪ヲ用フ(長靴)ルノ慣習アリ

朝鮮總督府中樞院

冠

冠禮ハ相當ノ年令ニ至リテ行フヲ例トシ十七八歳ノ者ト雖断髮セサル者即冠禮ヲ行ハサル者ハ之ヲ總角トシテ蔑視スルノ風アルハ本地ニ異ナラス近來チョンカーノ結髮者多シ是等ハ他郷ニ於テ為スモノニシテ自分ノ郷里ニ於テ加冠式ヲ挙ケサルモノハチョンカートシテ之ヲ取扱フモ一般ニ自家ニ雇ヘル小使ニテモ年令多キ者ニハ言語ニ敬語ヲ用ユ

結婚ノ時男幼ナレハ子供ノ儘長髮ニテ婦ヲ貰ヒ女子モ十二三歳マテノ者ニハ断髮スルコトアリテ一見男女ノ見分ケ付カサルモノアリ而シテ冠禮ノ式ハ本地ノ例ヲ慣ヒテ之ヲ為ス

婚姻

婚姻ノ場合ハ婿ノ父、兄又ハ親族中ノ一人ハ上客トシテ女家ニ到リ婚式ヲ行ヒ其ノ日ニ直チニ夫ノ家ニ婦ヲ連レ帰ル（當日ハ男女共乗馬ニテ帽ヨリ五色布尾ヲ垂レ装飾ス式日ニハ新婦ハ終日白衣ヲ被リ顔ヲ出サス）又全ク式ヲ擧ケサル者モアリ又單ニ女家ノ父母ニ挨拶ヲ為シテ直チニ連レ帰リテ式ヲ擧クルコトアリ結納ハ多大ノ金品ヲ送ルコトナク上中下流ヲ通シテ白木綿二疋（又ハ近來白苧一疋ヲ送ルヲ）例トセリ婚姻式ハ簡易ニシテ陸地ニ比シテ頗ル單純ナルモ近来京城ニ慣フモノ多キニ至レリ

五十年前　　男女共二十歳前後

近年　　男十歳内外　女十五六歳（上中下共）

ミレメヌリ（미며누리 預婦）

朝鮮總督府中樞院

男子何歳ニ至リテ男女ノ交ヲ為スヤハ任意ナリト雖十五六歳ニ至レハ仝一構内ニ別居セシメ獨立ノ生計ヲ為サシメ土地ヲ分チテ與フルノ例ナルモ口頭契約ニ過キスシテ文記等ヲ作成スルコトナシ以上上流ニシテ中流ハ二組又ハ三組ノ夫婦アリテ各獨立ノ生活ヲ為スモ下流ニ於テハ同一ノ生計ヲ為セリ

請婚書　口頭ニ承諾ヲ得テ後父、兄、伯叔父、主婚者トナリ婿ノ親族又ハ知友ニ於テ（仲媒人）請婚書ヲ以テ新婦ノ宅ニ送ルハ普通ニシテ往々婿家ノ父ニ於テ自ラ之ヲ携帯シテ新婦ノ宅ニ至ルモノモアリ

許婚書ハ作成セサルヲ普通トス單ニ食事ヲ出シ承諾シタル意ヲ示ス後奠日ヲ定メ封書トナシ新婦ノ宅ニ送ル

某姓某官　宅下執事入納

忝親　某姓名　再拜

新郎何年何月何日何時生

新婦　仝　上

涓吉　（奠鴈、又ハ納幣）何年何月何日何時

養子

兄弟ノ子、従兄弟ノ子等子ノ行列ノモノヲ貰受ケ口頭契約ヲナシタル時成立シタルモノトシ往々未タ生レサル以前ニ於テ契約ヲ為スコトモアリ

宗家兄ニシテ子ナキトキハ弟ノ長子ヲ養子トシ宗家ニアラサルハ弟ノ考ニ依ル弟ニシテ子ナキトキハ兄ノ二子以下ヲ貰ヒ

受クルヲ例トス

養子ノ儀式ハ之ヲ必要トセス單ニ고은밥（コンバプ）（米飯）ヲ炊キテ近隣ノ知己ヲ招キ之ニ饗シ又ハ之ヲ配リ單ニ祝フニ過キス

養子ヲ為シタル後養親ニ男子出生スルコトアレハ養子ヲ歸スコトアリ又養子自生家ニ歸ルコトアリ其他本土ニ於ケル慣習ニ異ナリタルモノヲ發見セス

## 葬祭

葬式擔棺係ハ本土ハ雇人夫ヲ使用スルモ本島ニハ然ラス契員之ニ當リ契ナキトキハ里民モ義務アリテ死棺本土ハ足ヲ前ニスレトモ本島ハ頭部ヲ前ニシテ之ヲ葬スルト云フ

祭ニハ身分不相應ニ飲食ヲ澤山拵ヘ親戚知友相集ツテ食フノミナラス其祭ノ前ニ於テ隣家知友ニ食物ヲ配ルカ如キハ本土トハ正反對ナリ

俗ニ「식기먹는다（シックモゴヌンダ）」ト云フ

葬式ニモ同様ニ飲食ヲ以テ主トナシ行葬ノ時ハ歌ヲ歌フ

行葬ノ時女ハ「너울」ト云フ麻布ニテ造ツタ「치마」ノヨウナモノヲ體全体ニ冠ブリテ泣ク他人ノ死シタル時ト雖一般之ヲ哀哭スル風アリ

葬地、小祥（一年祭）大祥（二年）ノ時ニ弔者多シ（女子モ）祭有リ

朝鮮總督府中樞院

タル後食物ヲ隣家ニ送ルコト多シ
人ノ家ニ凶事慶事アリテ金銭ナド（贈リテ）補助スル（慣例ニシテ）一円（以上ヲ普通トシ稀ニハ六十銭位トス）
近隣知人互ニ救助心ニ強シ本土ニ於テ喪主ニ弔問セサル内ニ互ニ言葉ヲ交ヘスモシ三年過キシトキハ一生ノ間仇讎トナルコトアリト聞クモ済州然ラス

衣服

衣服ハ食物ノ粗悪ニ比シテ衣服ハ比較的ニ奢侈ナリ而シテ柿渋（夏期最モ多ク用ユ）又ハ豚油ヲ以テ染メタルモノヲ着用シ殊ニ豚油ヲ以テ染メタルモノハ色ヲ変フコトナシトシテ一般ニ之ヲ好ミ殊ニ女ハ麻布ヲ用ヒ黄色ヲ好メリ女子ハ시가죠마ヲ被ラス女子ト魚色別衣ヲ着用セス

男子ハ犬ノ毛皮ヲ外套トナシ農夫ハ馬毛製毛笠ヲ使用セリ
男子労働者ハ馬毛（又ハアラツ、ウフゲ）ニテ編ミタル帽子（麦稈帽子同形即벋입）ト云フモノヲ冠ル支那蒙古人ノ冠ルモノニ同一ナリ
女ノ上衣（저고리）特ニ長ク「치마」ハ稍短シ女子ノハカマ（치마）ニ麻織ヲ四季共通用シ女子ノ下内衣（고장중의）ヲ着ルコト（本土）陸地ニ比シテ少シ
ツマク ヲ皆作業ノ時ノミナラス着用ス又本島ハ温キヲ以テカン

バルヲ用ヒス裳ノ下ハ鎌倉時代ノ服ノスソニ似タリ
女ノ「치마」ハ貧乏人ト雖破レタルトコロヲ縫ヒ直シテ着ルコトナシヤブレタ儘ヲ着用セリ

## 食物

食事ハ大ナル飯槽ニ盛リ圓座シテ諸方ヨリ匙ニテ摘ヒテ食シ又汁ノ如キハ大皿ニテ廻シ飲ミヲ為シ副食物極メテ簡單ナリ又圓形ノ食槽（トゲリ）ヲ用ヒ「チサ」ノ葉豆ノ葉等ニ飯ヲ包ミテ食スルノ風アリテ三十年前迄漬物ノ方法ヲ知ラサリシト云フ酒類ハ殆ント粟ニテ作リタル燒酒沖繩縣ノ産粟盛酒ニ似テ極メテ強キテ盛ニ用フ是等ハ濕氣ノ為メ病ヲ受クルコト多キヲ以テ之ヲ用フルト謂ヒ居レリ

牛肉ヲ食用スルモノ尠ク豚肉ハ一般ニ好ムトコロニシテ冠婚喪祭ニ使用シ懐胎セル豚ヲ好ムノ悪風アリ又魚類ハ鱗ヒレ等ヲ除クコトナク唯内臓ノ一部ヲ除ク外ハ皆之ヲ食用ス

食料ハ麦粟ヲ常用シ麦ハ分割ニシテ飯ヲ焚クコト内地ノ如クシ米

飯ハ「곰밥」ト云ヒテ祭ノ時ノ外ハ之ヲ使用スルコトナク僅カノ所謂上流ニ於テノミ少シ使フ飯ノ焚方ハ湯ヲ先ニ沸騰セシメ後米ヲ入ルヽト云フ

草木根皮ヲ食用スルコト極メテ幼稚ニシテ凶作ノ年タリトモ之ヲ利用スル事少ナシ

朝鮮總督府中樞院

住居

家屋ハ一字形ニシテ本土ノ凹字形ノ如キモノアルヲ見ス障子アリ戸アリ内地ノ建物ニ似スタル所多ク壁ハ石ト土ノ練リ合セタルモノニシテ一間ノ倉（고방）ヲ設ケ土間ニ草粟稈ヲ敷キ之ニ寝臥スルノ風アリ女子ノ内房アリト雖男女互ニ往来シテ其ノ障壁ナク内地ノ住居ニ異ナラス又炉アリテ冬期ト雖温突ニ於テ暖ヲ採ルカ如キコト少ナシ而シテ温突ノ燃料ハ馬糞ヲ使用スル風アリテ冬期ハ放牧地ニ採集ノ為行クコト本土ノ採薪スルニ異ナラス其ノ温突焚口ト釜ノ焚口トハ別ニアリテ釜ハ唯台所ノ一隅ニ石ヲ三ツ両側ニ置キ其ノ上釜ヲ乗セタルヲ以テ煙ハ台所一杯ニ煙ハ漲キリ不潔ナルノミナラス火ヲ焚ク際危険ナリ又燃料ノ不経済ニ費消ス木炭ハ釜ノ隣ニ貯ヘ置キ澤山溜メテ畑ニ移ス

朝鮮總督府中樞院

床ハ一般ニ底ヲナセルカ塵ノ立タサル為ノ如ク往々藁ヲ散布セル處モアリ屋根ニハ「カキ」ヲ編マフ其ノ偏厚ク例ヘハ太イ縄（茅ニテ作リタルモノ）ニテ縦横即碁盤ノ目ノ如ク結付ケ屋根一般底モ是レ風ヲ防ク為ナラレカ

部屋ノ中ニハ多ク物入（壁藏）押入ノ据付アリ床ハ貧困者ニテモ板張トシ又間ハ取ニ重式ニシテ其ノ外部ハ間數ニ数ヘス（間取ハ小サク）且ツ狭シ

舎廊（應接室）ノ設備アルモ極メテ少ナシ本土ニ於テハ内房ニ向ケザルガ普通ナルモ本島ニテ之等ノ定メナク間取上ノ都合ニ依リ之ヲ設ケ家屋廊下ハ狭クシテ床板ハ有リ本土ト其ノ構造大ニ趣キヲ異ニセリ

家ノ周囲ニ石垣ヲ高ク積ミ上ケ本土ノ如ク石ト土トヲ交ヘ使用シタルモノハ殆ンドナミ又庭ニ表稈等ヲ散ラシテ不清潔ナルモ之ヲ放任スルノ風アリ

便所特設ナク豚屋ノ一隅ニ石ヲ両方ニ置キ其ノ下ニ落シ大便ハ豚ガ之ヲ食ハシメ其ノ不潔ナルコト満蒙地方ノ如シ

畜舎ハ多ク居宅ト同一棟ニシテ居室又ハ炊事場トハ獨立シテ相隣セリ

朝鮮總督府中樞院

農作

作物ハ撒播ノ方法ハ極メテ粗放的ニシテ粟ノ如キ播種シテ後牛馬頭数又ハ拾数頭ヲ畑ニ入レテ踏マシメ風ノ為メ飛散スルヲ防ゲリ

牛馬ハ家ニ飼フモノ極メテ少ナク殆ント山ニ放牧スル各自ノ牛馬ニ烙印ヲ押シ又ハ耳ヲ切リテ其ノ證ト為スヲ以テ甲乙両者ニ於テ所有争フカ如キコトナシ又上手ニ石垣ヲ積ミ周囲ニ石ノ垣ヲ以テ作リタル畑ヲ以テ風害又放牧セル牛馬ノ乱入ヲ防ゲリ

除草器ハ鎌ノ如シ（鎌ヲホミト謂フ）

穀物ヲ맏바리シ（石ニテ作リタル或臼）ニテ搗ク稀ニ木臼ニテ搗ク何レモ男女共同ニテ歌ヲ歌ヒナガラ之ヲ為ス其ノ聲極メテ淋シ出稼中ニ死セシ夫ニ替ハリ婦女ニ労働セサル可ラサルコトノ苦痛

モ訴フルトコロナラ為ニ歌ヲ歌ヒテ自ラ慰ムニ似タリ語尾底ヲ悲哀ニシテ九州邊ノ歌調ニ似タリ點アリ而シテ男子互ニ協力シテ労働ニ従事シ家計ヲ扶クルハ本土ニ於テ見ラレザル美風ナリ

## 墓地

平地ノ畑又ハ未墾地ニ方形ノ壁ヲ設ケ小門アリテ出入スルコトヲ得セシメ其ノ中央ニ土饅頭ヲ造レル等本土ノ墓地ト大ニ異レリ是等ノ墓地ニ数尺ノ石垣ヲ作レルハ放牧セル牛馬ノ乱入ヲ防クト火災ノ難ヲ避クル為メナリト謂ヘリ

祝日

立春ノ日ヲ御正月ノ如ク明節トシテ貴ヒ秋夕ト称スル祝ノ祭祷ヲ行フ

本土ハ明節ニ新ナル衣服ヲ作リ子供ニ着セシムル風アルモ本島ニ於テハ極テ質素ニシテカカル風習ナク常ニ勤倹貯金ニ富メリ

従ツテ誕生日ニ美食ヲ拵ヘ内祝スルコトカ如キ例ナシ

言語

1馬ヲ「말」ト云フ本島ニテハ「마」ト「므」ト發音カ異ナッテ我々ニハ「므」ノ發音カ出テス本島ハ「마」ト「므」トノ發音異ナル筈ナレハ本島ノ發音其正シキヤ否ヤハ知ラス

2學校モ「학교」ト發音シテ我々ハ其ノ發音シ能ハス

3金五厘ヲ「오림」ト云フヲ國語ト全シ（リンノンヲ去リタルモノナリ）即チ「오리」ト云フ人ナシ

4陸地ニテハ敬語ニテ「오又시오」ハ概ネ「서」ニナリ「해심잇가해심니다」ハ何レモ「해수가、해수다」ニナル

又、이겁벗간」カ「우반」ナリ「이것드릿잇간」ノ「잇간」カ「미읍」ナル他ハ準ス

又「먹엇심닛간」ノ「잇간」ハ「되간」ニナル過去ヲ問フ時ノ等散詞ハ「되간」ナリ

陸地語ト反對トナル語

1 鎌ヲ「호미」ト云フ鎌ヲ陸ニテハ「낫」ト云ヒ「호미」トハ除草スルモノデアルハ陸ニテ餅ヲ搗ク時ニ使フ厚ク且廣クテ平キ木ノ板ヲ「안반」ト云フニ不拘本島ニテハ衣服ヲ叩クモノ即チ陸ニテ「따듸미돌」ヲ「안반」ト云フ

5 腫物ヲ「허물」ト云フ「허물」ト云ヘハ「過失」ノ意ニナル本島ニテ両方ノ意ニ通用ス

6 耳ノ附近ヲ「귀아다리」ト云フ「귀」ハ耳ニシテ「아다리」ハ國語ニテ「アタリ」トナリ即チ國語ニ似テ居ル

7 家ノ雇「장남」ト云フ故ニ「長男」ト過マラル

8 長子ヲ「큰놈」次子「새놈」三子、「말재놈」末子ヲ「조근놈」ト云ヒ名ノ如ク呼用娘ナラハ「큰、샛、말재、조근」ダケヲ以テ「년」ト云フ

9 「아이하것심니다」（シマセン）ノ「슴니다」ハ「후다」ニナリ「십슴니다」ノ「시다」ハ「우다」ニナル

10 オイヲ陸ニテハ「이야」トカ又「야야」ト云フ本島ノ旌義方言ニテハ「오야」ト云フ「오야」ト云フハ國語ニテ「オヤ（親）」又ハ感嘆詞ノ「オヤ」ト音カ似テ居ル

11 挨拶スル時又ハ何處ニ住居カト問フトキニハ「어는세게우가」ト云フ又自分ノ處ヲ云フトキニモ「우리세게」ト云フ即チ「ドコノ世界ニ住居カ」「我カ世界」ト云フナリ

12 普通女子ヲ呼フニ（아정）（アジャン）ト云フ語ヲ使用ス

13 陸ニテ「웨」ト云フノヲ「무산」ト云フ「무산」ト云ヘハ「無事」ノ音ニ同シ國語ニテ「何故」ト同シ

14 「업심니다」ヲヨク使フ、コレハ如何ナル場合ヲ論セス「シマセン」ト云フ意ニシテ陸ニテハ「無」ト云フ語ニアレドモ「無」ト云フ意ニハメッタニ使ハス例ヘハ飯ヲ食ハナカッタ時「メシヲ食ッタカ子」「업심니다」ト云フスルト食ヒマセントノ意ナリ

15 犢ヲ「송애기」ヒヨコヲ「빙애기」ト云フ「애기」トハ小供ノコトテ之ヲ動物ニアテタ

朝鮮總督府中樞院

ルモノト推セラル

16 コホロギ「공중이」トンボ「밤바타」蛤蚓「게우리」蟬「재ㅣ일」蛙ヲ「갈개비」蝌

子ヲ「엔주아기」ト云フ陸語ト異ナレリ

17 其ノ他動物ニツキ（方言）

雲雀 종데가 百足虫 지넹이 蝙蝠 다람쥐 瓢虫 똥바지기

小雀 고망데새 燕 지비생이 蚜虫 진쉬 蜥蜴 장칼내비

蟷螂 소공빗치 蠻 강녹 雀 밥주생이 猪 고냉이

虫 ~~皿~~ 베렝이

18 燐寸 화갑又불갑 岩 엉뎌 栓 병마개

靴 펭 釘 공쟁이 決 모살

壁 축바름 押入 백장

19 人体ニ付 骨 꽝 口 아곰상이 爪 손콥 髮 터운더니

女ノ髮ニ限ル

首ノ髮 머리석 頸 야개기 모개기 腹 배샤기 ニキビ 낫씨움

頭 대맹이 歯 늬 胸ノ軟骨ノ凹ニ久ル所 오모손（オモソ）

20 祭禮ヲ「사개」ト云ヒ祭ヲナスコトヲ「사개를머는다」ト云フ

總ヘテノ祭ヲナスコトヲ「머는」即チ食フト云フ

21 虹（コウ）「황곳지」（ファンコジ）ト云フ

22 言語一般ニ高ク語尾低シ

23 言語ハ他地方語ニ變リ易シ

24 言語ニ男女子タリトモ漢文熟語ヲ使用スルモノ多シ

25 女子ヲ陸地ノ女子ヨリ話方早キノミナラスシヤベリ方上手ナリ

26 陸地語語尾ノ「입니다」「시오」等、「マツスム」「スカ」等ノ語ヲ付ケル

27 陸地語ノ「웨」「何ニ」ヲ「무산」（ムサ）トイフ

28 陸地語「말하타」云ヘ「세주어라」(エヨッチョオラ)「オッシャイナサス」等ヲ「고르라」(コルラ)ト云フ

29 陸地語「게」例ヘハ머게하게(モッケカゲ)等「하」ト云フ即チ
「머습」、「하습」「하습」「안」「즈습」等ノ如シ

30 處女ヲピバリ「飛髮」ト云フ

31 小婦人「아징」(アジャン)ト云フ

32 子供ノ呼ヒ方ニ陸地ナラ親カラ名前ヲ呼フヲ普通トスレトモ島ニ
テハ큰놈(クンノム)(大イモノ)싯놈(セズムセンマ)(中モノ)不一근놈(チョゴンヌム)(小イモノ)
말쌋놈(マルチュンヌマ)(末ノモノ)「세말직놈」(セマンチョンヌマ)ニノ末ノモノ等ノ如ク女兒ハ
큰연(ニョン) 서연 조근연等ノ如シ

33 家ノ長者即主人ヲ生員(センウオン)ト呼フ「妻ヨリ謂フ」

言語

34 祭祀ヲ「식기」(シッケ)ト云フ

35 「이리하타」ト云フヲ「이영하타」ト云フ

36 諺文中「ㆍ」マ、ㆍ等ヲ陸地デハ가、아等ト同様ニ現今發音スル
コト島ニテハマ、ㆍ等「가거쏘」「아어」等ノ間音ヲ用ヒ陸地人ハ発シ
發音ニ難キトコロナリ

37 「主人게심넛가」(ケーシムニカ)ヲ主人시오가ト云フ

38 「웨그리하심넛가」ヲ「무사경힝수쌰」ト云フ

39 「어듸감잇가」ヲ「어듸감수가」(カムスー)ト云フ

40 「가느냐」ヲ「감서」ト云フ

41 「속히오라」ヲ한차강오라ト云フ

42 「이리하타」ヲ「이영하타」ト云フ

43 「무어시」(ムオシ)ヲ「머ー시케」ト云フ

44 「누구시오」(ヌグシオ)ヲ「누구오자」(ヌグオカ)ト云フ

朝鮮總督府中樞院

同省西南𠙚龍省北有卜省等庫良中價折正銀
子拾五兩乙依數捧上爲遣永々放賣爲乎矣本

1

中奉大夫征東行中書省參知政事純誠
保義同德佐理功臣壁上三韓三重大匡
德城府院大君奇轍竊念我此形實莫非
文母恩養而能根起家業併奇氏一門聲
光顯大實惟
皇帝
皇后膳養之私是糧日夜循願奮勵圖報聖賜除
非佛事無勤誠崇捨些財貨化衆具就請
無住雲公敬以黃金白紙大書大方廣佛
華嚴經
妙法蓮華經

45 「니올시다」(ホーオルシタ) ナ「니오다」(ホオタ) ト云フ
46 「들어어시게오」ナ「들어옵시사」「들어옵사」「들어오심」(ツルオシム) ト云フ
47 「속히하라」(ムオネコホヌラヤ)「지게하라」(チヤケハラ) ト云フ
48 「무어라고한냐」ナ「무시경고름시냐」(ムシキヨンコルムシニガヤ) トイフ

同省西南無龍省北有卜省等庫良中價折正銀
子拾五兩乙依數捧上爲遺永々放賣爲乎矣本

乙

大佛頂首楞嚴經
圓覺了義經
金剛般若經共一百卷莊嚴奉安于
禪源寺雜花院以傳永祀願此一藏法寶
久住世間流祥降福使一披經同一執
卷安頂一燒香禮拜一聞名隨喜靡不得
利八部增威光三途息苦惱迴茲勝功奉
福
皇帝陛下乾坤配壽弥億萬年海岳齊仁壬二千男
皇后殿下懿筭無疆母儀四海
皇太子殿下儲齡億同子育萬民先壽兼德承和

45 ホーオルシタ「니올시다」ナ「니오다」卜云フ 木オタ
46 「들어어시게오」ナ「들어옵시사」「들어옵사」「들나오ㅂ」ハルオシム

朝鮮總督府中樞院

同省酉南無龍省北有卜省等庫良中價折正銀
子拾五兩乙依數捧上為遣永々放賣為乎矣本

卄3

毓慶功臣榮安府寔王李氏心花悅茂照
明無際覺果早圓轉度有緣尊卅三韓同
大夫人李氏現在時身心悅豫壽福增崇
未來世罪障蠲除願行成滿又願撤及家
人扶寧郡大夫人全氏或名淨月同運
心同修十願菩提場裏親奉慈尊法界會
中諸彌善友普與三世六親九族十方七
趣四生五位功成一生果滿升大莊嚴閣
見
三世佛斷諸解脫門樓一氣人彰顯毗盧
藏身旋藏

三

45 내옵시다 ホーオルシタ ナ 내오다 ホオタ ト云フ
46 들어어시게오 ナ 들어옵시사 들어옵사 들니오ㅂ ツルオシム

朝鮮總督府中樞院

同畓西南無龍畓北有卜畓等庫良中價折正銀
子拾五兩乙依數捧上爲遣永々放賣爲乎矣本

善賢先孔慶空思空於館乃書
大正五八年四月日誌

45 내올시다 ホーオシタ ナ 나오다 ホオタ ト云フ

46 들어어시게오 ナ 들어옵시사 들어옵사 들나오 ツルオシム

朝鮮總督府中樞院
朝鮮總督府中樞院

康熙十七年戊午四月十五日通訓大夫行內侍府
尙苑安彦珎
前明文
右明文爲卧乎事段要用所致以養父生時幼學
鄭善述妻曹氏處買得耕食爲如乎東部東十里
尾串地伐來野伏舊所字量後聲字畓貳拾貳斗
落只貳拾參負肆束內西邊參夜味割境肆斗落
只及同字頭田半日耕并玖負肆束四標段東莫
同畓西南無龍畓北有卜畓等庫良中價折正銀
子拾五兩乙依數捧上爲遣永々放賣爲乎矣本

印

45 「내올시다」ナ「내오다」ト云フ
46 「들어어시게오」ナ「들어옵시사」「들어옵사」「들...

文記段他田畓幷付乙仍于許給不得爲去乎後
次良中養同生子孫雜談隅有去等持此文記告
官卞正事

畓主通德郞內侍府 韓 鐸

證通訓大夫內侍府尙設 姜遇聖

筆執養兄通訓大夫內侍府尙設 李 錠

完文（知完記全九）

完文トハ規約書ナリ而シテ其内容ヲ更ニ區分スルトキハ個人間ノ規約書若クハ官ノ承認又ハ認可ヲ受ケタルモノヽ謂ナリト云フヲ得ヘシ其例ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、契ノ完文　各種ノ契ニ於テハ多ク契員ノ權利義務又ハ契ノ目的方法等ヲ規約シテ之ヲ完文ト稱ス

二、個人ノ完文　是ハ個人ノ或利益ヲ保護スルモノナリ例ヘハ無後人ノ墳墓若クハ其祭祀ヲ或村落

朝鮮總督府取調局原稿用紙

[illegible]

二、個人ノ完文　是ハ個人ト[illegible]関係ヲ[illegible]スルモノ

完文ハ[illegible]関係ヲ[illegible]完文ナリ

一、契ノ完文　各種ノ契ニ於テハ[illegible]契員ノ[illegible]ヲ
[illegible]
[illegible]ナシトセルモ[illegible]ヲ挙ゲ
トキハ個人間ノ規約書ハ官ノ[illegible]ヲ[illegible]
完文トハ規約書ナリ而シテ其内容ヲ更ニ區分セラ
完文（[illegible]）

ニ委托スルニ際シ将来ニ於テ異議ナカラシメン
コトヲ期シテ其規約書ニ尚ホ官ノ承認ヲ受クル
カ如キモノ

三、命令的ノ完文　官ヨリ或公益上ノ事ニ付テ其規程ヲ制定シテ其関係者ニ給付スルコトアリ例ヘハ建物、道路、橋梁ノ如キ営造物ノ使用、修繕、保管等ノ事ヲ規定シテ関係者ニ給付スルカ如キコト之ナリ斯カルモノハ一種ノ行政命令ノ如シ

完文ノ効力　完文ハ以上述ヘタルカ如ク各種アルカ為自ラ其内容ノ如何ニ依リテ其効力ヲ異ニス之ヲ

朝鮮總督府取調局原稿用紙

ナキ意思ヲ表示スル者ノ自由ニ委シテ其効力ニ異ハナシ
完文ノ効力ト完文ハ之ニ違ヘタルカ為メ何等ノ制裁ナク
ナルニ於テハ之ハ一種ノ行政命令ノ如シ
警察ノ事ヲ規定シ又ハ國家經濟ニ係ルタメ、商ナル
道路、橋梁ノ造營運河等ノ保護、修繕、保全
衛生ニ關シテ國家經濟ニ規定スル所ナル一定
三、命令部ト完文 官ヨリ一般公益上ノ事ニ付キ其規
ナ他
ナキ場合ヲ規約書ニ由リ官ノ承認ヲ受ケテ
ニ發布スルニ依リ將來ニ於テ異議ナカルヘシ

區分スルトキハ即ケ私法上ノ効力ト公法上ノ効力ト二種ニ分ル、コト之ナリ第一第二ノ場合ハ私法上ノ効力ヲ生シ第三ノ場合ハ公法上ノ効力ヲ生スルモノナリ

茲ニ一言スヘキハ立案又ハ立旨之ナリ是モ亦完文ト思惟スルモノアルモ斯カル術語ハ之ヲ法規ノ上ニ取調ヘテ見ルトキハ総テ證明ノ意義ナルコトヲ自ラ知ルヘシ

# 使孫圖

祖

父 ― 同生(已無子女) ― 三寸侄 ― 四寸孫

三寸 叔 ― 四寸兄弟

無子女者已物還係父母故同生三寸侄四寸孫為應使之孫而三寸叔四寸兄弟不與

無四寸孫然後已物當係於祖父

毋三寸叔四寸兄弟得為使孫 關

義州古邑面
沿革調

義州

古邑面 洞里十五 自官門至古麟州里南距四十里 龍川

麟州 初爲靈蹄縣 顯宗(高麗)改麟州爲州俗稱烏餘城 高宗(高麗)降爲含仁縣後改知郡

朝鮮總督府

義州

古邑面 湄 里十一 自官门至古麟州里南距四十里 龍川

麟州 初爲靈蹄縣顯宗(高麗)改麟州爲州治稱鳥鎮城高宗(高麗)降含仁縣後改知郡

朝鮮總督府封筒(第二號)

稷山

朝鮮總督府

稷山郡(西號)面 [illegible]

[illegible] 稷山 [illegible]

古蹟 [illegible]

稷山

(朝鮮總督府封筒第一號)

[illegible]

女子

[illegible]

朝鮮總督府

○小作関係

小作人多シ 三分ノ一ハ自作

一戸ノ田畓 [illegible] 四十斗落、

一人平均七斗落以下

[illegible]

十斗落

大豆 二石

[illegible]

朝鮮總督府

[illegible]

[illegible]

字田当 字[illegible]ノ[illegible]

[illegible]

朝鮮總督府

[illegible]

二三年前田ノ[illegible]

前田ノ通知

文記

[illegible]

朝鮮總督府

扶餘

はてゐ基盾

二ヶ年前田ヲ[illegible]ニ[illegible]
草[illegible]、

前田ノ五域

文記

草[illegible]、

草坪ハ 斗[illegible]ニ記ス

不[illegible]

[illegible]

十五年[illegible]

草[illegible]

三年前[illegible]

[illegible]、

文書[illegible]

田畓

[illegible]

朝鮮總督府

追文

[illegible]

[illegible]

[illegible]

土地[illegible]

[illegible]

地[illegible]

宗田畓 宗[illegible]

[illegible]

朝鮮總督府

(朝鮮總督府封筒第一號)

理由書

忠淸南道扶餘郡淺乙面長江沿岸의所在九郎介도
二百年前에一等良田好畓으로年々耕種이더니二百年
以後로江灘이漸高ᄒᆞ고細雨만輒降ᄒᆞ야도江水가汎溢
ᄒᆞ야每被水害故로因作柴場ᄒᆞ야當春ᄒᆞ면刈草ᄒᆞ야肥
料의供用ᄒᆞ고當秋ᄒᆞ면刈柴ᄒᆞ야火薪을代用ᄒᆞ며其
利益으로ᄡᅥ各地主가互相賣買ᄒᆞ야文記가昭然ᄒᆞ고距
今四十五年前戊辰年ᄭᆞ지各地主가該土地稅金을年
々寃徵이더니去乙巳年에忠淸道監司閔致庠氏가
民情을顧念ᄒᆞ야扶餘郡에特히土地를改量할時에

該土地ᄂᆞᆫ各地主의區域과結數ᄂᆞᆫ記載ᄒᆞ고各地主의姓名
은記入치아니ᄒᆞᆷ은究徵稅金을免除ᄒᆞᆫ事이오今
十五年前旧內藏院捧稅官新設以後로草坪稅로更爲徵
納이고財務署以後로三年은更히地稅로升總ᄒᆞ야各地主가納
稅ᄒᆞ얏고又今二十年前에旧韓國世子宮派員金聖根이가王室을
藉ᄒᆞ고等堰防水ᄒᆞ야該土地를開墾耕ᄒᆞᆫ바各地主에呼
訴를因ᄒᆞ야其時扶餘、鴻山、林川三郡守及本道監司가此를調
査ᄒᆞ고金聖根은逐送後에各地主가頌德碑를浅乙面佛石
里刻ᄒᆞ야至今現存ᄒᆞᆷ

大正二年四月 日

扶餘浅乙面盤山里 二統六戶 李南植

朝鮮總督府書記官 殿

荒蕪地ノ沿革

右荒蕪地ハ扶餘郡浅乙面ト松亭面トノ間ニ介在ノ個所ニシテ其ノ沿革ハ今ヨリ百年(年代未明)以前迄ハ民有田畓ナリシ處其ノ后俄カニ窺岩江下流ヨリ沙灘ノ変動ヲ生シ毎年水害ノ為メ自然ハ荒蕪地トナリシト云ヘリ

國有民有係争ノ原因

明治十四年(旧暦辛巳年)朝鮮國王世子宮派員全聖根ナルモノ京府公文ヲ携帯當地ヘ到着シ扶餘郡浅乙面北石里ト林川郡城北面山東里トノ間ニ堤坊ヲ修築セントスルニ付扶餘郡鴻山林川三郡ノ各地主等聚集禁止ノ際右三郡ノ郡守及忠清南道觀察使

ヨリ民願ニ依リ全聖根ヲ遂出シ民有權ヲ保存セシム
ル結果各地主等其ノ恩德ヲ感シ三郡守ト觀察使
トノ頌德紀念碑ヲ本郡浅乙面北右里ニ竪立シタルト
云ヘリ
明治四十年七月頃仁川海岸町一丁目株式会社朝鮮
勧農会社長田中良助ヨリ右ノ荒蕪地ヲ以テ國有未
墾土地貸付願ヲ提出ノ時其ノ原因トシテ添付シタル
書面ハ別紙ノ如キト各関係者ヨリ本郡庁ヘ提出
セシノ分ナリ

請願書

請願人 劉永大 京城諫洞
金重明 京城壮洞

事宗先宮內府宛本人可以興業之計로忠清南道藍浦定
山等郡陳荒與鴻山林川扶餘三邑間所在九寧作
坪을起墾等柄이라上補國稅오下興民産으로以久
오리 特爲認許하와該等柄起墾土地을永使出資
等柄之本人으로保有之地大望으로

光武七年十月 日

完文

忠清南道鴻山林川扶餘三郡境地所在九寧伱坪
即空曠可耕之所在前任尊未遑者已多年所矣今因
劉彰烈金淑鉉等請願右坪四標東至扶餘等長江
岸西至鴻山民有宗耕地南至林川民有宗耕地北距
民有宗耕地合長二十里廣十五里定界分晰付之本人
後使劉金兩人鳩財擔辦以為火速起墾是如乎不
可無別般示意沾漑之弊故就其墾當中二十斗
落只自本司句管以補莫重節庫之需永遠宗[illegible]
是遣餘在所墾依他宮例許給本人使勸農作食則
於公於私為得稱幸者也茲成完文以給為去乎準此着
案更牢以為永久金石之典為宜者

甲辰六月 日

公州

母

妻

子婦

母 妻 子婦

忠清南道鴻山林川扶餘三郡境地所在九寧代坪
即空曠可耕之所而在往苒未追者已多年所矣今因
劉彰烈金淑鉉等請願右坪四標東至扶餘等長江
岸西至鴻山民有宗耕地南至林川民有宗耕地北距
民有宗耕地合長三千里廣十五里定界分晰付之本人
後使劉金兩人鳩財擔辦以為火速起墾是如乎不
可無別般示意沾溉之擧故就其墾畓中二千斗
落只自本司句管以補一英重部庫之需永遠定稅
是遣餘在所墾依他宮例許給本人使勤農作食則
於公於私為得耦幸者也茲成完文以給為去乎準此着
案典牢以為永久金石之典為宜者

甲辰六月 日

朝鮮總督府

（朝鮮總督府封筒第二號）

右證 女子ノミナラス[illegible]

一、水田壹坪 二石 籾 多キ二石半

一斗落 二斗ノ上、

小作人[illegible]十七

[illegible]十斗ノ一位

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

朝鮮總督府

納税ハ字郭内ニアリ

朝鮮不動産證明令第十条 地番号（字只田標）

土地ノ表示欄内 不動産第一

（賣買）

（所有權移轉） 不動産證明令

（典當） 仝

（賃貸借合） 仝

（貸ニ銀給支配人 〇〇〇） 仝

朝鮮總督府

金海

案

土地回答ノ件

[illegible]

[illegible]

案

土地回收ニ

[illegible]

如至候御

朝鮮總督府

朝鮮總督府

一萬円

長子　五千円　　長女　五千円

次子　二千五百円　　庶子　四千円

三子　二千五百円　　庶子　三子　二千円

一萬円

長子　養子　七千円　　長女　三千円

長女　庶子　三千円　　養子　七千円

次子

庶子



朝鮮總督府

他、許氏姓、

庶子ヲ [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

生 [illegible]

如 [illegible]

朝鮮總督府

天 文

益城營 許得海

九十八歳

~~⊞~~ 文 戶主 地 子

三 寡婦 二 [illegible]

一 二 三

〇 國有地ニ對シテ右ハ小作料賣買含之

〇 入氣 十七

〇 精烟 製造 附 煙草 五六十至一百五十

朝鮮總督府

白文

一、此地方ニ白文トシテ土地所有権ヲ他ニ譲渡セル慣例アリ其理由

ハ其詳ヲ知ラサルモ確答者ノ聞知シタル所ハ今ヨリ二十六

[illegible]

テ買人ナキトキハ其親戚ニ就テ本人ニ代リテ其土地ヲ白

慣習

金堤

朝鮮總督府

朝鮮總督府

白文

一、此地方ニ白文トシテ土地所有権ヲ他ノ者ニ譲渡セル慣例アリ其理由ハ詳ナラサルモ德益者ノ聞知スル所ハ今ヨリ二十六年前戊子ノ年ハ大凶歳ナリ農作ハ全ク収穫ナク税米ハ納メナランノタメ（税米一斗ハ当時約九升其一升ノ価ハ約十八文）土地所有者ハ困難ナルナリ此地方ハ地価ハ廉価ニテ戊子年前後ハ一斗落約七両八十文ニ過キス尚未低価ヲ以テ売ルトシテモ買人ナキタメ白文トシテ他人ニ土地ヲ譲渡スルコトニナルナリ（税米ノ之代納セシメ其地価ハ取ラスシ）

又土地所有者ハ流離飢死タル場合其所有土地肥沃セスシテ買人ナキトキハ其親戚ニ於テ本人ニ代リテ其土地ヲ白

朝鮮總督府

朝鮮總督府

馬山病院長
徳永

文ヲ以テ他人ニ讓渡シテ其結税ヲ納メセシムルコトモ
アリ此理由ハ結税ハ本人カ納ム能ハサルトキハ其親戚ニ於
テモ（代納スル）納セル慣例アルタメナリ
又此地方ハ古ハ自作スル者多クノミナラス貸作スル此地
多過キテ一戸ニ付二三斗落マテハ耕作セル者アリ（現在ハ小作人
カ多クナレリ又一二三斗落ヲ分作スレハ八十斗落ニ過キス）近年ニ當リテ農糧十分及ニテ力カ及
ハサルタメ又白文トシテ他人ニ讓渡スルコトモアリ
此白文ヲ以テ讓渡シタル後ハ後ヲ取戻セルコトナシ



白文

一〇 二十六年前戊子有此白文而同年乃大旱年也結税
不得納故為其納税以白文給與使之納税也
〇 戊子以前亦有白文給與之事故其子亦有是事
此外係護土則白文亦如此云
〇 白文給與時舊文記等給
〇 金堤郡廣田串山、西海、[illegible]沙山、扶安等處地廣
人稀故費近年則有此白文
〇 白文給與於地主地主因離他免則其親戚亦
代為白文給與之事也則結税東人來納則其
親戚代納故有此白文代給之事也

〇 [illegible]不[illegible]勤[illegible]署收穫、且近年[illegible]不得[illegible]耕故也

○一度白文說豐刈地至吏而從退種云々

○家田、川田所有刈子ニテ其者所有而其所有為名稱刈

家ノ藩者川莊名稱結稅為名稱登記而當坊刈

川中、家中田所有而其結刈ハ小作人名稱記錄也

○當年頃之文書地刈三四冊不過其時稅租年度（其但文）（米）（九刀）

而其[紙]但二冊七七也

○舊去刈 大農家刈 三百斗落

一斗落收穫一石

右和每斗落五斗

今刈 大農家刈 八十斗落

今刈每斗落八九斗

附箋

朝鮮總督府中樞院

○一、慶尙道統營郡地方更不得遇據云云

○宗田、門田兩者ハ子孫共同所有而其本房ノ名義ニ

宗孫或門長名義ニ使用ス税檢查名簿ニ登記而當時ハ

門中、宗中ノ兩者而其統制ハ他人名義記錄也

朝鮮總督府

婚姻年[illegible]

右謹而御問合の件卑見左の通に候へしと存
以[illegible]奉得貴意候 敬具

七月六日

李[illegible]

中樞院[illegible]殿

一 此記事當時ニ對シテハ別ニ異説ヲ存シ「婦女」[illegible]

ヲ「婦子」ト[illegible]他ニ婦女子ナキトキハ[illegible]他ノ婦子男女

トキト[illegible]且ツ婦女[illegible]ノ男女[illegible]ヲ[illegible]シテ之ヲ[illegible]ナ

ラス[illegible]書[illegible]朝鮮ノ[illegible]ニ於テハ婦子ノミニ[illegible]

「参照」資料及ビ[illegible]婦子庶子共ニ其家ニ在ル[illegible]

本[illegible]資料ニ有リ此ノ順位ニ於テ婦子ノ庶子ニ[illegible]

ニ[illegible]庶子男[illegible]ヲ[illegible]婦ト申シ

此ノトキ[illegible]婦子ノ次ニ[illegible]庶子力

婦子[illegible]ト大ナル差アリ本邦ノ[illegible]庶子ノ

父母カ婚姻ヲ為スニハ其ノ男子ハ婚子ト九才ト得テ其ノ
リテ随ヒ嫁子ハ[illegible]見ルニ及テ得タル
ト云フ者婚[illegible]ニ歸[illegible]
後世ニ至リ其ノ[illegible]為スニ付テ本来ハ[illegible]
其ノ漸次其ノ慣習ヲ生シタル宮[illegible]ニ於テハ[illegible]者
従来ニシテ為スノ[illegible]ニ於テ之ヲ[illegible]外[illegible]
然リ
後世ニ至リテハ隆熙ノ初メ詔勅ヲ以テ男満十七年女満
十五年以下ノ婚姻ヲ禁セラレタルモ行ハレス[illegible]
早婚ノ婚姻ヲ為ス者　此年齢ニ達セスシテ婚姻ヲ為ス

朝鮮總督府

吉日ヲ定メ今■婦家ノ如シ然レハ之ヲ無禮ト謂ハントモ
ハ實際夫婦トナリ八吉ニシテ結婚上夫婦交ヲ為シ其經年ト
ニシテ其間ニ生レシ子ハ庶子トナリ夫ノ如カ私生子トナス[illegible]
法ノ制裁ナク男女共ニ其結■婚ヲ為シ[illegible]自由ニシテ
結婚上[illegible]婚ヲ結ヒ[illegible]至ル[illegible]■制度ノ承[illegible]
婚姻ニ於テハ婚姻ヲ為シタル男[illegible]妻ヲ承認シ後■[illegible]
[illegible]其者ニ其子ト[illegible]
祭祀[illegible]承繼[illegible]婚姻者[illegible]承繼ニ於テハ[illegible]
セシメ■[illegible]其承繼[illegible]其人死亡ノ後[illegible]
ラ其者ニ娶ラシメ[illegible]承繼人■[illegible]未婚ノ男ハ

朝鮮總督府

大院君薨去ニ就テ　[illegible]

[illegible]王位ヲ継承セシ[illegible]ニテ　後ニ之ヲ[illegible]

[illegible]　其事ニ[illegible]　其先代ニ[illegible]

大院君ノ[illegible]　同様ニ[illegible]

李家ノ世代ニ於テハ[illegible]

[illegible]除外[illegible]　婚姻[illegible]

王族婚姻ノ問題ハ其ノ意見ノ所在[illegible]

[illegible]

[illegible]朝鮮現況[illegible]

二十六日[illegible]

朝鮮總督府

右ハ同年所ニ於テ届出ニ依リ前陳ノ事情ニ基キ且民
籍取扱上ニ於テハ婚姻ノ届出ハ内地ノ民籍ノ如ク入籍ナル形式ヲ
要スルニ依リ届出即チ婚姻成立シ
只婚姻ノ届出ナキモ事実上婚姻ノ[redacted]成立セルハ慣
習ニ依リテ[redacted]ルモノ間題ハ届出ナキモノ之ヲ習
シ婚姻ノ成立シ得ル届出ヲ要スル種類ト同時ニ之ヲ届
年齢ニ付キ宣告セラレ又ハ本人ノ明細ヲ調ヘ民
籍ノ取扱ニ於テハ[redacted]上記ノ年齢ニ拘ラス婚姻届ヲ受
理スルコトニ付テハ今後ノ取扱ハ一層注意ヲ
此点ニ付キ考慮スヘキ儀ト[redacted]

現今ノ陳[illegible]取扱御引受[illegible]之事トシテ

~~小生ヨリ更ニ御注意一歩ヲ進メテ[illegible]~~ 以テ陳那[illegible]中非

[illegible]更ニ一歩ヲ進メ[illegible]陳事見ノ取[illegible]以[illegible]参照ノ上

取扱御引継相成リタル事件[illegible]差支無之[illegible]

以上申出[illegible]ノ通[illegible]十[illegible]以[illegible]

ハ返シモ差支ナキ[illegible]ヘトモ[illegible]取扱[illegible]一[illegible]

之[illegible]一[illegible]取扱[illegible]

[illegible]基[illegible]

候也

以上謹[illegible]十[illegible]年[illegible]也 止

朝鮮總督府

遣書二通 計[illegible]

[illegible]

朝鮮總督府

拝啓

益御清穆奉賀候　陳者從来朝鮮人ニシテ許婚年齢ニ達セサル者ノ婚姻申告ハ之ヲ受理セサル方針ヲ採リ来リタル處之ニ関聯スル庶子ノ身分変更等ニ関シ別案ノ通リ回答致度考ニ有之處之ニ對スル貴官ノ御意見一應承知致度得貴意候　敬具

七月一日

中村法務局長

小田事務官殿

# 南原郡名所舊蹟調

## 南原邑城

南原ハ本ト百濟ノ地、古龍郡ト称ス、後漢ノ建安中帶方郡ト為セリ、即チ魏志ニ所謂帶方也、後唐ノ高祖ノ蘇定方ヲ遣シテ百濟ヲ滅スルヤ劉仁軌ヲ刺史トシテ此地ニ駐マラシム、未タ幾ナラズシ新羅文武王ニ至リテ今ノ名ニ改ム、或ハ龍城ト曰フハ即チ古龍郡城ノ義ナルベシ、高麗ノ文祖二十三年府ヲ置キ後復タ郡ト爲シテ或ハ帶方ノ古名ニ改メタリシコトアルモ、恭愍王ニ至リ陞シテ南原府トナシ、李朝ノ始メニハ南原都護府ト改メ、近代ニ至ルマテ府使

ヲ置キ雲峰、淳昌、仁実ノ諸縣ヲ管轄セシメタリ
今ノ邑城々廓ハ劉仁軌ノ創メテ築ケル所ノモノ、
由来一千数百年間、幾多ノ改修変遷ヲ経タルベシ
ト雖モ、石築周囲八千一百九十九尺高十三尺、今猶ホ
儼然トシテ当時ノ規模ヲ見ルベリ、蓋シ南韓ノ一
名城トスベシ、其邑内里屋ハ彼ノ井田ニ法トリ劃シ
テ九區ト為シ、洞里ノ街路井然タリシモノ、今尚ホ
略々形蹟ヲ窺フニ足ル

蛟龍山城

邑城ノ西二十町許ノ処ニ在リ山ハ山巓上、密徳、福徳両ノ
峯ニ分レ撑天突兀ノ勢アリ城ハ劉仁軌ノ築キ所ト云フモ記録
精確ナラズ昨歳来郡セシ関野工学博士ノ談ニ拠ルニ、
斯ノ如キノ山城ハ支那及朝鮮ノ築城法ニ其例ヲ見
ザル処ナリト云フ、石築周囲五千七百十七尺、高十尺、
逶邐蜒々トシテ山ノ中腹ヲ廻ル所、一個小萬里長
城ヲ観ルノ想アリ、姜希孟ガ蛟龍山城ノ詩、龍
城陡入白雲間、一線纔通路屈盤、好是一郷蹺
険絶、時危憑伏制兇蠻、ト以テ証ト為スベシ城内
井泉アリ民家三十、小渓ニ沿フテ存ス又禅刹善国
寺アリ、地僻ニ境静カニシテ夏時避暑ニ好シ

廣寒樓

樓ハ城外数丁ノ處ニ在リ李朝初代ノ宰相ニシテ南

（谷本活版所印行）

金溪山亦大頭山ト称ス

原出身ナル黃喜ノ經始ニ係リ、爾後府使郡守等遊
燕ノ場ニ供セラレ、一再ノ重修ヲ經タルモノナリト云フ、蓋
シ南原ハ古來湖嶺間ノ名區ト称シ、而シテ廣寒
樓ハ實ニ此ノ名區ノ山川鍾美ノ所タリ、故ニ或ハ湖
南第一樓ト名ケ朝鮮到ル所ニ演セラレテ兒女走
卒モ知ラザルナキ彼ノ傳奇小說春香傳ハ實ニ此
廣寒樓ニ據リテ脚色セラレタルモノナリ、其ノ西ハ
蛟龍城、南ニ金溪山、東ニ智異山アリ、而シテ
遠ク源ヲ方丈（即智異山）ニ發スル水ハ逶邐トシテ下
リテ、蓼川ニ合シ、其小派折レテ樓前ニ注キ瀦シテ
小湖トナル、湖上一橋ヲ架ス、之レヲ烏鵲橋ト名ケ、樓

記ニ云、湖外有曠野長次斷隴奇嵓島嶼花竹
若青城洞裡玄界初開瓊華玉英互發而交圻
赤水丹丘倘怳而靡窮也ト、又云、樓之虹梁畫拱
珠箔璇窓若五城十二樓紅雲擁之雖眞仙亦不得
尋也名以廣寒ハ其在是乎ト、由テ以テ當年ノ
風物結構ヲ想像スベキナリ、現存ノ樓臺ハ京城景
德宮內慶會樓ト略々其構造ヲ同フシテ其小ナル
モノ、關野博士ノ調査ニ據レバ三百年以前ノ建造ニ
係ルト云フ、蓋シ郡內現存建物中ノ白眉タリ、今
ハ南原區裁判所廳舍ニ使用セラル

烏鵲橋


（谷本活版所印行）

廣寒樓前ノ小湖ニ架セルモノニシテ順天街道ニ當ル、
廣寒樓記云、湖上有橋跨空者若婆女渡河仙官集役横橋一成碧落平地名之曰烏鵲記其似也ト其ノ跨空トイヒ碧落平地トイフ文飾夸大ノ嫌アルモ石等虹腰洞門四個ト称シ四個ノ穹隆式即チアーチ式ナル、亦他方ノ称トスベク當時ノ土木技術ノ如何ヲモ推知スルニ足ルモノナシトセズ

萬福寺廢址

邑城ノ西、四五丁ノ処ニアリ、麒麟山ノ南麓ニ據リ高麗ノ文宗ノ時創建セルモノニシテ記録ヲ着ルニ東ニ五層殿、西ニ二層殿アリテ長三十五尺ノ銅佛ヲ安置セリト云ヘハ巨刹タリシヲ想フベシ、文禄丁酉ノ役小西軍ノ兵火ニ罹リ廢寺トナレリ、今存スルモノハ銅佛石座二基、法堂礎石数基、法幢基石、五重塔及殘勤石佛ノ三ナリ、此廢址ニ対シテハ世人ハ従来多クノ注意ヲ拂ハザリシモ関野博士ノ調査ニ據レバ佛座ノ彫刻、石佛及塔ノ様式ハ高麗美術研究資料トナスニ足ルベク南原ノ舊蹟トシテ一徑ニ推スベキモノナリト云フ、失名氏詩、千年香火隨妖氛、羅代经營一炬痕、珠殿已歸空地棄、金仙幾得半身存、紙錢事絶人誰到、鍾梵声消日自昏、惟有世间長久物、石橋西下水潺湲、ト云ヘルハ蓋シ実況ナリ、

(谷本活版所印行)

此詩ニ據レハ新羅時代ノ創建ナルモノ、如キガ、世俗ニ此寺ハ羅末ノ道詵ガ彼ノ唐ノ一行説ヲ以テ此府城ヲ鎮壓スルガ爲メ建造セリト傳フルニ因ル而カモ今日遺物ニ據レハ高麗中世ノ建造タルコト疑ヲ容レザルナリ。

## 寺刹

（大福庵）城西蛟龍山下ニ在リ三韓時代ノ叙建ニシテ、釋迦如来佛一位ヲ鎮座ス（禪院寺）城東四里ノ処ニ在リ是亦三韓時代ノ叙建ニシテ塗金佛三躰ヲ安置ス（歸政寺）邑東四里許リノ処ニ在リ梁武帝天監四年ノ創叙ナリト云フ佛像三躰ヲ安置ス（善國寺）蛟龍山城ノ條下ニ記セル所ノモノ、崇禎三己亥年ノ叙建ニシテ佛一位ヲ安置ス

## 関帝廟

此廟ニハ何等記録ノ徴スベキモノナシ関野博士ハ高麗ノ太祖三個ノ関帝廟ヲ叙建シタルコトアレバ或ハ其ノ一ニアラズヤト云ハレシモ而カモ現在ノ建物ハ同博士ノ調査ニテハ僅々百数十年前ノモノナリト云フ廟ニ祭田アリ以テ春秋享祀ヲ行フ

## 東帳藪

邑城ノ東十餘丁、麥川ノ河岸堤塘ニ數千歩ノ間、老楊古柳鬱蒼トシテ連リ、亦城外ノ一遊區タリ、前人詩、水遠汝長柳影低、居人一々得

幽栖、落花芳草青春晩、千古風流接會称者、楊
柳ハ本是レ護岸ノ爲メニ植栽セルモノナルベシ

## 智異山

郡ノ東境六里ニ在リ、山勢高大、數十里ニ雄據シ、山ヲ環リテ郡邑ヲ爲スモノ、凡十數、而シテ其北ハ則チ咸陽郡、東南ハ則チ晋州、其西ハ則チ南原ニシテ山勢専ラ南原ニ據ル、記録ニハ此山、女眞白頭山脈ノ流レテ此ニ至レルモノトシ、故ニ又頭流ト名ケ或ハ其脈是ヨリ更ラニ海ニ至リテ日本ニ入ルト称ス且ツ杜詩ノ方丈三韓外ト云フ句ノ註及通鑑緝覧ニハ方丈ハ帯方郡ノ南ニ在リト記セルニヨリ此山ヲ以テ所謂方丈トナシ、而シテ其山勢ノ状シテハ奇峰峭壁、不可勝筭、山腰或有雲雨雷電、其上則晴朗ト云ヒ或ハ譲ニ大乙其上ニ居リ、群仙ノ會スル所龍象ノ居ル所ナリト称シテ南方ノ名山ト爲セリ

## 鶉子津

鎮安中臺山、泰仁雲住山ノ水、郡ノ西南四里ノ処ニ於テ合流シテ此津ヲ爲シ、谷城郡ニ入リテ鴨緑津トナルガ、郡内唯一ノ渡津トシテ古来名アリ

[illegible]
此上流中巖赤城江
最下流ハ蟾
津江

## 蓼川

今ハ元川
トイフ

源ヲ遠リ智異山ニ發シ、邑東禪院寺前ニ至リテ蓼川ニ合ス、上流奇巖怪石多キヲ以リ名所ノ一


（谷本活版所印行）

河中岩塊多クアレド何レカ牛岩ナルヤ今不明

ニ数ヘラル

蓼川

邑城ノ南数丁ニシテ郡内ノ巨流アリ、蓼川ト称ス河中岩アリ形牛ノ如シ故ニ牛巖ト名ケ、前人姜希孟詩ニ一帯長川接古津、風摧鴨緑細生鱗、孤舟隠映蓼花崖、畫裏分明著個人、古津ハ即チ鶏子津ヲ謂ヘルナルカ、此川香魚ヲ産スルヲ以テ近来夏時内地人ニシテ綸ヲ垂ルモノ多クシ、亦是画裏分明著個人ナル歟

丑川

誌曰、郡之艮方有水衝激設邑時作鐵牛以鎮之因名丑川其牛至今無

（谷本活版所印行）

明治四十四年三月十六日

全州郡守

全羅北道財務部長 殿

禾利ニ関スル調査ノ件回答

本月九日全税第六五二号ヲ以テ全州郡蓜田面禾利ニ関スル件調査スルニ同号添付ノ龍進面ノ習慣トハ多少異ナル点アルヲ以テ左ニ申報候也

蓜田面ニ於ケル禾利ニ関スル調査

一 禾利ノ性質ハ

（谷本活版所印行）

禾利權ハ小作人間ニ随意ニ賣買セラレ其ノ性質頗ル民法ノ所謂永小作權ニ類似セリト雖下記ノ如ク地主ノ小作地引上ケニ對シ禾利ノ取得者カ何等抗辯ヲナシ能ハサルニ見レハ物權的性質ヲ帯フルモノニ非サルヤ明カナリ

二、地主ト小作人間ニ於ケル慣例

(イ)小作人間ニ禾利權ヲ賣買スルモ必スシモ之ヲ地主ニ通知スルノ慣例ナク又地主ハ何時ニテモ小作人ヨリ該耕地ヲ取上クルコトヲ得

(ロ)小作人カ地主ノ承諾ヲ得スシテ禾利權ヲ他人ニ賣渡シタル後該土地ヲ取上ケタルトキハ禾利價ノ半額ヲ賠償シタル事例ナキニアラスト雖本來賣買ノ効力ハ當事者間ニ止マリ地主トハ没交渉ナルカ故ニ小作人ハ地主ノ取上ケニ對シ賠償ヲ強要スルノ權ナシトス但シ取上ノ時期植付後ナレハ實費ヲ辨償ス

三、禾利ノ行ハル耕地ノ種類

畓ノミナリ但シ上等畑ニ限リ行ハルモノアリ

四、一斗落ノ禾利賣買價格

畓
- 上　六円－七円
- 中　三円　四円
- 下　一円五拾錢－弐円

田 壹円五拾戔

以上

明治四十四年二月十五日

全州郡廳 漢

紆田面長 座下

其面未利賣買代金에對ᄒᆞ야平均四円이라ᄒᆞ니此로最高ᄂᆞᆫ幾何最低ᄂᆞᆫ幾何와上等田에対ᄒᆞᆫ代金幾何로詳細區分ᄒᆞ야此餘白에記入返送홈

| | | 最高 | 最低 | 平均 |
|---|---|---|---|---|
| 畓 | 上 | 七円 | 六円 | 四円 |
| | 中 | 四〃 | 三〃 | |
| | 下 | 二〃 | 一五〃 | |
| 田 | 上 | 一五〃 | 一〃 | |

明治四十四年三月十五日　芚田面長 李憙漢

全州郡守 座下

本面内現行ᄒᆞᄂᆞᆫ水利權을 調査ᄒᆞ야 左記通報告홈

左記

一 水利權의 性質

(一) 小作人間에 水利權의 賣買를 爲ᄒᆞᆯ 時에ᄂᆞᆫ 其旨를 畓主의게 通知가 無홈

(二) 畓主에 対ᄒᆞ야 賣買의 通知를 爲ᄒᆞᄂᆞᆫ 習慣이 無ᄒᆞᆫ 故로 通知를 不爲ᄒᆞᄂᆞᆫ 境遇에도 小作人間 賣買ᄂᆞᆫ 無効될 事가 無홈

[illegible]

明治四十四年三月十五日

[illegible]

(三) 小作人이畓主의承諾을得치아니ᄒᆞ고禾利權을他人의게賣渡ᄒᆞᆫ後畓主가該畓을耕作ᄒᆞᄂᆞᆫ事ᄂᆞᆫ勿論이오禾利賣買權發生後에買得ᄒᆞᆫ畓主가該畓을移作ᄒᆞᆯ時에ᄂᆞᆫ小作人의게半禾利를賠償ᄒᆞᄂᆞᆫ事이有之ᄒᆞ나畓主若禾利本性質이畓主의게無關홈을主張ᄒᆞ고賠償치不肯ᄒᆞᆫ時小作人은強히請求ᄒᆞᆯ權利가無홈

(四) 前項과如히或半禾利라도賠償ᄒᆞᄂᆞᆫ境遇에ᄂᆞᆫ移種前後로異히홈

(五) 一斗落의禾利賣買價格은平均四円이오等差ᄂᆞᆫ上中下를標準으로等差를設홈

(六) 畓에対ᄒᆞ야ᄂᆞᆫ禾利賣買가上等田에만限ᄒᆞ야或有之홈

二 禾利의起原及沿革

(一) 禾利權發生의原因ᄂᆞᆫ小作人들이畓主의게直接으로畓을借得ᄒᆞ야耕作치不能홈에依ᄒᆞ야新小作人이舊小作人의게金錢(禾利)을拂渡ᄒᆞ고小作權을代ᄒᆞ야耕作ᄒᆞᆫ故로此로畓主가禁ᄒᆞ나가衆民의互相賣買가多數流行에依ᄒᆞ야禁치못ᄒᆞ고或畓主가自分의畓의小作權移動ᄒᆞ기가不自由될가慮ᄒᆞ야禾利價로畓主가受取ᄒᆞ고小作權을賦與ᄒᆞᄂᆞᆫ者도有之홈

年代는距今甲午年内外에在홈

(二)発生今日에至흔沿革은公土에난禾利賣買權이禁止되고私土에난尚存홈

調査事項　　乾田面

一　禾利權ノ性質

(一)小作人間ニ禾利權ノ賣買ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ畓主ニ通知スヘキモノナルヤ

(二)若シ畓主ニ對シ賣買ノ通知ヲ爲スヘキ習慣ナリトセハ之レカ通知ヲ爲サヽル場合ニ於テハ其ノ賣買ハ無効トナルヘキヤ

(三)小作人カ畓主ノ承諾ヲ得スシテ禾利權ヲ他人ニ賣渡シタル後畓主カ該畓ヲ取上クルコトヲ得ルヤ此ノ場合ニ於テ畓主ハ禾利價ヲ小作人ニ賠償スヘキ習慣アリヤ

（四）前項ノ場合ニ於テ苗移植前後ニヨリ賠償價ヲ異ニスルヤ

（五）一斗落禾利賣買價格ニ若シ等ノ差アリトセハ何ヲ標準トシテ其等差ヲ設クルヤ

（六）田ニ對シテ禾利權ノ賣買アルヤ

二、禾利ノ起原及沿革

（一）禾利權發生ノ原因及年代

（二）發生ヨリ今日ニ至ル沿革

明治四十四年二月九日　全羅北道財務部長須藤素

全州郡守　殿

禾利權調査ノ件

全州郡龍進面ニ於ケル禾利權賣買ノ慣習ニ關シテハ客年十二月別紙寫ノ通リ全州財務署長ノ報告有之候處同郡蘭田面ニ於ケル禾利權賣買ノ習慣モ亦別紙ト同一ナリヤ其他左記事項ニ付光州地方裁判所全州支部ヨリ照會有之候條詳

細取調ノ上申報相成度依命此段及通牒候也

記

一、全州郡雨田面ニ於ケル禾利権売買ノ習慣ハ別紙ノ回答ト同一ナリヤ

二、右禾利権ノ性質

三、小作人ノ間ニ禾利権ヲ売買スル為ニシタルトキハ其旨ヲ畓主ニ通知スヘキモノナルヤ

四、小作人カ畓主ノ承諾ヲ得スシテ禾利権ヲ他人ニ売渡シタル後畓主カ該畓ヲ取上ケル時ハ禾利価ヲ小作人ニ賠償スヘキ慣習アリヤ

全発第四四八号

隆熙四年三月二十四日

全州財務署

全州財務監督局 御中

本月八日附全税第七四一号御照会ノ件取調候処左記ノ通リニ有之候此段及御回答候也

左記

一、禾利権売買ノ習慣アリ

二、其ノ売買価格ハ一斗落ニ付壱円乃至六円也
但田ハ稲束禾利ノ売買ナレ畓ノ売買ハ土地面積ノ

大小品等ニヨリ相違ヲ生ズルナリ
三、地主ノ承諾ヲ求ムナス
四、何時ニテモ取上グルコトヲ得
五、地主ニ於テハ永小作權ノ買受代金賠償ヲナサズ取上グル時
耕植付後ナレバ地主ヨリ小作人ニ對シテハ賃貫ヲ辨償ス

八ノ三

別紙民籍簿[illegible]存ス

民籍簿謄寫本送致ノ件

大正元年十二月二日 東萊憲兵分隊長 大西政次郎

朝鮮總督府事務官 小田幹治郎 殿

過般御慣習調査ノ爲メ当地方ヘ御出張相成候
際特ニ御指示相成候民籍簿寫本十五張ハ
別紙ノ通リ及送付候也

朝鮮總督府 陸軍

別紙民籍簿謄本ハ別綴トシテ保存ス

[illegible]

別紙

記

一、萬德面南三里戶籍單子　戶主金聲秋

一、萬德面金永業土地(宗土)買收文記貳枚

一、梁重夏奴婢買收文記壹枚

右及御送付候也

大正元年十月二十八日

南原郡廳

小田事務官殿

南原郡印

大邱印刷合資會社納

朝鮮總督府

道光二十八年戊申十二月十三日金永業前明文
右明文事段矣自己買畓累年耕食是多可不得已移買
次伏在王之田九龍村前龍字貟貳斗落只一夜味六卜六束庫乙
價折錢文捨兩依數捧上是遣右前本文記段中間流失不得出
給為遣以新文記壹丈永々放賣為去乎日後如有雜談則以
此文記告官卞正事

畓主幼學李長五 押
證筆風憲梁敬派
再證八年監朴正位

山田事務官 殿

大正元年十一月二十八日 西原靜藤

右及御送付候也
一、吳重夏奴婢買收文記壹枚
一、萬德面金永業畓(第七)買收文記貳枚
畓主金聲枚
一、萬德面南三里戶籍單子

以上

道光二十八年戊申十二月二十五日金永業明文

右明文事段自己買得王之田九龍村下龍字十二畓貳斗落卜數六卜七束庚扺便錢文拾兩依数捧上是遣右畓永々放賣是矣本文記段遺失故不得出給以新文記一張成給爲去乎日後若有雜談是去等以文記卞正事

畓主幼學李長祚 押

證人 朴自和 押

朝鮮總督府

康熙肆拾肆乙酉十二月貳拾柒日幼學梁重夏前明文

右明文事段奴矣上典主婢吉導良有移買事南原奴廷汝

良妻并産愛淑四所生婢無心年丁未生身及同婢壹所生

奴東美年癸酉生身等貳口良中價折錢文壹百參拾兩依

數交易捧上爲遣右人前婢吉壹張及後所生并以永々

放賣爲去乎日後如有雜談若是去等將此文告官卞

正事

奴婢主差奴萬呂 [mark]

證人同班差奴子龍 [mark]

保證前哨官崔致洽 [signature]

筆執幼學吳碩弼 [signature]

乙酉十二月廿八日奴主差奴萬昌年二十九證人同班奴子龍
年五十三證保前哨官崔龍洽年四十三筆吳碩弼年
三十四
白等 [illegible] 課狀據奴婢放賣根因現告亦推白教是臥
乎 [illegible]亦婢主差奴矣身段移買所致工典主婢字道寺
良別得奴汝貞良妻四所生婢無心年丁未生身及同婢
一所生奴東憂年癸酉生身等二口良中價折錢文壹百
參拾兩捧上後所生并以永永放賣成文婢字粘付爲白
有去乎眞假乙良證筆各人等處明白施行教乎旀
證筆矣 [illegible]等段置右奴婢買賣文記成置時各各 隨 [illegible]參
的只乎事

押

白
所白
白
字

朝鮮總督府

楠所
捺印

康熙四十四年十二月　日南原府立案

右立案為斜給事粘連課狀及各人等招辭是置有亦本賤籍取納相考為乎矣壬寅三月二十日財主父綏祿大夫永安尉洪自筆着名署證五衛將柳禮曹參議趙吏曹參議俞副護軍李同副承旨閔吏曹正郎閔維重弘文校理金字亨副司直李有相弘文修撰洪柱三京畿都事柳井樞奉教李挄着作李翊作學錄柳松齡皆着名署第三子新進士萬熙處別給文記內節該丙子之亂余扈駕南漢家奴子別入江都及至寇陷島中也渾家顛仆於海曲幾未免死僅得寄生於過去之舡其時汝年纔過睟矣及於舡上暴露之中得痘瘢痘勢危迸瀕死回生餘毒為祟遂作獨眼之病人及聚都下汝非汝舊日面目為其父者安得不[illegible]疾懷而獨以生全為幸只冀其長成不能以

朝鮮總督府

以文字課督実汝乃自力於佔俾之後屢中解額今過高
参於進士一等〻選至使試卷登徹於香案之上喜悅
之餘榮幸无極顧汝勿以有未及於人者自嫌且勿以小
成為安荒勉科業俾老父又見汝釋褐之慶也汝之應榜
纔過十數日又有汝兄登龍之喜一時設慶可為盛事而適
值國家罔究之日循例演喜之擧亦不敢生意茲與一家
人會集書與別給文字云甬江西婢福香甫川奴慶信良
妻一所生婢永玉晉州婢今秋南原忠今所生奴汝貞年內
子二所生婢汝玉年庚辰并十口長湍屯巨里賜牌畓全位
石落只田式拾日耕并别給可傳永世者明文成給印是如經
官六處白文現納是乎等乙用良奴汝貞良妻四所生婢無
無心年丁未生身及同婢一所生奴東義年癸酉生身等二口
後所生并以狀者果重良亦中永々放賣納賣為乎等以

依法官科業作粘連為還合行立案者

行府使

押

朝鮮總督府

萬世坊南三里戶籍第　子

戶幼學金贊秋年六十七庚子本金海

父學生　光麗

祖學生　守鳴

曾祖學生　長浦

外祖學生李得來本寧川

妻申氏故籍高靈

率子幼學錫俊年三十五壬申

次子幼學語俊年三十丁丑

殘口婢小永愛癸卯相準戶

乙巳九月　日面任金

押

朝鮮總督府

財産移轉ニ関スル調

戸主 金弘植 本年七十九才

長男 金顕聲 本年ヨリ二十年前 三十九才ニテ死亡

孫 金濘塔 本年 三十五才

現在結数連名簿記載ノ田畓宅地ハ金濘塔ノ所有トナリ 戸主タル金弘植ノ所有変更ニナシ

依テ戸主タル金弘植ヨリ 金濘塔ニ権利移轉シタル情態ナリ調査スルニ 長男 金顕聲死亡ノ后ヨリ財産ニ対スル右

忠清南道郡廳用

朝鮮總督府

忠清南道扶餘郡ヨリ送付

義ナ金濬塽ニ移シ其実権ハ戸主
掌握セシモ戸主ノ老衰ニ従ヒ実権
自ラ金濬塽ニ移轉シタル事由　十月

忠清南道郡廳用

朝鮮總督府

任府 第五〇〇号

大正元年十月廿九日

任實郡守事務取扱
郡書記 岡上義成 （印：任實郡守之章）

朝鮮總督府官房参事官室
小田事務官 殿

文記送付ノ件

謹啓
寒冷相催候處益々御清健御奉務可被遊奉敬
賀候陳ハ過日遐遠之地御視察ノ際ハ嘸ゾ御疲

大正元年十一月一日本府送達（参方）

條捧上是遺田文記遺失故以新文一
丈右宅乘之還賣以納為之宇日後子孫
中若有文衆則以此文告官卞正事

山地主 李允白

證人 李得瑞

（朝鮮總督府印刷局印刷）

朴門前明文 在中

原文還送

勞之程奉拜察候其際御下命之文記別紙之通送達
致候間御查收相成度尤モ朴門前明文ハ如キハ所持者
ニ於テ必要之趣ニ付御取調濟ノ上可成速力ニ御返送
被成下度不取敢右而已得貴意候

敬具

別紙田文記寫ハ明治四十三年十二月二十三日保番面壹田参半ヲ以テ全羅北道任実郡徳峙面自耕里二統二戸士族李鐸雨ノ所有權ヲ証明シタルモノナリ

朝鮮總督府郡
(朝鮮總督府印刷局印刷)

勞之程奉拝察候其際御下命之文記別紙之通送達致候間御査收相成度尤モ本門前明文ノ如キハ所持者ニ於テ必要之趣ニ付御取調濟ノ上可成速力ニ御返送被成下度不取敢右而已得貴意候

敬具

任實郡廳

旧文記寫

大清光緒三年丁丑三月初七日 李氏宗中前明文

右明文事段 矣身之先墓在於德峙面小谷入谷

右宅基養以殘林麓一隆而限界則上下微谷也

中年私賣入葬僅々守護矣 當此荒年

各子孫保命無路 故勢不得已 折價肆拾五

兩依數捧上是遣 旧文記遺失 故以新文一

丈右宅永々還賣 以納為去乎 日後子孫

中若有文衆則 以此文告 官下正事

山地主 李允白

證人 李得瑞

朝鮮總督府 任實郡廳

開國五百五年丙申四月初三日 朴仃前明文

右明文事段自己買得畓累年耕食是加可要用所致仗在任實大谷面鹿岩坪盈字畓五斗落卜数十七負三束庶價折錢文壹百肆拾兩依數交易捧上是遣右前新舊文記并永々放賣爲去乎日後若有他說則持此文記告官卞正事

畓主幼學 金聖三 押

證人幼學 趙成安 押

稅每年三石

朝鮮總督府

奏本第　　號

掌隷院卿臣李根秀謹

奏保寧幼學李寅鶴嫡妾俱無子以其

同姓八寸兄寅圭第二子章夏欲為繼

後兩家諸族相議完定依他立後事呈

牧保寧幼學李寅圭與族門長前[illegible]

旨李源許諱俱為的實故取考大典

立後條則嫡妾俱無子者告官立同宗

支子為後注兩家父同命立之事載錄

李寅圭第二子章夏立為李寅鶴

主勅何如謹上
奏
光武八年五月五日奉
旨依奏
臣 李

# 請願書

忠清南道保寧郡青所面蘆洞居幼學 李寅鶴 年

請願人이 八字崎嶇ᄒᆞᆫ 바 賤年 六十에 素無子女ᄒᆞ오니
自顧身世ᄒᆞ온 罪犯無後ᄒᆞ옵고 且念祖先ᄒᆞ온 香火永
絶인니 此豈不窮天極地之痛乎잇가 然而繼絶存亡
은 國典之大関이온바 本郡周浦面舟橋居李寅奎
卽至親也라 有子三人 故로 悲懇請率養ᄒᆞ야 第二子章
夏로 指目許給이오나 旣有 國典에 私自擅便이 有難
違越이옵기 茲以請願ᄒᆞ오니 伏乞
照亮後 特出禮斜ᄒᆞ시와 以定倫常ᄒᆞ옵고 俾爲
續嗣ᄒᆞ시와 奉香先祀之地ᄒᆞ심을 千萬懇祝

光武八年 四月 日

掌禮院卿　　閣下

請願人 李寅鶴

奏事後 禮式課 主事

成給向事

五月 五日

請願書

忠淸南道 保寧郡 周浦面 舟橋居 幼學 李寅圭 年

請願人의 八寸弟 寅鶴이 年今 六十에 俱無子女ᄒᆞ오니 非但 矜憐이라 祖先香火ᄅᆞᆯ 不可永絶而同寅鶴이 率養ᄒᆞᆯ 意로 累累懇請於請願人의 第二子 章夏 亨難以北背却 堅望이ᄋᆡ 亦自宗中으로 門長 兼淵 氏가 力勸以繼絶存亡은 國之大典이ᄅᆞ 乙卜愚迷所見의 莫重人倫을 私自許給이 甚爲難更ᄒᆞ와 玆以請願ᄒᆞ오니 照亮後 特下禮斜ᄒᆞ시와 以定倫常ᄒᆞ심을 千萬伏祝

光武八年 四月 日

掌禮院卿 閣下

請願人 李寅生

奏御後 禮斜로

案成給

[illegible]

寫

請願書

忠清北道沃川郡居前衛旨李鼎淵

年

請願人의 至親寅圭與寅鶴이 八寸間也而寅圭는有
子三人이오 寅鶴은 素無子女이외 自宗中으로 爛
議繼絶存亡之道로 何寅圭의 第二子章夏를 入
繼於寅鶴之意로 雖為受諾이나 人倫莫重이오
王國典이 自在이온 宣可率爾措處이오니 旣
有兩人之請願而情出於禮오 禮出於情故로 玆
以請願이오니
照亮後 特出禮斜이시와 以定倫常이오며 俾爲
續嗣奉香之地 千萬伏祝

光武八年 四月 日

人이 絶命ᄒᆞ면 復ᄒᆞ야 招魂ᄒᆞ고 遷尸ᄒᆞ야 牀上에 南首ᄒᆞ고
已乃哭ᄒᆞ며 奠ᄒᆞ고 哀日式 翌日에 乃 沐浴ᄒᆞ야 襲斂ᄒᆞ고
已 魂帛을 設ᄒᆞ며 小斂ᄒᆞ고 又翌日에 大斂 入棺ᄒᆞ고 畢
第四日에 靈床을 設ᄒᆞ며 廬幕을 作ᄒᆞ고 已畢
翌日에 成服ᄒᆞ고 葬地를 定ᄒᆞ고 葬日을 擇ᄒᆞ야 哭
姻ᄒᆞ야 發靷ᄒᆞ며 葬時에 下棺ᄒᆞ고
朝奠을 行ᄒᆞ고 靈柩 發靷을 ᄒᆞ고 乃 從之
葬ᄒᆞᆯ 發引ᄒᆞ야 葬地ᄒᆞ야 停柩 作壙 後에
下棺ᄒᆞ고 題主ᄒᆞ며 下誌石ᄒᆞ며
實土ᄒᆞ며 題 神主 行 祭 埋魂帛ᄒᆞ고
歸家 行 虞祭ᄒᆞᆷ



掌禮院卿 閣下

請願人 前承旨 李熙潤

奉事 淑 禮 錫 主案

收信 ... 五月 ...

人絶命スルトキハ復ヲ呼フ即チ招魂ノ意ナリ尸ヲ遷シ南ニ首ヲ置キ哭シテ奠ヲ為ス當日或翌日尸ヲ沐浴サセ襲ヲ為シ捆帛ヲ設ケ小斂ヲ為ス魂帛ヲ設ケ又翌日大斂ヲ為シ入棺ス霊床ヲ設ケ廬幕ヲ作リ奠

翌日ヨリ第四日成服ヲ為シ墓地ヲ定メ葬日ヲ擇ヒ葬日先ツ朝奠ヲ行ヒ遷柩シテ轜轝ニ載セ遣奠ヲ行ヒ發靷シテ墓地ニ到リ柩ヲ停シテ壙ヲ作リタル後下棺シ玄纁ヲ納メ誌石ヲ下リ土ヲ以壙ヲ築リ神主ヲ題シ初虞ヲ行ヒ幣帛ヲ埋メ廬幕ニ帰リ又虞祭ヲ行フ

## 水座

水座ノ意義　水座トハ水源地(井水)ノ謂ニ非スシテ水ヲ供給スル区劃ノ意ナリ即チ一ケ村ニ百戸アリテ四人ノ水商ヨリ各二十五戸ヲ受持チテ之ヲ供給スレハ其村ノ水座ハ四個所ナルカ如キコト之ナリ

水座賣買トハ水ヲ供給シタル区劃ヨリ受収スル其報酬ヲ臺ニシテ之ヲ賣買スルモノナリ即チ甲ナルモノヨリ或水座ヨリ月二千円ノ収入アル水商株ヲ有シタリシカ乙ナルモノヽ請求ニ依リ二十円ノ價格ヲ以テ其水座ヲ賣買スルカ如シ

朝鮮總督府取調局原稿用紙

取締ヲ受ケ又水座ヲ賣買スルモセシ
ト在リシカナリシカ一ノ清水ニ依リ村民ノ
シテ之ヲ汲水者ニ因リテ區ノ平入タラ定ム
取締ヲ嚴ニシ之ヲ賣買スルコトヲ禁セリト
水座賣買トハ水ヲ汲取リテ賣ル内地ニ於テ許可ヲ受ケタル
スル人其ノ水座ハ四個所ナリトモ其ノ者ト
ヲ四人ノ水商ヨリ買入レトモ其ノ者ヨリ汲取
水ヲ汲取ルモノ内地ノ者ナルモ一ヲ貸ニ依リモ一
水座ノ權利 水座トハ水源地(井水)ノ權ヲ謂フ
水座

水商ト飲水者トノ関係 水商ノ所有ニ係ル水座権ハ同業者ニ對スル権利ニシテ飲水者ニ對シテハ何等ノ権利ヲ主張シ得ヘキモノニアラス之即チ水座権ナルモノハ物権ニアラスシテ一種危険ナル財産権ノ如ク認メラルヘキモノナルハナリ

水商ト水源地(井水)トノ関係 水商ノ汲取ル井水ハ個人有ノ井水ニ非スシテ公有(多ク國有ナリ)ニ係ルモノナリ而シテ其保管修理等ニ付テハ當該村ニ於テ為スモノニシテ水商等ニ於テナスモノニアラス但シ井水ヲ濬(サラ)ス等ノコトハ水商若クハ其村ノ労働者

朝鮮總督府取調局原稿用紙

ノ井水ヲ讓スル者ニ日十八水商ト称シハ交替ノ値段
者スモノヲシテ水商等ニ於テ十スモノモノ可
ナキナリ而シテ其ノ保管所取扱ニ付テハ古来旅村ニ於テ
個人有ノ井水ハ非ズシテ公有（若シ個有ナリ）ニ係ルモノ
水商ナル水源地（井水）ナル關係　水商ノ設置ハ井水ハ
權ノ如キ權ナキノミナラズ並ニ商トナスハモノトナサレハナリ
稀ナル特權ヲ有スルモノニシテ一種ノ權利義務ナリテ慣習
然モ權利ヲ主張シ得ルハ大ナルニ於テ大ナル利益ヲ得
ハ同業者ニ對スル權利ニ於テ顧客ノ水需者ニ對シテモ之ニ使
水商ト飲水者トノ關係　水商ノ顧客ニ係ルハ水需者

朝鮮總督府取調局原稿用紙

ヨリ之ヲ為シ其費用ハ矢張リ管内ノ飲水者ニ醵金
シテ之ニ充ツルコトアリ

因ニ記ス京城ノ或ル人ハ多年来水座ヲ抵當ト
シテ水商等ニ金貸ヲ為シテ其水商ノ変更ニ拘ハ
ラス其金ヲ貢出シ居リシカ近来ハ水商ノ交代ニ
ヨリテハ前水商ノ債務ニ係ルモノハ知ラストテ云
ヒ之カ履行ヲ肯セザル為何百円ヲ失敗シタリト
云フ

朝鮮總督府取調局原稿用紙

水商ノ外ニ統括者アリシコトナシ

水房ノ売買トハ今ノ水商組合ヨリ始メタルモノナラント

水座ヲ有スル者ト他ニ給水権ヲ有スルモノト別有スルコトナシ

水料ハ水ヲ汲ムモノニ拂フモノトス

朝鮮總督府取調局原稿用紙

[illegible]

朝鮮總督府取調局原稿用紙

幡

安位

右等ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

## 家儈（집주름）

家儈ハ家屋ノ賣買、典當、貸借等ノ媒介ヲ業トスル者ニシテ一種ノ仲立業ニ属ス京城ニ於テハ開國五百二年以後漢城府ノ認許ヲ受クルコトヲ要セシカ併合後自由營業トナレリ家儈カ業務ヲ行フニハ共同事務所ニ於テスルヲ普通トシ之ヲ福德房ト称ス京城内ニ其數百餘アリ而シテ家儈ハ其媒介ニ因リ契約

典當、賃借等ノ成立シタルトキハ證書ニ證人トシテ連署シ兼テ保證ノ責任ヲ負フ慣例ニシテ舊家契發給規則ニハ家屋賣買ノ場合ニ家契ノ書替ヲ請求スルニハ家儈ノ連署ヲ必要トセシカ土地家屋證明規則ノ施行ト共ニ廢止セラレ又典當舖規則ニハ家屋ノ典當ハ家儈ノ連署ヲ以テ當該地方官ニ許可ヲ求ムヘキ規定アルモ實際ニ於テハ此ノ手續ヲ履着スルコト殆トナシ

家儈ノ報酬ハ口錢ト称シ賣買ノ場合ニハ賣主買主双方ヨリ各代金ノ百分ノ一即合計百分ノ二ヲ受ケ典當ノ場合ニハ出典者ヨリ一個月分ノ利息ニ相当スル金額ヲ受ケ貸借ノ場合ニハ傳貰ニ在リテハ貸主借主双方ヨリ貰金ノ百分ノ一ヲ受クル慣例ニシテ月貰ノ場合ニハ一定セサレトモ借主ヨリ貰金一ケ月分ノ十分ノ二乃至五ヲ受クルヲ通例

トスルカ如シ

発外

大正元年十月二十三日

釜山府尹 天野喜之助

朝鮮総督府
官房参事官室
事務官小田幹治郎殿

文記送付ノ件

過日當地御出張ノ際御談示有之候宗中畓ニ關スル文記

大正元年十一月一日本書返送

トスルカ如シ

四菜及御送附戾閒御查收
相成度尚御用済次第御
返戾相成度候也

嘉慶元年丙辰正月二十一日幼學田尚祿前明文
右明文事段旁祖山地在於巨里山麓累代守護矣方今
年老還鄉之日托身于長姪子師說家而以至貧之勢
萬無衣食之路是如乎同山所後麓山上古塚臺石
人前價折錢文十兩依數捧上是遣永永放賣爲去乎
日後他姪子中幸有雜談是去等以此文記告官卞正
事

業主幼學高擎潤 押
長姪子幼學 師說 押
證筆幼學林芳憲 押

朝鮮總督府

咸豐二年壬子三月十二日田生員宗中前明文
右明文事段傳來畓上北二作臨字畓四斗落結卜十卜六
來麁價折錢文四十伍兩依數交易捧上是遣舊文記并
付他田文記故以新文記一張永永放賣爲去乎日後諸
子孫中若有異說則持此文憑考爲乎乙事

畓主 潤良 金昌龍 押
證人 金大甲 押

朝鮮總督府

咸豐六年丙辰十一月二十三日趙龍石前明文

右明文事段切有緊用故衿得畓上北二作鳳字畓

二斗五升落只十三卜麁折價錢文參拾捌兩交易捧上是

遣本文記叱他處并付故以新文一丈永々放賣爲去乎日

後若有他言之弊則持此文記告官卞正事

畓主自筆幼學田性直 押

證人 張仁孫 押

朝鮮總督府

同治九年庚午十月十七日田生員宅宗中前明文

右明文事段自己買得耕食是如乎在上北二作鳳字畓二斗五升落只所耕十三卜庫乙價折錢文四十兩依數捧上是遣本文記一丈併永永放賣為去乎日後子孫族屬中若有他言則以此文記告官卞正事

畓主 趙龍石 押

證人 金君甫 押

朝鮮總督府

文記寫

平壤及新義州ノ分

平壤府文祀區

朝鮮總督府

道光二十一年辛丑十一月初九日明文

右明文爲卧乎事段要用所致以石串面四里芝浦員崔元恒處買得當指陸斗落只并穩田伍斗落只庫四標段東金守南李仁植西徐卜興北金復春同員吳彥奄買得水田貳斗落只庫四標段東邊田畓西金致烈北金致烈南池學林為等四標內田畓兩作庫價折錢文肆百兩依數捧上為遣府居 處本文記并續永遠放賣為去乎日後若有雜談隅則持此文記下正事

田畓主放賣主 金宗樽 [印]

證 金宗鷹

筆 咸錫範

朝鮮總督府

咸豐元年辛亥十一月廿四日 明文

右明文爲臥乎事段以要用所致乙畢四字
艾浦員金廣樟處買得畓十六斗落只田五斗
落只庫四標段東金達叟南李根本西崔哥
翼北金召叟又於同員北畓二斗落只庫四標段
東李仁基南小浦西許碩北邊哥永爲字如標
內田畓三作之庫乙價折錢文肆佰伍拾兩准乎
捧上是遣右府居本文記并以爲納永遠
放賣爲去乎日後良中若有雜談隅則持此
文記卞正事

田水田放賣主 金氏
證 邊得云 白
筆 崔仁壽

道光二年三月二十八日金景誥前明文

右明文為臥乎事段要用所致以理之項員左田貳斗落只庄 四標後東朴戡範田垂屋舍後田南墓山北渠西井田內庄洞新錢文貳拾伍兩依數捧上為遣右文記一丈并以右人處永永放賣為去乎日後良中若有雜從隅則此文記示正事

花田敬貴主 蔡時茂 表不着

筆執 閔周權 手

道光三十年庚戌十二月十三日 明文

右明文爲臥乎事段 要用事以 邑東三里

琴項員[illegible]得 [illegible]安坪 二斗落只 庫四標段

東廉致[illegible]南小路 西路 北廉[illegible] 爲田界 [illegible]標

內田庫乙 価折錢文拾柒兩準數捧上是遣

府居 [illegible]放賣爲乎矣 本文因[illegible]

文記北[illegible]文 [illegible] 爲去乎 日後官中

若有雜談則此文記爲[illegible]

自筆田放賣主 金[illegible]勳

證 金宗學

孫字第四千四百四[illegible] 一卜 東九束

金[illegible] 指揮一石

朝鮮總督府

同治十二年癸酉二月十七日 乾畓明文

右明文為臥乎事段 以要用所致 居串坊三里坪
坊前乾畓㩳斗落只庫四種 年事屋賢甫
西犢至 南盧甫 北賣主 為等如標內乾畓
庫乙 價折錢文肆兩 依西作 捧上是遣 府
后 家業永遠放賣為去乎 日後良中 若有
雜談 隔 不持此文紀示亦乎事

本文紀一張 並給

乾畓賣主 許海 [sign]
證人 林先九
筆執 朴興喜

朝鮮總督府

道光五年乙酉三月二十日 明文

右明文爲臥乎事段要用所致以應串三邑
買得負金允能買得水畓捌斗落只庫四標
段東李宰淵西李宰元南李宰淵北
朴周臣爲去如標內水畓庫乙價折錢文
壹百兩准數捧上爲遣右處
永遠放賣爲去乎本文記段他水畓并付
仍與不得爲去乎日後若有雜談是去等將此
明文憑考事

自筆 水畓放賣 金 朱貞 富

證人 金 日

金志

大韓光武五年辛丑十月十五日 [花田] 明文

右明文爲臥乎事段以要用所致南陽府

西面下五里阿次島員花田陸斗落只庫西

標段東根鎭田南金喆鳳田北黃元永田西

黃元永田爲等如標內田庫乙伊折錢文伍

佰兩依準數捧上是遣本文記段存在處所遺

段置爲去乎良中若有雜談是則持

此文記卞正事

證 金洛發

自筆花田放賣主金璣鎭

朝鮮總督府

一字附

隆熙二年四月十九日 田明文

右明文爲卧乎事段以要用所致南秦山面
下五里構坪員金仲彦處買得要米田六斗
落四庫四標段東北路南金謙奉田西小路
北黃允瑩田爲等如標內田畓價折錢文
壹仟伍拾兩准乎數捧上是遣右人處永
遠放賣爲去乎日後若有雜談隔則
持此文記卞正事

證 金典鎮 (印)
金時悅 (印)
自筆田發賣主 金極鎮 (印)

朝鮮總督府

朝鮮總督府

秋乙美面三里 善井洞十五統四戶
發 李昌彩
仝 〃 〃



朝鮮總督府

中媒地文記

年　月　〃　如〃〃　受中媒地明文

右明文事段平壤府居東面四里某員所在

某人處買得某字号乾畓拾斗落只庫

四標段東金哥畓南浦西京畓北路為

界如票内庫乙価折錢文壱百五拾円所有

中媒地~~畓~~放賣日后若有雜說以此文記

為憑事

中媒地主　〃〃

証人　〃〃〃

筆　〃〃〃

朝鮮總督府

中賭地ノ在ル土地ノ文記

中賭地ノ在ル土地ニ於テ普通土地ノ買賣ニ有テハ無賭地ト書ス

年　月　日　處當明文

（有賭地／無賭地）右明文事段平壤府應串面三里艾浦員所在

故處買得乾畓拾斗落只庫東金氏畓南小路

西同從北浦為界如累內庫價折錢文六百兩準

數捧上永遠放賣日後若有異端以此文記下

正事

當故賣主　ㄴ　ㄴ　ㄴ

証人　ㄴ　ㄴ　ㄴ

筆　ㄴ　ㄴ　ㄴ

地已力
賭地ノ買收

年 月 日 明文

右明文事段 平壤府南嶔山西四里月島員所在
金〃〃 買得耕當於吾手移只庫 東江南
李〃〃 當西山路出臨〃〃〃 當為書如前內庫折
錢文九百兩準數捧上并賭地〃〃〃 永〃放
賣日後若有異端以此文記告正事

當放賣主 〃〃〃
證人 〃〃〃
筆 〃〃〃

光武二年戊戌二月初一日 處文明

右明文事段移買次自己妻得田畓

在於先城乜面浦里五畓員松針

垌西邊員一行斗四斗五升寄庫四標

段東黃今九畓東黃正文畓西禮垌

此東秀京畓又於面浦里上居員田

二時耕庫四標段東金藏奉諸畑

田東小路西李同守畓北大路四標分

明這如價折則錢文四百兩准計

捧上是遣田畓本文記二丈並以右人

處永遠放賣為去乎日後彼此中

雜談陽是去等持此文記告
官卞正事
自筆田畓放賣主 禹秉奎 (手決)
證 崔右成 (手決)

嘉慶拾參年戊辰十二月初六日 安遇弘處明文
右明文移買於妻崔氏自己買得田
伏在於松五長屯射山國池合今東邊
員耕作平田貳日半時耕庫員標段
東文三章基山東小路及鄭楚光田
及買主田西渠及文哲田出畓及文哲
田四標遂良價折錢文壹百兩準計
捧上是遣本文記三張並明右人處
永遠放賣爲去乎日後彼此雜談
陽是去等持此文記告官卞正
事
田放賣主 金陽哲 (血)
證 車慶光 (手)

朝鮮總督府

筆執、

李泰岩　韓光紹

啓

平安北道

朝鮮總督府

慣習調查手记

8258號